

BigFix
Software Distribution ユーザーズ・ガイド



Special notice

Before using this information and the product it supports, read the information in [Notices](#).

Edition notice

This edition applies to BigFix version 10 and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

目次

第 1 章. 概要	6
ソフトウェア配信の新機能	6
システム要件	13
サポートされるパッケージ・タイプ	13
第 2 章. ベスト・プラクティス	15
ポリシー・ベースの配信	15
許可	15
前提条件	15
サイト組織	16
第 3 章. ダッシュボードの概要	17
「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボード	17
「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボード	18
「セルフ・サービス・ポータル登録管理」ダッシュボード (非推奨)	19
Software Offers のクライアント・ダッシュボード (非推奨)	21
第 4 章. パッケージの管理	24
Unicode サポート	24
SHA-256 タスク変換	25
パッケージまたは Fixlet の作成	26
パッケージへのタグの追加	29
パッケージまたは Fixlet の編集	30
パッケージ・タイプの検証	38
プリインストールおよびポストインストール・コマンドの追加	38
パッケージのインポートおよびエクスポート	42
個々のタスクのログの生成	44
ソフトウェア・リポジトリのマイグレーション	46
第 5 章. アプリケーション管理グループの管理	48
カスタム・サイトの作成	50
表示許可の設定	50
アプリケーション管理グループの作成	51
アプリケーション管理グループへのタスクの追加	52

「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードから.....	52
「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードから.....	55
アプリケーション管理グループへの対象の追加.....	58
アプリケーション管理グループへの除外の追加.....	61
アプリケーション管理グループのデプロイ.....	63
孤立した所有者.....	67
対応する LDAP オペレーターへのリソースの移転.....	67
別のオペレーターへのリソースの移転.....	67
ソフトウェア配信セルフ・サービス・ポータル概要 (非推奨).....	68
ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルの構成.....	70
自己署名 SSL 証明書の使用.....	76
信頼された認証局からの SSL 証明書の使用.....	76
証明書の更新.....	78
複数のトラステッド・サービス・プロバイダーおよびセルフサービス・ポータルの構成.....	78
セルフサービス・ポータル用のマルチテナント・セットアップ.....	78
各コンピューターの PIN の生成.....	82
「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用したコンピューターの登録.....	83
コンピューターの登録のブロック.....	84
ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルへのアクセス.....	85
セルフサービス・ポータルを使用したコンピューターの登録.....	86
ソフトウェア・インストールの状況.....	88
セルフサービス・ポータルからのソフトウェアのインストール.....	89
インストール履歴の表示.....	90
セルフサービス・ポータルのアンインストール.....	92
第 6 章. Microsoft Application Virtualization (非推奨).....	94
App-V クライアントのデプロイ.....	94
App-V クライアント状況の表示.....	98
App-V パッケージの配布.....	99
App-V アプリケーション使用状況の表示.....	100
付録 A. Support.....	102
付録 B. よくある質問.....	103
Notices.....	cxiv

第1章. 概要

ソフトウェア配信アプリケーションは、BigFix Software Distribution システム・ライフサイクル管理スイートの一部です。このアプリケーションにより、組織は、統合された単一の制御ポイントとストレージが最適化されたライブラリーから、デスクトップ・ソフトウェア配信プロセスの管理を改善できます。

この BigFix アーキテクチャーでは、IT スタッフが帯域幅を制御できるため、ネットワークのサイズや速度にかかわらず、ネットワーク・パフォーマンスに影響を与えることなくパッケージを配信できます。

BigFix ソフトウェア配信の最も重要なコスト節約機能と時間節約機能には、以下のようなものがあります。

- 基幹業務の帯域幅に影響を与えることなく分散ネットワーク上に大容量のファイルをプッシュする、動的およびポリシー・ベースの帯域幅スロットリング。
- 事前キャッシュ・リレー・インフラストラクチャーを使用したローミング・エンドポイントのサポート。
- 動的ネットワークと進化するネットワークを最適化する各種機能。
- エンドポイント特性に基づくインテリジェントなソフトウェア配信。
- ソフトウェア配信ウィザードとユーザーのセルフプロビジョニング。
- 既存のソフトウェア・リポジトリのサポートを含む、継続的なソフトウェア・アプリケーション・ライセンスの使用と計測。
- インフラストラクチャー要件を最小限に抑えた低コストでのスケーラビリティ。



Notes:

- ソフトウェア配信アプリケーションは、デフォルトでは、インストールのプロンプトを抑制し、ソフトウェアをサイレント・インストールするように設計されています。
- BigFix は、すべてのプログラムがソフトウェア配信を使用してインストールできることを保証するものではありません。このような場合、インストーラーの「無人インストール」ストリングに関する各ベンダーの Web サイトを確認してください。ストリングをコピーして、「ソフトウェア配信」ダッシュボードで作成される Fixlet のアクション・スクリプトに貼り付けます。ソフトウェア配信でサポートされるパッケージのリストを表示するには、[サポートされるパッケージ・タイプ](#)を参照してください。
- アクションが完了として表示されている場合でも、インストールが有効になるまでにシステムがしばらく時間を要する場合があります。ディスクがまだ回転していて、すべてのソフトウェアのインストール・ピースを終了している途中である可能性があります。完了状態になって 10 分間待機した後、システムを確認します。

ソフトウェア配信の新機能

BigFix for ソフトウェア配信アプリケーションの更新には、ソフトウェア配信サイト向けの一連の機能、改良、およびバグ修正が含まれている場合があります。

最新リリースの新機能

BigFix プラットフォーム・バージョン 9.1 以降の「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードでは、潜在的なセキュリティ脆弱性に対処するため、ファイルのアップロードにアップロード・マネージャー・ツールではなく、BigFix プラットフォームを使用するように変更されています。このため、ユーザーはファイルのアップロードが完了するまでダッシュボードにとどまる必要があります。ダッシュボードの外部でアップロード・マネージャー・ツールを使用する場合は、最新バージョンに更新する必要があります。

その他の変更:

- 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードから特定のパッケージをエクスポートできない問題を修正しました。
- 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードで作成された Fixlet が適切なタイム・スタンプで記録される問題を修正しました。
- 英語以外のシステムでコンテンツが翻訳されない Software Offers のクライアント・ダッシュボードの問題を修正しました。
- Linux BigFix デプロイメント向け Upload Maintenance Service がデータベースに接続できない問題を修正しました。
- 「ソフトウェア配信適用の結果」の分析が強化され、返される行の数が 200 から 1000 に増えました。
- 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードの文言を少し変更しました。

ソフトウェア配信アプリケーションの更新バージョン 7.2 の新機能

表 1. Software Distribution バージョン 7.2 の機能と機能拡張

フィーチャー	説明
Unicode サポート	<p>BigFix バージョン 9.5 での Unicode サポートにより、BigFix server は任意の言語をサポートできます。ただし、Fixlet では Unicode はサポートされていません。複数の言語が検出された場合の警告メッセージが「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードに追加されました。このメッセージは、サポートされていない Unicode 文字に関連する以下のシナリオで表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フィールドに Unicode 文字が含まれているパッケージを作成、編集、またはコピーする場合。 • 名前に Unicode 文字が含まれているファイルをアップロードする場合。 • ユーザーが指定した圧縮ファイル名に Unicode 文字が含まれているフォルダーをアップロードする場合。 • ユーザーが指定したファイル名に Unicode 文字が含まれているファイル URL を追加する場合。 • ユーザーが Unicode 文字を含むアクション・スクリプトまたは関連度を手動で入力する Fixlet を作成する場合。 • ファイル名に Unicode 文字が含まれているパッケージからデフォルト・タスクを作成する場合。

表 1. Software Distribution バージョン 7.2 の機能と機能拡張 (続く)

フィーチャー	説明
既知のバグ	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードでは、偽陰性評価が原因でサポート対象外の Unicode 文字にサポート対象のフラグが設定される場合があります。サポートされない Unicode 文字を検索するためのチェックは非常に広範です。サポートされる文字が一部の環境で制限される場合があります。 パッケージ・フォルダー内のいずれかのファイルに、BigFix サーバーで設定されている言語とは異なる文字が含まれている場合、エラーが発生します。Unicode 文字を含む名前を持つファイルがパッケージに含まれている可能性がある場合、そのパッケージのフォルダーの内容をチェックする方法はありません。
パッケージ・ファイル URL ソース・オプション	<p>HCL ソフトウェア配信チームは、ファイルの URL を使用してパッケージにファイルを追加する機能を最近リリースしました。「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードで使用できるこのオプションで、ファイルをすぐにダウンロードするか、Fixlet の実行中にダウンロードするかを選択できます。</p>
バグの修正	<ul style="list-style-type: none"> 名前とメタデータに文字列 “%00” が含まれるファイルをアップロードする際の「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードの問題を修正しました。 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードで不適切な形式の OSD ファイルをアップロードすると、エラーが表示される問題を修正しました。

ソフトウェア配信アプリケーションの更新バージョン 7.1 の新機能


表 2. ソフトウェア配信バージョン 7.1 の機能と機能拡張

フィーチャー	説明
インポートおよびエクスポートの進行状況インジケータ	<p>パッケージのインポートおよびエクスポート機能の進行状況を追跡できるようになりました。インポートおよびエクスポート機能の詳細については、『パッケージのインポートおよびエクスポート』を参照してください。</p>
エクスポートされたパッケージの名前変更	<p>デフォルトのファイル名形式を使用したくない場合にエクスポートされたパッケージのファイル名を変更できるようになりました。詳しくは、『パッケージのエクスポート』を参照してください。</p>

表 2. ソフトウェア配信バージョン 7.1 の機能と機能拡張 (続く)

フィーチャー	説明
アプリケーション管理グループのデプロイメント・タイプの変更	アプリケーション管理グループのタスク・デプロイメント・タイプを、最初に削除せずに変更できるようになりました。
DMG パッケージ・ファイル・タイプの拡張オプション	DMG ファイル・タイプで使えるオプションが追加されました。これらのオプションは配信タスクの作成時に設定できます。詳しくは、『 配信リストの作成 』を参照してください。
バグの修正	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードでフォルダーのアップロードに失敗する問題と、圧縮フォルダーの無効な文字が原因で Fixlets が失敗する問題を修正しました。 ・複数の圧縮フォルダーを参照する Fixlet がすべてのフォルダーを適切に展開できない問題を修正しました。 ・特定のパッケージを Linux BigFix サーバーにエクスポートできない問題を修正しました。 ・Windows 2003 システムで Upload Maintenance Service を実行できない問題を修正しました。 ・Software Offers のクライアント・ダッシュボードの「BES クライアント UI」ウィンドウで「提案」タブが完全に展開されない問題を修正しました。 ・特定の Windows BigFix デプロイメントでファイルのアップロードが保留中のままになる問題を修正しました。 ・特定の MSI ファイルをアップロードできない問題を修正しました。 ・セルフサービス・ポータル (SSP) での cookie オーバーフローの問題を修正しました。 ・SSP でマスター以外のオペレーターがタスクをデプロイできない問題を修正しました。TSP を更新し、SSP から発行されたタスクに対する追加の構成設定をサポートしました。 ・Upload Manager ユーティリティが更新され、32ビット Windows システムで発生するポップアップが削除されました。 ・Upload Manager ユーティリティで圧縮フォルダーのファイルに元のファイルとは異なるタイム・スタンプが設定される問題を修正しました。 ・「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードのインポートおよびエクスポート機能で使われる <code>zip</code> および <code>unzip</code> ユーティリティがソフトウェア配信サイトでホストされ、いつでもダウンロードできるようになりました。 ・SSP でキャッシュされることを意図していないページがキャッシュされる問題を修正しました。

表 2. ソフトウェア配信バージョン 7.1 の機能と機能拡張 (続く)

フィーチャー	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア配信のダウンロード・プラグインとアップロード保守サービス Fixlets にの関連度の問題を修正しました。Fixlet が適切なシステムにのみ関連するようになりました。 ・圧縮フォルダー名に特定の文字が含まれている場合に actionscript が失敗する問題を修正しました。 ・ログ・ファイルが存在する場合に actionscript が失敗する問題を修正しました。 ・「ソフトウェア配信」ダッシュボードを使用して Fixlet を編集するときに特定のパラメーターが表示されない問題を修正しました。 ・Fixlet actionscript がデフォルト・アクションとしてマークされている場合に「ソフトウェア配信」ダッシュボードで Fixlet を編集できない問題を修正しました。 ・アプリケーション管理グループ内の特定の文字が原因でデプロイメントが失敗する問題を修正しました。 ・パッケージ・エクスポート・プロセスが実際には成功しているにもかかわらず「失敗」と表示される問題を修正しました。 ・SPB パラメーター内の特定の文字が原因でデプロイメントが失敗する問題を修正しました。 ・オペレーターがもう存在しない「アプリケーション管理グループ」タスクの警告メッセージを改善しました。 ・マスター以外のオペレーターがマスター・オペレーターのタスクを編集しようとしたときのエラー・メッセージを改善しました。
	<p> 注: トラステッド・サービス・プロバイダー (TSP) が更新されました。TSP のユーザーは、このコンポーネントをアップグレードする必要があります。「Fixlet 200: トラステッド・サービス・プロバイダー」のアップグレードを使用してください。</p>

ソフトウェア配信アプリケーションの更新バージョン 7.0 の新機能

Software Distribution の更新 V 7.0 には、以下の新機能と機能拡張が含まれています。

表 3. ソフトウェア配信バージョン 7.0 の機能と機能拡張

フィーチャー	説明
AIX システムの SPB サポート	BigFix for ソフトウェア配信では、Windows および Linux システムの SPB サポートに加えて、BigFix プラットフォームでサポートされる AIX エンドポイントに SPB ファイルをデプロイできるようになりました。プラットフォームでサポートされ

表 3. ソフトウェア配信バージョン 7.0 の機能と機能拡張 (続く)

フィーチャー	説明
	<p>るクライアントの完全なリストについては、『http://support.bigfix.com/cgi-bin/redir.pl?page=besclients-nonwindows』を参照してください。</p> <p>SPB ファイルを AIX エンドポイントにインストールするタスクは、「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードから作成してデプロイできます。</p>
Microsoft Application Virtualization (App-V) バージョン 5.0 のサポート	BigFix for ソフトウェア配信で、App-V バージョン 5.0 のパッケージの配信と管理がサポートされるようになりました。
プリインストールおよびポストインストール・コマンド	タスクの作成後にタスクを編集するのではなく、ウィザードを使用してインストール・タスクの作成時に追加のコマンドを組み込むことができるようになりました。
パッケージのインポートおよびエクスポート	<p>あるデプロイメントから作成されたパッケージをエクスポートして別のデプロイメントにインポートすることが、いくつかのボタンをクリックするだけで簡単にできるようになりました。この機能を使用すると、必要なパッケージを手動で再作成する時間を節約できます。詳しくは、『パッケージのインポートおよびエクスポート』を参照してください。</p> <p>このマイグレーション機能は BigFix バージョン 9.1 以降で使用できます。</p>
アップロードされたフォルダーの名前変更	この機能は、コンテンツのフォルダー全体をパッケージに追加するときにネストされたフォルダーを圧縮することを選択した場合に使用できます。
追加の actionscript 終了マーカー	<p>「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードから作成されたタスクに、識別を容易にするための追加の終了マーカーが含まれるようになりました。終了マーカーは、ユーザーがタスクを編集するたびに更新される actionscript の最終ステップを識別します。</p> <p> 注: actionscript に対して行ったカスタム変更が上書きされないように、マーカーの外にあることを確認してください。</p> <p>マーカーについて詳しくは、KB の記事「SWG21668807」(HCL ソフトウェア)を参照してください。</p>
Upload Manager のロギング機能	<p>トラブルシューティングのため、インストール・ファイルをアップロードするための新しいログが用意されています。</p> <p>「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードからソフトウェア・パッケージをアップロードする場合は、<code><Windows Temp>\SoftwareDistributionLogs\Uploadmanager</code> にあるログにアクセスします。</p>

表 3. ソフトウェア配信バージョン 7.0 の機能と機能拡張 (続く)

フィーチャー	説明
	<p>BigFix コンソールの外部からソフトウェア・パッケージをアップロードする場合は、コマンド・ラインから以下のスイッチを使用してログにアクセスします。</p> <pre>- log <log file></pre> <p>Upload Manager について詳しくは、『ソフトウェア・リポジトリのマイグレーション』を参照してください。</p>
バグの修正	<ul style="list-style-type: none"> Linux Upload Maintenance Service のプロセス・モニターにデータベース・パスワードが表示されなくなりました。 ソフトウェア配信タスクを編集するときに、“「システム・ユーザーとして実行」”と“「現在のユーザーとして実行」”の切り替えが意図したとおりに動作するようになりました。 UNIX システムでインストール・コマンドが機能しない問題を修正しました。 <p> 注: Linux BigFix サーバーの Upload Maintenance Service を更新する必要があります。「Fixlet 6:TEM サーバー: TEM Upload Maintenance Service のアップグレード」を使用してください。</p>

ソフトウェア配信アプリケーションの更新バージョン 6.0 の新機能

ソフトウェア配信の更新 V 6.0 には、以下の新機能と機能拡張が含まれています。

表 4. ソフトウェア配信バージョン 6.0 の機能と機能拡張

フィーチャー	説明
Solaris での PKG ファイルのインストールのサポート	PKG ファイルを Solaris エンドポイントにインストールするタスクを「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードから作成してデプロイできるようになりました。
AIX および Solaris のセルフサービス・ポータル (SSP) のサポート	SSP では、AIX および Solaris オペレーティング・システムでコンピューターを追加および削除できるようになりました。また、「SSP 登録管理」ダッシュボードでユーザーをこれらのマシンからユーザーをブロックできます。
「SSP 登録管理」ダッシュボードの機能拡張	スクロール・ビューでコンピューターの検索、ソート、およびページングを行うことで、ダッシュボードのパフォーマンスを高めることができました。
デプロイ時に変更可能な SPB 変数	SPB ファイルを使用したソフトウェア配信タスクでは、カスタマイズ可能なタスクの作成を可能にする変数テンプレートの作成がサポートされます。

表 4. ソフトウェア配信バージョン 6.0 の機能と機能拡張 (続く)

フィーチャー	説明
インストール・ファイルのカスタム・ディレクトリーのサポート	ソフトウェア配信タスクで、デフォルト・ロケーションを使用する代わりに、ファイルをダウンロードして実行するためのカスタム・ファイル・パス・ロケーションを指定できるようになりました。



注: 「ソフトウェア配信」ダッシュボードから作成された、SHA-1 検証を使用する古いタスクを、SHA-256 検証を使用できるタスクに自動的に変換する拡張オプション。詳しくは、『[SHA-256 タスク変換](#)』を参照してください。

システム要件

BigFix Software Distribution アプリケーションでは、BigFix プラットフォームでサポートされるすべてのオペレーティング・システムがサポートされます。

BigFix Software Distribution のシステム要件の詳細なリストについては、「[詳細なシステム要件](#)」を参照してください。

サポートされるパッケージ・タイプ

BigFix Software Distribution では、どのようなファイル・タイプであってもデプロイできます。パッケージ・インストール・コマンドの自動生成は、さまざまなエンドポイントにデプロイできるさまざまなパッケージ・タイプでサポートされます。

最新バージョンの BigFix Software Distribution では、以下のファイル・タイプがサポートされます。

- BAT
- CMD
- DMG (Mac の場合)
- EXE
- MSI
- MSP
- OSD
- PKG (Mac および Solaris の場合)
- RPM (Linux および AIX の場合)
- SPB (非推奨)
- Microsoft Application Virtualization (App-V)

以下の App-v クライアントおよびパッケージがサポートされています。

- 4.5 SP1
- 4.5 SP2
- 4.6 Gold (32 および 64 ビット)

- 4.6 SP1 (32 および 64 ビット)
- 5.0 Gold (32 および 64 ビット)



Notes:

- Windows、Linux、および AIX の SPB ファイル・タイプは、BigFix Software Distribution ではサポートされなくなりました。
- エンドポイントに Mac `.pkg` ファイルがインストールされているかどうかを確認するインスペクターはまだ使用できません。
- Mac PKG タスクのポリシー・アクション・タイプは、ソフトウェア配信タスク・デプロイメント・プロセスではサポートされていません。

第2章. ベスト・プラクティス

BigFix Software Distribution の使用を最適に最適化する方法について説明します。

この製品の使用方法については、こちらの情報を参考にしてください。

ポリシー・ベースの配信

ポリシーを使用してパッケージのインストールを実行するには、クライアント設定を使用します。

クライアント設定は、BigFix プラットフォームによってさまざまな方法で使用できる、クロスプラットフォームのデータ・タグです。たとえば、「ロール」というクライアント設定を「ファシリティ管理」に設定し、その条件を持つ Windows システムに Autodesk クライアントをインストールするアクションを表示できます。このプラクティスにより、予測可能で集中管理された役割ベースのソフトウェア・プロビジョニングが可能になり、OS の再イメージまたはマイグレーション後に必要な状態に素早く戻ることができます。

許可

システム管理アカウントでソフトウェアのインストールをテストします。

Windows™ システムでは、BigFix はデフォルトで *LocalSystem* アカウントにソフトウェアをインストールします。Mac OS X、Linux™、または UNIX™ システムでは、ソフトウェアは *root* アカウントにインストールされます。そのため、これらのアカウントでソフトウェアのインストールを必ずテストして、正しく動作することを確認してください。

ソフトウェア・パッケージが *LocalSystem* にインストールされていない場合は、`runascurrentuser.exe` ツールを実行して現在のユーザーの権限を使用します。このアクションを自動化するには、「ソフトウェア配信」ダッシュボードを使用して Fixlet を作成します。

前提条件

BigFix は、前提条件ソフトウェアの依存関係チェーンの問題を解決する、強力なベースラインの考え方を提供します。

たとえば、社内ソフトウェアの一部が特定のバージョンの Microsoft™ .Net を必要としていて、これにより Windows™ インストーラーのアップグレードが必要になる場合があります。また、Windows™ に Service Pack 3 がインストールされていない場合は、パッチが必要になることもあります。この前提条件チェーンを定義するには、これらの4つの関連する Fixlet を1つのベースラインにバンドルします。システムに何らかのベースラインのコンポーネントが欠落している場合には、それをインストールし、システムが一部またはすべての前提条件を満たしている場合には、そのステップを省略して次に進むことができます。対象のシステムすべてが、1回のアクションで同じ終了状態になります。

ベースラインの作成について詳しくは、『[BigFixコンソール・オペレーター・ガイド](#)』を参照してください。

サイト組織

カスタム・サイトを使用して、生成したタスクを構成し、パフォーマンスとユーザービリティを向上させます。

カスタム・サイトを使用して、デプロイメント内のコンテンツを分類します。カスタム・サイトは、BigFix のインストールのリソース使用量を調整するのに役立ちます。カスタム・サイトの作成について詳しくは、『[BigFix コンソール・オペレーター・ガイド](#)』を参照してください。

第3章. ダッシュボードの概要

BigFix ソフトウェア配信には、デプロイメント内のソフトウェア配信タスクを管理するためのダッシュボードがいくつか用意されています。

これらのダッシュボードの機能と、ダッシュボードにコンソールからアクセスする方法について説明します。

「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボード

「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードは、デプロイメント中のソフトウェア管理に関連する一般的なタスクを実行できるツールです。

ダッシュボードを使用可能にするには、「ソフトウェア配信セットアップ」ノードの下にある「サーバー・ツールのインストール」にリストされたタスクを、デプロイする必要があります。

これらのタスクには、以下のものが含まれます。

- BigFix Server: ソフトウェア配信用のダウンロード・プラグインを登録します。



注:

- ダッシュボードは、Internet Explorer 11 のみをサポートします。
- 他のサービスの実行をスケジュールするプラグイン・サービス・タスクを、他のセットアップ・タスクよりも先に実行する必要があります。
- 「BigFix Server: ソフトウェア配信用のダウンロード・プラグインの登録」タスクを RHEL 8 オペレーティング・システムにインストールするには、以下のコマンド行を使用してライブラリー `libnsl.so.1` を手動でインストールする必要があります。

```
yum install libnsl
```

- 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードを使用するためにサポートされる BigFix Server の最小バージョンは、9.2.21.22、9.5.17.94、10.0.2.52 以上です。

これらのタスクは、BigFix Server および Web レポートとの通信を必要とするプロセスの自動化を支援します。

これらのタスクは、現在インストールされていない場合にのみリスト・パネルに表示されます。

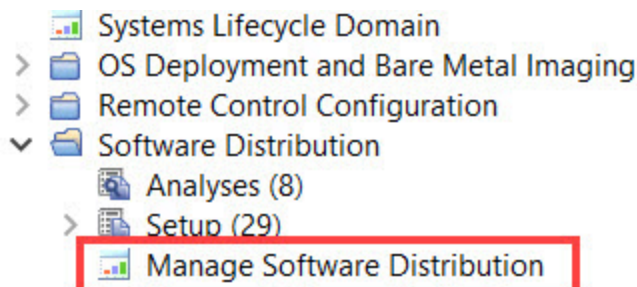
タスクをインストールするには、各タスクをクリックしてタスク・ウィンドウを開きます。次に、以下の図に示すように、該当するタスク・ウィンドウの「アクション」ボックス内のリンクをクリックします。「アクションの実行」ダイアログが開きます。タスクごとにパラメーターをそれぞれ指定できます。

「アクションの実行」ダイアログについて詳しくは、『[BigFixコンソール・オペレーター・ガイド](#)』を参照してください。

ダッシュボードの場所

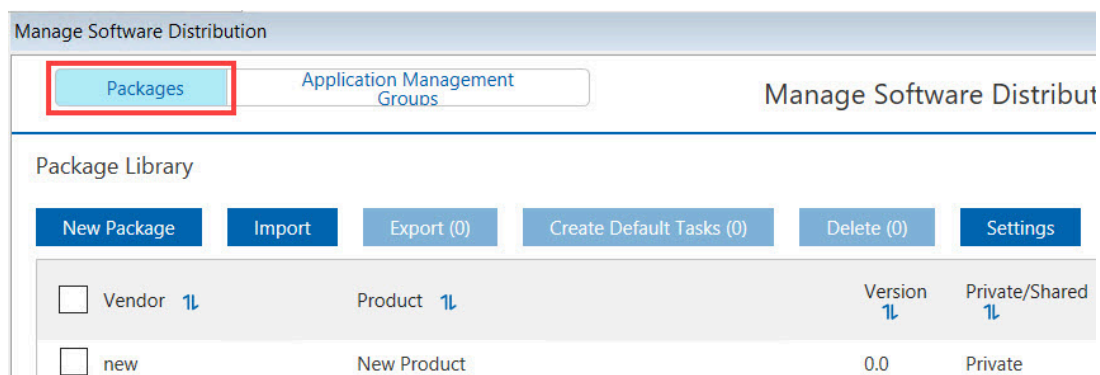
「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードには、「システム・ライフサイクル」ドメインの「ソフトウェア配信」ナビゲーション・ツリーからアクセスできます。

図 1. ソフトウェア配信のナビゲーション・ツリー



「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードは、「パッケージ」タブの下に表示されます。

図 2. 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボード



「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボード

「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードを使用すると、オファーを管理して、ネットワーク内の特定のコンピューター・グループにデプロイできます。

オファーには、エンドポイント・ユーザーが各自のマシンにインストールできるソフトウェアのリストが含まれています。「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードから、オファーを追加したりグループ化したりできます。エンドポイント・ユーザーは、以下のオプションから、使用可能なオファーを表示してインストールできます。

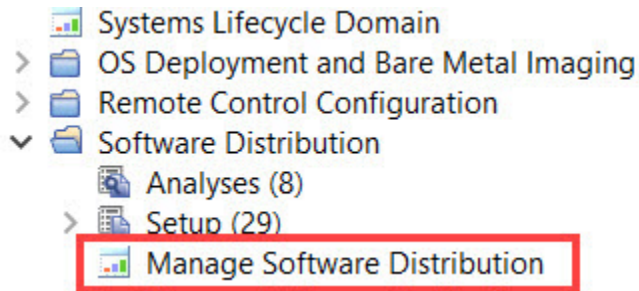
- ・クライアント・ダッシュボード。クライアント・ダッシュボードについて詳しくは、『[Software Offers のクライアント・ダッシュボード \(非推奨\)](#)』を参照してください。
- ・ソフトウェア配信セルフサービス・ポータル。詳しくは、『[ソフトウェア配信セルフ・サービス・ポータルの概要 \(非推奨\)](#)』を参照してください。



注: ダッシュボードは、Internet Explorer 11 のみをサポートします。

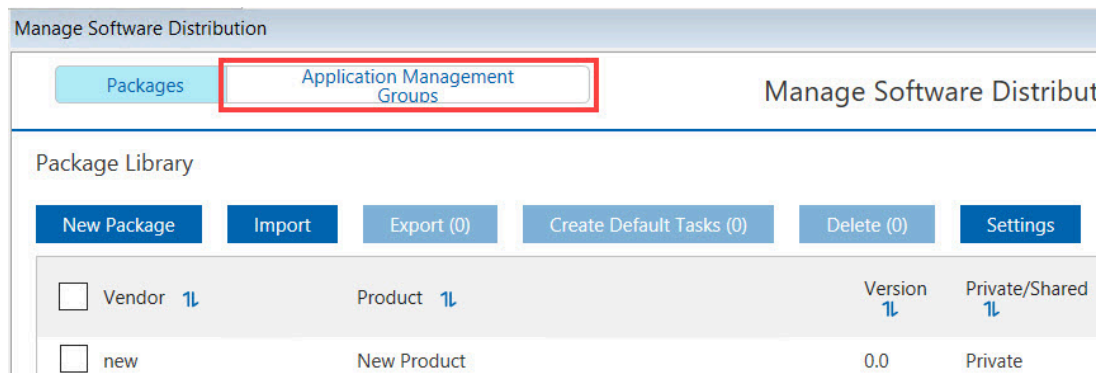
「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードには、「システム・ライフサイクル」ドメインの「ソフトウェア配信」ナビゲーション・ツリーからアクセスできます。

図 3. ソフトウェア配信のナビゲーション・ツリー



「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードは、「アプリケーション管理グループ」タブの下に表示されます。

図 4. 「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボード



「セルフ・サービス・ポータル登録管理」ダッシュボード (非推奨)

この機能は非推奨です。

コンソール・オペレーターは、登録済みコンピューターを削除したり、エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルに特定のコンピューターを登録できないようにしたりする場合には、主にこのダッシュボードを使用する必要があります。「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードでは、以下のオペレーティング・システム上のコンピューターがサポートされます。

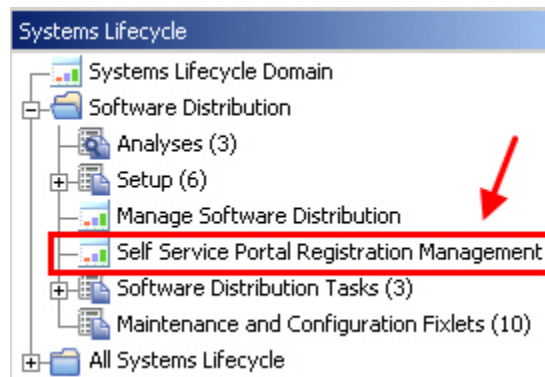
- Windows
- Mac
- Linux
- AIX
- Solaris

オペレーターは、このダッシュボードを使用してエンドポイント・ユーザーにコンピューターを登録し、エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルからソフトウェアをインストール可能にすることもできます。ただし、エンドポイント・ユーザーは、ポータルからコンピューター登録を完了する必要があります。

ダッシュボードの場所

このダッシュボードには、「システム・ライフサイクル」ドメインの「ソフトウェア配信」ナビゲーション・ツリーからアクセスできます。

図 5. ナビゲーション・ツリーから「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードにアクセスする。



登録とブロック

使用可能な登録またはブロック方法は、リスト・ビューによって異なります。ダッシュボードには以下の表示オプションがあります。

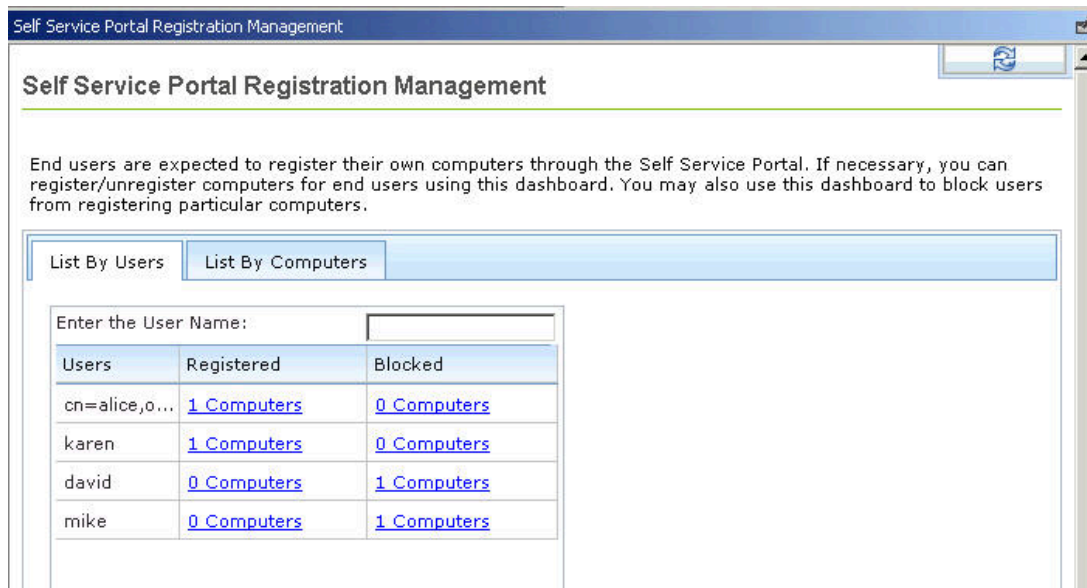
ユーザー別リスト

コンピューターを登録リストまたはブロック・リストに追加するには、このビューを使用します。

コンピューター別リスト

ユーザーを登録リストまたはブロック・リストに追加するには、このビューを使用します。

図 6. 「セルフ・サービス・ポータル登録管理」ダッシュボード



詳しくは、次を参照してください。

- ブロックについては、『[コンピューターの登録のブロック](#)』を参照してください。
- 登録については、『[「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用したコンピューターの登録](#)』を参照してください。

登録済みのコンピューターまたはユーザーの削除

リストからコンピューターまたはユーザーを見つけやすくするには、コンピューター名またはユーザー名で検索またはソートします。

以下の方法で、コンピューターまたはユーザーを登録から削除できます。

コンピューターまたはユーザーを登録リストから削除する

削除すると、エンドポイント・ユーザーはセルフサービス・ポータルからコンピューターを自分で再登録できるようになります。

コンピューターまたはユーザーをブロック・リストに追加する

ブロックされたコンピューターは、セルフサービス・ポータルに表示される登録済みコンピューターのリストから削除されます。コンピューターまたはユーザーをブロック・リストに追加すると、エンドポイント・ユーザーはコンピューターを自分で再登録できなくなります。

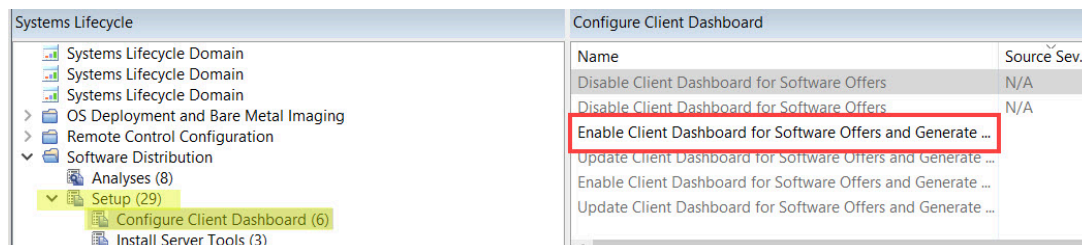
Software Offers のクライアント・ダッシュボード (非推奨)

Software Offers のクライアント・ダッシュボードでは、エンドポイント・ユーザーが使用可能になった Software Offers を選択して受け入れることができます。

ソフトウェア・オファーは、通常のアクションと同様の方法で機能します。ただし、エンドポイント・ユーザーがソフトウェアのインストールを選択するまで、デプロイメントは実行されません。

エンドポイント・ユーザーがダッシュボードにアクセスできるようにするには、各エンドポイントに「**Software Offers のクライアント・ダッシュボードの有効化**」タスクをデプロイする必要があります。このタスクは、「ソフトウェア配信の設定」ノードの「クライアント・ダッシュボードの設定」の下にリストされています。

図 7. 「Software Offers のクライアント・ダッシュボードの有効化」タスク・ナビゲーション・ツリー



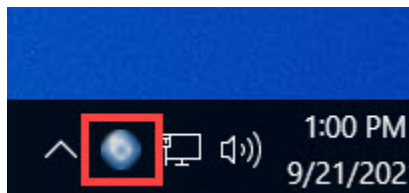
「Software Offers のクライアント・ダッシュボードの有効化」タスクは、このタスクが現在インストールされていない場合にのみ、リスト・パネルに表示されます。

ダッシュボードの場所

エンドポイント・ユーザーは、Windows 上のシステム・トレイからダッシュボードにアクセスできます。

Bigfix アイコンをクリックして、BigFix サポート・センターを開きます。

図 8. Windows システム・トレイ上の BigFix サポート・センター

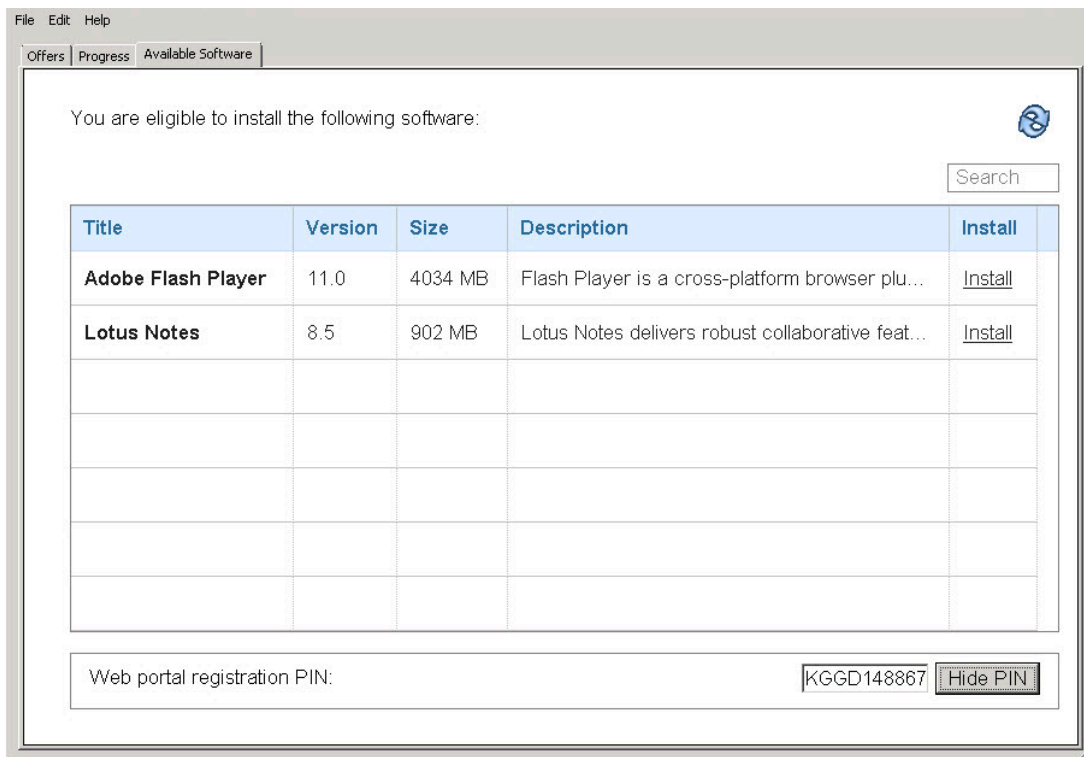


注: BigFix アイコンを設定できます。詳しくは、『[BigFix構成ガイド](#)』の「クライアント・アイコンの変更」を参照してください。

ソフトウェア・オファーが「**使用可能なソフトウェア**」タブに表示されます。エンドポイント・ユーザーは、あなたから送信されたソフトウェア・パッケージを選択してインストールできます。「ソフトウェア配信パッケージの管理」および「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードから、タイトル、バージョン、サイズ、説明をカスタマイズできます。

Web ポータル登録 PIN (コンピューターに割り当てられている固有の英数字) を表示することもできます。エンドポイント・ユーザーは、この PIN を使用してセルフサービス・ポータルにコンピューターを登録します。

図 9. ソフトウェアのクライアント・ダッシュボード



第 4 章. パッケージの管理

ソフトウェア配信コンテンツをパッケージにバンドルして、デプロイメントを高速化できます。

パッケージは、ソフトウェア配信製品の重要な部分です。特定のソフトウェア製品をインストールするために必要なファイルのリストと、その製品をエンドポイントにインストールする Fixlet のリストが含まれています。

パッケージは、ファイルと Fixlet の間の管理関係を確立します。

「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードを使用して、以下の管理タスクを実行できます。

- パッケージを作成する。
- 新規パッケージに関連付けられたデフォルト・タスクを作成する。
- 既存のパッケージにファイルを追加する。
- 関連付けられた Fixlet を作成、管理する。
- ソフトウェア・パッケージにタグを追加する。
- プリインストールおよびポストインストール・コマンドを追加する。
- パッケージのインポートとエクスポート
- 個々のタスク・ログを設定する。

ダッシュボードについて詳しくは、『[「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボード](#)』を参照してください。

Unicode サポート

Unicode コンピューティング標準が完全にサポートされるため、世界のほとんどの書記体系とローカル・ページの設定で表現されるテキストを一貫性のある形式でエンコード、表現、および処理できます。

BigFix バージョン 9.5 での Unicode サポートにより、BigFix サーバーは任意の言語をサポートできます。ただし、Fixlet では Unicode はサポートされていません。

複数の言語が検出された場合の警告メッセージが「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードに追加されました。このメッセージは、サポートされていない Unicode 文字に関連する以下のシナリオで表示されます。

- フィールドに Unicode 文字が含まれているパッケージを作成、編集、またはコピーする場合。
- 名前に Unicode 文字が含まれているファイルをアップロードする場合。
- ユーザーが指定した圧縮ファイル名に Unicode 文字が含まれているフォルダーをアップロードする場合。
- ユーザーが指定したファイル名に Unicode 文字が含まれているファイル URL を追加する場合。
- ユーザーが Unicode 文字を含むアクション・スクリプトまたは関連度を手動で入力する Fixlet を作成する場合。
- ファイル名に Unicode 文字が含まれているパッケージからデフォルト・タスクを作成する場合。

既知のバグ

- ダッシュボードでは、偽陰性評価が原因でサポート対象外の Unicode 文字にサポート対象のフラグが設定される場合があります。サポートされない Unicode 文字を検索するためのチェックは非常に広範です。サポートされる文字が一部の環境で制限される場合があります。
- パッケージ・フォルダー内のいずれかのファイルに、BigFix サーバーで設定されている言語とは異なる文字が含まれている場合、エラーが発生します。Unicode 文字を含む名前を持つファイルがパッケージに含まれている可能性がある場合、そのパッケージのフォルダーの内容をチェックする方法はありません。

SHA-256 タスク変換

BigFix v9.1 から、拡張セキュリティ・オプションを構成して NIST セキュリティ標準に準拠する機能を提供しています。この設定により、デジタル署名とコンテンツ検証のハッシュ・アルゴリズムとして SHA-256 を使用できるようになります。

拡張セキュリティ・モードが有効になっているとき、SHA-256 アルゴリズムを使用してファイル・ダウンロードの整合性を検証できます。このオプションを有効にすると、SHA-256 のダウンロードが必要になり、すべての BigFix 9.1 コンポーネントは SHA-1 ハッシュのみを指定するアクションのダウンロードを処理しなくなります。セキュリティ構成について詳しくは、『[セキュリティ構成シナリオ](#)』を参照してください。

BigFix ソフトウェア配信では、「ソフトウェア配信」ダッシュボードを使用して作成されたタスクを SHA1 を使用するアルゴリズムから SHA-256 アルゴリズムに変換する方法を提供します。



注: 「ソフトウェア配信」ダッシュボードの外部でタスクを作成した場合は、カスタム・コンテンツを手動で更新して SHA-256 ハッシュを含める必要があります。

マスター・オペレーターは、どのマスター・オペレーターによって作成されたタスクも変換できますが、マスター以外のオペレーターが変換できるのは、自分が作成したタスクのみです。

依然として SHA-1 検証を使用している SWD タスクを変換するには、以下の手順を実行します。

1. BigFix 管理ツールから、拡張セキュリティ・オプションと SHA-256 ダウンロード・オプションが有効になっていることを確認します。拡張セキュリティ・オプションの設定について詳しくは、以下のソースを参照してください。

- [セキュリティ構成シナリオ - Windows システム](#)
- [セキュリティ構成シナリオ - Linux システム](#)



重要: 拡張セキュリティ・オプションを有効にすると、制限されたセキュリティ環境を構成することになり、製品のパフォーマンスに影響が出る場合があります。また、オプションを有効にした後に、BigFix の前のバージョンにロールバックすることはできません。詳しくは、『[セキュリティ構成シナリオ](#)』を参照してください。

2. 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードで、「**設定**」をクリックします。
3. 「**Sha256 変換**」をクリックして、既存のコンテンツを更新して SHA-256 ハッシュを組み込みます。


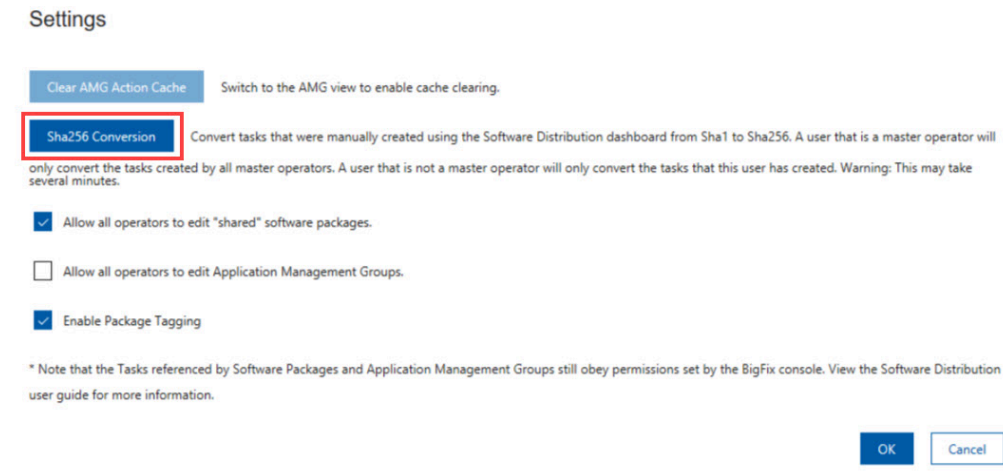
 **注:** 変換が完了するまでに数分かかる場合があります。

図 10. 「設定」 ダイアログ



Settings

Clear AMG Action Cache Switch to the AMG view to enable cache clearing.

Sha256 Conversion Convert tasks that were manually created using the Software Distribution dashboard from Sha1 to Sha256. A user that is a master operator will only convert the tasks created by all master operators. A user that is not a master operator will only convert the tasks that this user has created. Warning: This may take several minutes.

☒ Allow all operators to edit "shared" software packages.

☐ Allow all operators to edit Application Management Groups.

☒ Enable Package Tagging

* Note that the Tasks referenced by Software Packages and Application Management Groups still obey permissions set by the BigFix console. View the Software Distribution user guide for more information.

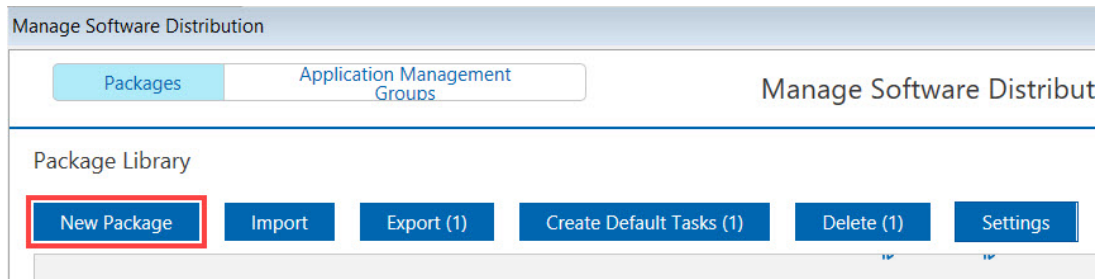
OK Cancel

パッケージまたは Fixlet の作成

特定のソフトウェア製品のインストールに必要なファイルを追加するには、事前にパッケージを作成する必要があります。

「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードで、「**新規パッケージ**」をクリックします。

図 11. 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボード - 新規パッケージ



Manage Software Distribution

Packages Application Management Groups

Manage Software Distribut

Package Library

New Package Import Export (1) Create Default Tasks (1) Delete (1) Settings

「ベンダー」、「製品」、「バージョン」、「専用/共有」、「タグ」フィールドに手動で入力します。

図 12. パッケージの追加

New Package

Vendor: Product: Version: Private/Shared:

Tag:

パッケージは、専用または共有のいずれかを指定する必要があります。共有パッケージは、すべての BigFix コンソール・オペレーターに表示されます。専用パッケージは、作成したユーザーにのみ表示されます。

該当するすべてのフィールドに入力したら、「**確認**」をクリックします。

パッケージを共有として指定すると、すべてのコンソール・オペレーターがこのパッケージを編集できるわけではありません。すべてのコンソール・オペレーターが共有パッケージを編集できるようにするには、「**設定**」をクリックします。

図 13. 設定ボタン

Manage Software Distribution

Packages Application Management Groups

Package Library

次に、「**すべてのオペレーターに共有ソフトウェア・パッケージの編集を許可**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

図 14. 共有パッケージ設定の編集

Settings

Clear AMG Action Cache Switch to the AMG view to enable cache clearing.

☐ Allow all operators to edit "shared" software packages.

☐ Allow all operators to edit Application Management Groups.

☒ Enable Package Tagging

* Note that the Tasks referenced by Software Packages and Application Management Groups still obey permissions set by the BigFix console. View the Software Distribution user guide for more information.

OK Cancel



注: タスクを編集するためのコンソール権限がない場合、「すべてのオペレーターに共有パッケージの編集を許可」オプションを設定しても、タスクを編集できません。



注: パッケージを専用にして、指定したオペレーターでタスクを共有する場合は、タスクをカスタム・サイトにコピーします。カスタム・サイトについて詳しくは、『[BigFixコンソール・オペレーター・ガイド \(新しいウィンドウで開きます\)](#)』を参照してください。

作成したパッケージは、パッケージ・ライブラリーに表示されます。

図 15. パッケージ・ライブラリーに表示される新規パッケージ

Vendor	Product	Version	Private/Shared	Creator	Owner	Last Modified	Files	Tasks	Warnings	Tag
IBM	Lotus Notes	8.5	Shared	admin	admin	2021-09-21 13:44:16	0	0		

これで、空のパッケージが作成されました。2番目のウィンドウから、この新規パッケージに関連付けるファイルと Fixlet を管理できます。次のステップでは、ファイルを追加します。詳しくは、『[パッケージまたは Fixlet の編集](#)』を参照してください。

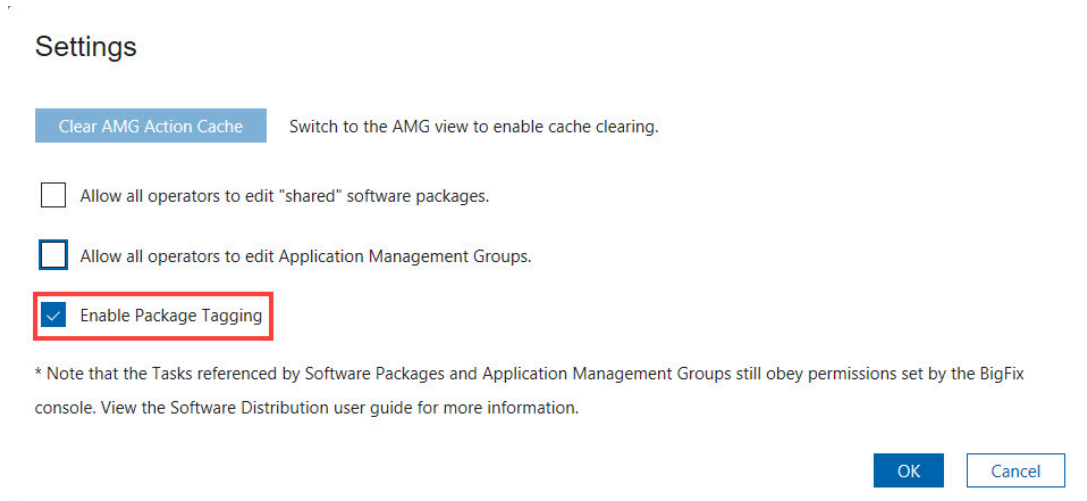
ある BigFix デプロイメントから別のデプロイメントにソフトウェア・パッケージを手動で再作成する時間を省くには、エクスポートとインポートの機能を使用します。詳しくは、『[パッケージのインポートおよびエクスポート](#)』を参照してください。

パッケージへのタグの追加

Fixlet に各パッケージを簡単に照会できるようにするには、「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードからパッケージにタグを追加します。

パッケージのタグ付け機能はデフォルトでは有効になりません。タグ付け機能を有効にするには、マスター・オペレーターは最初に「設定」をクリックし、「パッケージのタグ付けの有効化」を選択する必要があります。

図 16. 「設定」ダイアログ



パッケージにタグを追加すると、そのパッケージに関連するタスクに同じタグ値が含まれます。

パッケージのタグ付け機能は、ソフトウェア配信サイト・バージョン 48 以降で使用できます。



注: タグは大文字と小文字が区別されます。

- 新規パッケージにタグを追加するには、「**新規パッケージ**」をクリックし、「**タグ**」列にパッケージ・タグを入力します。
- 既存のパッケージにタグを追加するには、「**編集**」をクリックし、「**タグ**」列にパッケージ・タグを入力します。

タグがパッケージに追加されると、そのパッケージから生成されるすべての Fixlet に同じタグが含まれます。Fixlet には、タグ値を含む「Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME)」フィールドがあります。このフィールドを使用して Fixlet を照会できます。たとえば、以下のセッション関連度を発行して、タグ値「mytag」を持つすべての Fixlet を照会できます。

```
(name of it, id of it) of custom bes fixlets whose (mime field "x-fixlet-pkgTag"
of it = "mytag")
```

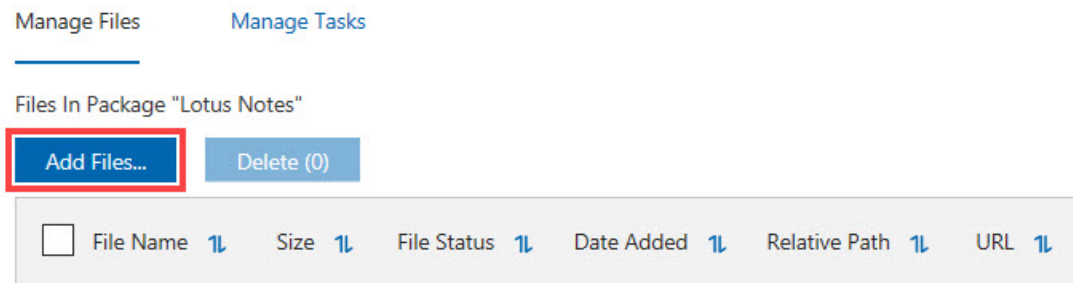
パッケージまたは Fixlet の編集

パッケージを作成した後、必要なファイルを追加して、エンドポイントにデプロイするソフトウェア製品をインストールし、その後に配信タスクを作成します。

インストール・ファイルの追加

パッケージにファイルを追加するには、「**ファイルの管理**」タブにある「**ファイルの追加**」をクリックします。

図 17. ファイルの管理



このアクションにより、ファイルとフォルダーを追加できる「**ファイルをパッケージに追加**」ウィンドウが開きます。追加できるファイルのタイプについては、『[サポートされるパッケージ・タイプ](#)』を参照してください。



注: ダッシュボードは、ユーザー名やパスワードを必要としないファイルなど、認証不要のファイルのダウンロードのみを行うことができます。



重要: IBM BigFix v9.1 以降の場合: ファイルのアップロード中は、ダッシュボードを閉じないでください。ファイルのアップロードに失敗する可能性があります。

パッケージにファイルまたはバンドルを追加するには、さまざまな方法があります。以下のいずれの方法を使っても構いません。

ファイルの追加

システムからアップロードされるファイルを 1 つ指定します。ファイル名を手動で入力するか、「**参照**」をクリックしてシステムに保存されているファイルを検索します。

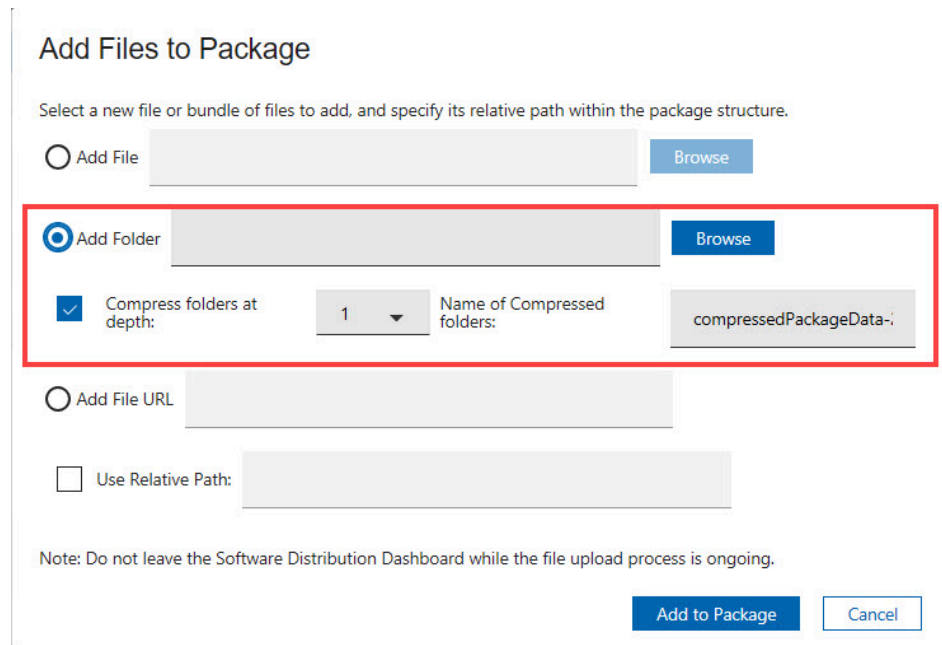
フォルダーの追加

パッケージのコンテンツであるフォルダー全体を指定します。これはシステムからアップロードされます。上記の例のように、フォルダーの名前を入力するか、システム内のフォルダーを探します。



注: ダッシュボードで圧縮できるのは、4 GB 未満のフォルダーのみです。

図 18. フォルダーからのファイルの追加



Add Files to Package

Select a new file or bundle of files to add, and specify its relative path within the package structure.

☐ Add File

☒ Add Folder


☒ Compress folders at depth: Name of Compressed folders:


☐ Add File URL

☐ Use Relative Path:

Note: Do not leave the Software Distribution Dashboard while the file upload process is ongoing.

「**フォルダーの追加**」フィールド内の「**圧縮フォルダーの階層数**」機能は、指定されたフォルダーの階層でファイルをまとめて圧縮する際に使用します。すべてのファイルを1つの圧縮ファイルにまとめるには、階層数を「0」にします。

 **注:** 最適なパフォーマンスを維持するために、50 を超えるファイルをエンドポイントにプッシュする際には圧縮機能を使用します。小容量のファイルを多数配信すると、ネットワーク帯域幅を多く使用します。大容量のファイルを少数配信すると、エンドポイント・プロセッサを多く使用します。「**圧縮フォルダーの階層数**」オプションを使用して、ご使用の環境に合わせてこのパフォーマンス制御を調整してください。

 **注:** ソフトウェア製品のインストール・ファイル追加の際にネストされたフォルダーを圧縮することを選択した場合は、パッケージにアップロードされるフォルダーの名前を変更できます。複数のフォルダーをアップロードする場合は特に、識別しやすいようにフォルダーの名前を変更しましょう。フォルダー名は、次の命名規則を使用します。

`compressedPackageData-<YYMMDDHHMM>`

ファイルの URL の追加

ファイルの URL を指定します。ファイルをただちにダウンロードするか、Fixlet 実行時間中のみダウンロードするかを選択できます。

 **注:** ファイルをただちにダウンロードして BigFix サーバーにアップロードする機能は、BigFix v9.1 以降でのみ使用可能です。

デフォルトでは、HTTPS 接続を有効にするために使用される HTTPS 証明書は、BigFix コンソールのインストール済み環境に含まれている証明書バンドルを使用して検証されます。別の証明書セットを使用する場合は、証明書セットが含まれているファイルの絶対パスを指定する、クライアント設定 `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\BigFix\EnterpriseClient\Settings\Client_Console_CACert_Path` を使用できます。たとえば、Windows システムでは `c:\BigFix1\certificates\custom-ca-bundle.crt` になります。

図 19. URL からのファイルの追加

Add Files to Package

Select a new file or bundle of files to add, and specify its relative path within the package structure.

☐ Add File

☐ Add Folder

☒ Compress folders at depth: Name of Compressed folders:

☒ Add File URL

☐ Do not download the file until Task runtime.

File Name:

SHA1:

SHA256:

Size (bytes):

Note: Do not leave the Software Distribution Dashboard while the file upload process is ongoing.

ファイルを Fixlet に関連付けて、Fixlet がデプロイされているときにのみダウンロードする場合は、「**タスクの実行時間までファイルをダウンロードしないでください。**」にチェックを入れます。その後、以下の情報を指定します。これは、Fixlet の実行時にのみ検証されます。

- ファイル名
- SHA1 値
- SHA256 値
- サイズ情報 (バイト)

正しい値を入力していることを確認してください。誤りがある場合、Fixlet のデプロイ時にコンソールからエラー・メッセージが表示されます。

パッケージの特定のフォルダーにファイルを追加する場合は、「**相対パスを使用する**」をクリックし、フォルダー・ディレクトリーを入力します。たとえば、以下の構造を持つ別の言語ファイルをパッケージに追加する場合は、`InstallPackage/Languages` を入力する必要があります。


```
InstallPackage
```

- install.exe (file)
- Languages (folder)
- jpn.srt (file)
- eng.rt (file)
- Cache (folder)

オプションを選択した後、ウィンドウの下部にある「**パッケージに追加**」ボタンをクリックします。このアクションは、パッケージのすべての情報を処理し、関連するファイルを分析してサーバーにアップロードします。

図 20. ファイル状況

Manage Files

Manage Tasks

Files In Package "Lotus Notes"

Add Files...

Delete (0)

<input type="checkbox"/>	File Name	Size	File Status	Date Added	Relative Path	URL
<input type="checkbox"/>	desktop.ini	402 B	<input checked="" type="checkbox"/>	2021-09-21 14...		

ファイル状況がチェック・マークに変更されると、アップロードが完了します。



注: ファイルのアップロードに失敗した場合は、`<Windows temp>\SoftwareDistributionLogs\Uploadmanager` のログを確認してください。ファイルのアップロードに失敗した場合は、フォルダー `<Windows temp>\SoftwareDistributionLogs` 内のログを確認してください。これは、BigFix v 9.1 以降の場合はフォルダー `Uploads` の下、BigFix v9.0 以前の場合はフォルダー `Uploadmanager` の下にあります。

配信リストの作成

パッケージの配信タスクを作成するには、「**タスクの管理**」タブをクリックします。

図 21. パッケージへの Fixlet の追加

Manage Files

Manage Tasks

Distribution Tasks for Package "Lotus Notes"

New Task...

Delete (0)

Add to AMG: (0)

Remove from AMG: (0)

<input type="checkbox"/>	Name	Owner	Tag	Created	Site	Applicable Computers	Status
--------------------------	------	-------	-----	---------	------	----------------------	--------



注: ファイルを追加した後にのみタスクを追加します。

「**新規タスク**」をクリックして「**配信タスクの作成**」ウィンドウを開きます。このウィンドウには、配信タスクに含めることができる、パッケージに関連付けられた使用可能なファイルすべてが表示されます。



注: Mac PKG タスクのポリシー・アクション・タイプは、ソフトウェア配信タスク・デプロイメント・プロセスではサポートされていません。

エンドポイントにデプロイするファイルを選択して、「**次へ**」をクリックします。

図 22. 配信タスクの作成

<input type="checkbox"/>	Name	Relative Path	URL
<input type="checkbox"/>	desktop.ini		
<input type="checkbox"/>	BESConsole.exe		

0 files included

Next Cancel

すべてのファイルが相対パスにあるタスクを作成することはできません。ソフトウェア配信タスクでは、パッケージのルートにインストール・コマンドが存在している必要があります。ファイルがルート・フォルダーにないパッケージにファイルを追加しようとすると、タスクは以下の警告を表示します。

図 23. ルート・フォルダーにないファイルがパッケージに追加されたときの警告メッセージ

Create Distribution Task

Warning: No included files have a relative path in the root directory. Installation commands are run from the relative root of the package, and installation files must be in the root.

Select the group of files you want to include in this task.

Available Files from package "BSU-8984"

<input type="checkbox"/>	Name	Relative Path	URL
<input checked="" type="checkbox"/>	Firefox Installer.exe	custom	
<input type="checkbox"/>	clamav-0.104.1.win.x64.msi	custom	
<input type="checkbox"/>	Orca.Msi	custom	
<input type="checkbox"/>	appv_v5.appv	custom	

1 files included

Next **Cancel**

「次へ」をクリックします。このウィンドウでは、エンドポイントにソフトウェア・パッケージを送信するときに使用するインストール・コマンドを定義し、配信タスクに固有のコマンド・ライン・メッセージをカスタマイズします。

図 24. インストール・コマンドの定義

Create Distribution Task

Define the installation command which will be run to install the selected software package on endpoints. The installation command will be run from the root folder of the software package.

Predefined Installation command: "BESConsole.exe"

Installation Command: "BESConsole.exe"

☒ Show Advanced Options

☐ Add custom preinstallation and postinstallation commands

☐ Create an individual log for this Task

Name of the log file:

☒ Use the default name: {Action ID}.log ☐ Use a custom name: .log

☐ Upload this log file to the Server upon completion of this Task

☐ Use custom working directory: /tmp

Run Command As:

☒ System User ☐ Current User (Windows Only) ☐ Local User (Windows Only)

Back **Next** **Cancel**



注: PKG ファイルを追加した場合は、それが Mac ファイルか Solaris ファイルかを選択します。

配信タスクに対して、以下の詳細オプションを構成することもできます。

強制インストール

このオプションは、SPB ファイルにのみ適用されます。

タスクの作成時またはデプロイメント時に、インストール・パス、フォルダー名、ファイル区切り記号などの SPB の組み込み変数の値を指定できます。

デプロイメント時に変数を変更するには、タスクの作成時に変数を選択する必要があります。選択した変数は、Fixlet の説明ページで編集できます。

カスタムのプリインストールおよびポストインストール・コマンドの追加

タスクの作成後にタスクを編集するのではなく、ダッシュボードを使用して、インストール・タスクの作成時に追加のコマンドを組み込むことができます。詳しくは、『[プリインストールおよびポストインストール・コマンドの追加](#)』を参照してください。

個々のログの作成

アクションの完了時に個々のログ・ファイルを生成するようにタスクを構成します。詳しくは、『[個々のタスクのログの生成](#)』を参照してください。

カスタム・ディレクトリーの使用

インストール・ファイルをダウンロードして実行する際の、ドライブなどの絶対パスの場所を指定します。たとえば、`C:/SWD` です。

ファイルは、デフォルトの `__Download/` ディレクトリーではなく、このカスタム・ディレクトリーにダウンロードされて展開されます。デフォルトの `../__BESData/actionsite` ディレクトリーではなく、指定された場所からタスクが実行されます。`tmp` という名前のフォルダーが指定されたパスに作成され、新しいタスクを実行する前に消去されます。

アクション完了時に `tmp` フォルダー内のクライアントからファイルを削除するように構成できます。

このコマンドは、システム・ユーザー、現在のユーザー、ローカル・ユーザーとしても実行できます。デフォルトではシステム・ユーザーとしてタスクを実行しますが、特定のパッケージでは、現在のユーザーがソフトウェア・パッケージを正常にインストールする必要があります。「[次へ](#)」をクリックします。

以下の手順を実行したら、「[タスクの作成](#)」をクリックします。



注: 「配信タスクの作成」タスクの「[関連式の作成](#)」と「[関連式の連結](#)」である関連度ビルダーは、最新バージョンのダッシュボードでは使用できなくなりました。

図 25. 追加する対象の条件の定義

Create Distribution Task

Define additional applicability conditions.

☐ Do not use any additional applicability conditions.

☒ Target using the following applicability conditions:

Insert the Relevance here:

▲ The Relevance Builder is not available

▲ IMPORTANT! - If you intend to make custom changes to the action or relevance, view the editing instructions at the beginning of the generated action.

Back Create Task Cancel

動的コンテンツを**有効化**または**無効化**するためのセキュリティ警告が表示されます。

次のウィンドウで、「アクション」ボックス内のリンクをクリックしてアクションをデプロイし、「アクションの実行」ダイアログでパラメーターを設定します。



注: Fixlet を実稼働環境にデプロイする前に必ずテストしてください。

タスクが正常に完了したかを確認するには、ソフトウェアがエンドポイントにインストールされたかを確認します。詳しくは、『[パッケージ・タイプの検証](#)』を参照してください。

タスクを編集できるのは、「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードで設定されたアクセス権に関係なく、タスクを表示および編集するための適切なコンソール権限を持っている場合のみです。タスクを編集するためのコンソール権限がない場合にタスクの編集を試みると、エラー・メッセージが表示されます。

図 26. 許可制限の警告

Warning - Please complete the following step(s) before using this dashboard.
Subscribe at least one computer to custom site "swd app group" and assign appropriate operator permissions.
You may close this warning when all steps are completed.

Create a custom site to store the computer groups.
Insert only numbers or valid characters

swd app group

適切な許可なしに、「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードを使用してソフトウェア配信パッケージを削除しようとすると、同様のエラー・メッセージが表示されます。

パッケージ・タイプの検証

分散タスクをデプロイしたエンドポイントの状態を調べて、ソフトウェアが正常にインストールされたかを確認します。

タスクをデプロイする前と後にエンドポイントの状態を確認することによって、各パッケージ・タイプのソフトウェアのインストールが正常に完了したことを確認します。

表 5. さまざまなパッケージ・タイプのインストール状況を確認する方法

パッケージ・タイプ	インストール前のエンドポイントのシステム状態	インストール後のエンドポイントのシステム状態
MSI	タスクは関連している必要があります。これは、インストールしようとしているソフトウェアがまだインストールされていないことを意味します。	タスクが関連しなくなりました。これは、ソフトウェアのインストールが正常に行われたことを意味します。
EXE	インストールするソフトウェアを「コントロール・パネル」>「プログラムと機能」にリストしてはいけません。	インストールしたソフトウェアを「コントロール・パネル」>「プログラムと機能」にリストする必要があります。
BAT	インストールしようとしているソフトウェアのフォルダーは、 <code>C:\Program Files (x86)\BigFix Enterprise \BES Client__BESTData\actionsite __Download</code> にはあってはいけません。	インストールされたソフトウェアの新しいフォルダーは、 <code>C:\Program Files (x86)\BigFix Enterprise\BES Client__BESTData\actionsite __Download</code> にある必要があります。
PKG	コマンド <code>pkgutil -pkgs</code> の実行時にパッケージをリストしてはいけません。	コマンド <code>pkgutil -pkgs</code> を実行します。ソフトウェアを正常にインストールするには、このパッケージをリストする必要があります。

プリインストールおよびポストインストール・コマンドの追加

選択したソフトウェア・パッケージをエンドポイントにインストールするために使用されるインストール・コマンドの前または後に追加のカスタム・コマンドを含めることができます。コマンドはすべて、ソフトウェア・パッケージのルート・フォルダーから実行されます。

カスタム・コマンドは、以下のいずれかのスクリプト・タイプに対して指定できます。

BigFix アクション・スクリプト

カスタム・コマンドは `actionscrip` に追加され、タスクから直接実行されます。

Windows バッチ・スクリプト

カスタム・コマンドを含むバッチ・ファイルが作成されます。その後、このファイルがインストール・タスクの `actionscrip` から実行されます。

UNIX シェル・スクリプト

カスタム・コマンドを含むシェル・ファイルが作成されます。その後、このファイルがインストール・タスクの actionscript から実行されます。

選択したスクリプト・タイプの正しいコマンド構文を使用して、コマンドが機能していることを確認してください。ダッシュボードでは、actionscript、バッチ・スクリプト、またはシェル・スクリプト・コマンドが有効かどうかはチェックされません。

1. 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードの「**配信タスクの作成**」ウィンドウで、インストール・コマンドの下に「**拡張オプションの表示**」が表示されるまで「**次へ**」をクリックします。
2. 「**拡張オプションの表示**」をクリックします。
3. 「**カスタムのプリインストールおよびポストインストール・コマンドの追加**」をクリックし、「**次へ**」をクリックします。

図 27. 拡張オプションの表示

The screenshot shows the 'Create Distribution Task' window. The 'Predefined Installation command' is set to 'BESConsole.exe'. The 'Installation Command' field also contains 'BESConsole.exe'. The 'Show Advanced Options' section is expanded, and the checkbox 'Add custom preinstallation and postinstallation commands' is highlighted with a red box. Other options include 'Create an individual log for this Task', 'Name of the log file' (with radio buttons for 'Use the default name: {Action ID}.log' and 'Use a custom name:'), 'Upload this log file to the Server upon completion of this Task', and 'Use custom working directory:'. The 'Run Command As' section has radio buttons for 'System User' (selected), 'Current User (Windows Only)', and 'Local User (Windows Only)'. At the bottom are 'Back', 'Next', and 'Cancel' buttons.

4. スクリプト・タイプを選択し、指定された領域にコマンドを入力して、「**次へ**」をクリックします。

重要: 選択したスクリプト・タイプの正しいコマンド構文を使用してください。「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードでは、コマンドが有効化どうかはチェックされません。

注: カスタム・コマンドをスクリプトに追加する場合は、「コマンドの適用」が選択されていることを確認してください。そうでない場合は、これらのオプションをクリアします。

ヒント: 次のコマンドを使用して、インストールの戻りコードをポストインストール・コマンドとして使用します。 `parameter 'returnCode' i`.

図 28. カスタムのプリインストールおよびポストインストール・コマンドの追加

Create Distribution Task

Enter commands to be run before and after the installation command

Preinstallation BigFix ActionScript ☒ Apply command

Postinstallation BigFix ActionScript ☒ Apply command

The return code value of the installation command will be stored in:

`parameter "returnCode"`

Back Next Cancel

5. 「配信タスクの作成」ウィンドウの残りの指示に従います。

デプロイメント・コマンドの実行

Windows システムの場合、システム・ユーザー、現在のユーザー、ローカル・ユーザーとしてコマンドを実行できます。BigFix クライアントで実行されるコマンドのデフォルトはシステム・ユーザーとなります (OS X、UNIX、Linux コンピューターの場合、ソフトウェアは root としてインストールされます)。場合によっては、現在のユーザーまたはローカル・ユーザーの資格情報とローカル・コンテキストを使用してインストールすることもできます。ローカル・ユーザーに関連するさまざまなパラメーターの設定方法の詳細を以下に示します。

☐ Use custom working directory: /tmp

Run Command As:

☐ System User
 ☐ Current User (Windows Only)
 ☒ Local User (Windows Only)

Username: ⓘ Password: Required ⓘ

Interactive: ☒ ⓘ Target User: ⓘ Completion: job ⓘ

ローカル・ユーザーとしてデプロイメント・コマンドの実行

このセクションでは、ログイン・ユーザーとは異なるローカル・ユーザーとして、コマンドを実行する際に設定できるさまざまなパラメーターについて説明します。

- ユーザー名:** 現在ログインしているユーザーと異なるユーザーの名前です。次のいずれかの形式となります。
 1. user@ドメイン。例: 「myname@tem.test.com」
 2. ドメイン\ユーザー。例: 「TEM\myname」
- パスワード・モード:** 認証のモードを定義します。使用可能なオプションは次のとおりです。
 1. **必須:** アプリケーションはパスワードを入力するよう指示します。入力した値は安全なパラメーターとしてエージェントに渡されます。
 2. **別ユーザー名を使用:** エージェントは「ユーザー名」で指定されたユーザー用に実行されているセッションを検索し、そのユーザーのセッションでコマンドを実行します。
 3. **システム:** コマンドはローカル・システム・アカウントとして実行されます。このオプションを機能させるには、「ユーザー名」で指定されたユーザーがコマンド実行時にシステムにログインしている必要があります。
- インタラクティブ:** チェック・ボックスを選択します。コマンドにより「ユーザー名」で指定されたユーザーのユーザー・インターフェースが開き、そのユーザーのセッションが実行されます。
- 対象ユーザー:** オプション。このオプションは「インタラクティブ」を選択した場合にアクティブになります。コマンドによりこのフィールドで指定したユーザーのセッションでユーザー・インターフェースが開き、そのセッションが実行されます。コマンドはプライマリー・ユーザー特権で実行しますが、コマンドが機能するには対象ユーザーがシステムにログインしている必要があります。
- 完了:** コマンドがプロセスの終了まで待機する必要があるかを指定します。

1. **なし**: コマンドはプロセスの終了まで待機しません。コマンドが実行を開始する前に、ユーザーはシステムにログインしている必要があります。このオプションを選択すると、**SWD_Download** フォルダーが保持されます。**SWD_Download** フォルダー・クリーンアップ Fixlet をデプロイし、プロセス終了後にクライアント・コンピューターをクリーンアップします。
2. **プロセス**: コマンドはプロセスの終了まで待機します。このオプションの場合は、指定されたユーザーがシステムにログインしている必要はありません。
3. **ジョブ**: コマンドはプロセスの終了まで待機します。このオプションの場合、プロセスは独自のジョブ制御管理を実行することになっており、指定されたユーザーがシステムにログインしている必要はありません。

パッケージのインポートおよびエクスポート

「ソフトウェア配信」ダッシュボードを使用して作成されたパッケージは、1 つのデプロイメントから別のデプロイメントに簡単に移動できます。この機能は、BigFix バージョン 9.1 以降で使用可能です。

パッケージを同時にインポートおよびエクスポートすることはできません。

この移行機能のログは、次の場所にあるコンソール・システム内にあります。 *<Windows Temp>\SoftwareDistributionLogs\<Export or Import>.*

パッケージのエクスポート

単一のパッケージをエクスポートすると、すべての情報が **.zip** ファイルに圧縮されます。ファイルに名前を付けるか、デフォルトのファイル名形式 **.zip** を使用するかを選択できます。 *<VEND>_<PROD>_<VE>.zip*.

各部の意味は以下のとおりです。

VEND

ベンダーを表し、4 文字のみで構成されます。

PROD

製品を表し、4 文字のみで構成されます。

VE

バージョンを表し、2 文字のみで構成されます。

エクスポートされたパッケージは、以下のディレクトリ構造を使用します。

```
vend_prod_ve.zip
- meta_data.txt (file)
- Files (folder)
- <SHA1 of file> (folder)
  - Installation file (file)
- <SHA1 of file> (folder)
  - Installation file (file)
```

- Fixlets (folder)
- Distribution tasks (file)

複数のパッケージをエクスポートすると、圧縮された各パッケージ・ファイルは、`swd_exported_pkgs.zip` という名前の単一の `.zip` ファイルに保管されます。

ファイル名が存在する場合は、ファイル名の末尾に接尾部が追加されて一意になります。たとえば、エクスポート済みパッケージのフォルダー内に存在する `vend_prod_ve.zip` という名前のパッケージのエクスポートを試みると、エクスポート後のパッケージは `vend_prod_ve_(1).zip` として保存されます。

パッケージをエクスポートするには、以下のステップを実行します。

1. 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードから、エクスポートするパッケージを選択し、「**エクスポート**」をクリックします。
2. パッケージをエクスポートする先を指定します。「**参照**」をクリックして、フォルダーの場所に移動することもできます。

! **重要:** このプロセスの開始後は、取り消すことはできません。エクスポートが完了するまで、「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードを閉じないでください。

図 29. パッケージのエクスポート

Export Packages

Select a folder to store exported packages.

Export Folder Path

Name of Exported File: .zip

You cannot cancel this process once it has started. Do not leave the Software Distribution Dashboard while the import process is ongoing.

3. エクスポートするファイルの名前を入力するか、デフォルト名を使用します。
4. 「**エクスポート**」をクリックします。パッケージが正常にエクスポートされると、ダイアログ・プロンプトが表示されます。

パッケージのインポート

1 つのパッケージを複数回インポートできます。同じパッケージを作成するインポートをするたびに、複製が「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードに追加されます。

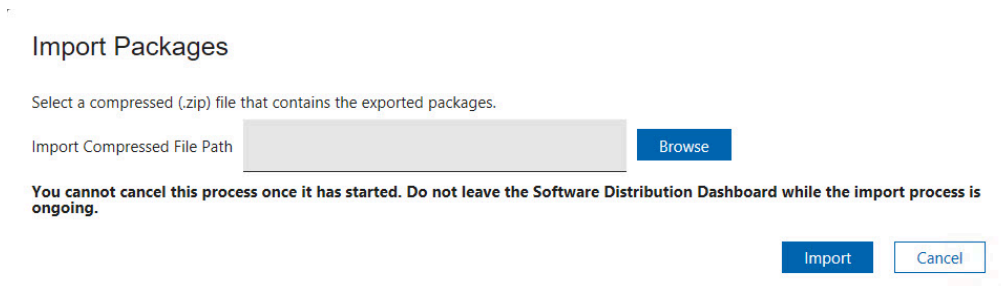
インポート・プロセス中に予期しない問題が発生しても、パッケージは部分的にインポートされます。部分的にインポートされたパッケージとは、すべてのファイルまたは Fixlet がダッシュボードに正常にインポートされなかったことを意味します。

パッケージをインポートするには、以下のステップを実行します。

1. 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードから、インポートするパッケージを選択し、「**インポート**」をクリックします。
2. エクスポートされたパッケージの `.zip` ファイルが置かれる場所を指定します。「**参照**」をクリックして圧縮されたパッケージ・ファイルを見つけることもできます。

！ 重要: このプロセスの開始後は、取り消すことはできません。インポートが完了するまで、「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードを閉じないでください。

図 30. パッケージのインポート



Import Packages

Select a compressed (.zip) file that contains the exported packages.

Import Compressed File Path

You cannot cancel this process once it has started. Do not leave the Software Distribution Dashboard while the import process is ongoing.

3. 「**インポート**」をクリックします。パッケージがダッシュボードに正常にインポートされると、ダイアログ・プロンプトが表示されます。
4. インポートが完了したら、ダッシュボードを更新して新しくインポートされたパッケージを表示します。

個々のタスクのログの生成

完了時に個別のログ・ファイルを生成するように配信タスクを構成します。個別のタスク・ロギング機能を有効にして、新規および既存のタスクのログ・エントリーを生成できます。解析のためにログをサーバーにアップロードすることもできます。

ログの収集はサーバーに悪影響を与えません。各ログ・ファイルのサイズが 1 MB に制限されているためです。ただし、ボリューム管理を使用し、限られたスペースでログ・ディレクトリーをパーティション化することができます。これにより、リソースの問題の影響をログ・ストレージのみに限定できます。この方法を使用すると、サーバーが過負荷状態になるのを防止できます。

1. 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードの「**配信タスクの作成**」ウィンドウで、インストール・コマンドの下に「**拡張オプションの表示**」が表示されるまで「**次へ**」をクリックします。
2. 「**拡張オプションの表示**」をクリックします。
3. 「**このタスクの個別のログを作成**」をクリックします。

図 31. 個別のログの作成

Create Distribution Task

Define the installation command which will be run to install the selected software package on endpoints. The installation command will be run from the root folder of the software package.

Predefined Installation command: "ping1.bat"

Installation Command: "ping1.bat"

✓ Show Advanced Options

☐ Add custom preinstallation and postinstallation commands

☒ Create an individual log for this Task

Name of the log file:

☒ Use the default name: {Action ID}.log ☐ Use a custom name: .log

☐ Upload this log file to the Server upon completion of this Task

☐ Use custom working directory: /tmp

Run Command As:

☒ System User ☐ Current User (Windows Only) ☐ Local User (Windows Only)

4. ログ・ファイルに必要な名前を選択します。

ログのデフォルト名は `<Action_ID>.log` です。別の名前を指定する場合は、任意の英数字を入力します。



注: 下線は使用可能です。

5. タスクが完了したときにファイルをサーバーにアップロードする場合は、「このタスクが完了したら、このログ・ファイルをサーバーにアップロードします」をクリックします。

6. 「配信タスクの作成」ウィンドウの残りの指示に従います。

ログ・ファイルをサーバーにアップロードするようにタスクを構成した場合は、**LogsToBeUploaded** という名前の新しいフォルダーが `\BES Client__BESData__Global\SWDDeployData` に作成されます。



注: 通常、デプロイされたすべてのソフトウェアのデプロイメント結果は、`\BES Client__BESData__Global\SWDDeployData\SWD_DeploymentResults.log` にある単一のログ・ファイルに記録されます。

サーバーにアップロードされたログは `\BES Server\UploadManagerData\BufferDir\shal\<last 2 digits of the compute ID>` にあります。

サーバーにあるログのファイル名の形式は、クライアントにあるログと同じではありません。ログ・ファイルがサーバーにアップロードされると、プレフィックス文字列「SWD」がログ・ファイル名に追加されます。このプレフィックスは、タスクのアクション・スクリプトで変更できます。



注意: サーバーはクライアント・フォルダーをミラーリングします。クライアント・フォルダー内のログを削除すると、サーバー側のログも削除されます。Fixlet 13 を使用してクライアント・フォルダーからログ・ファイルを削除する前に、サーバー・ログ・ディレクトリーをバックアップしたことを確認してください。サーバー・スペースが大きくなりすぎた場合は、サーバーのログをバックアップしてからクライアント・フォルダー内の不必要なファイルを削除してください。

ソフトウェア・リポジトリのマイグレーション

ソフトウェア配信アップロード・マネージャーはスタンドアロン・ツールであり、ソフトウェア配信をインストールする前に、ご使用のデプロイメントにすでに存在する任意のパッケージをアップロードできます。

ツールは、パッケージを BigFix server にアップロードします。ダッシュボードを使用して、関連するデフォルトのソフトウェア配信タスクを作成できます。

BigFix では、ソフトウェア・パッケージを展開する前に、そのパッケージを分析、アーカイブし、BigFix server にアップロードするためのツールが必要です。そのツールは、`uploadmanager.exe` と呼ばれ、BigFix server とデータベースへのアクセスを必要とします。BES Server\BESReportsServer\wwwroot\SiteData\bes_bfenterprise\Sites\Software Distribution フォルダー内の BigFix server に、このツールがあります。使用する前にこのツールを作業ディレクトリーにコピーする必要があります。

このツールを使用して、以下の2つの方法でライブラリーをインポートするスクリプトを記述できます。

- `inputdirslist` としてアップロード・マネージャーに渡されるディレクトリー名のリストを作成するように、スクリプトを記述できます。このプロセスは、構造化されたライブラリーに最適なアプローチです。たとえば、ソフトウェア・リポジトリが `/VENDOR/PRODUCT/VERSION` フォルダーのパターンに確実に従っている場合は、それらのフォルダーの簡単なリストを作成すれば十分です。
- ファイル・システムを繰り返し、各製品ディレクトリーに基づきツールを繰り返し呼び出すスクリプトを作成できます。このプロセスは、構造化されていないライブラリーの理想的なアプローチです。この場合、外部スクリプトはディレクトリーが適用可能かをテストする必要があります。

このようにしてアップロードされたパッケージには、アップロードされたファイルおよびファイル分析から得た推定値で入力されたメタデータがあります。この推定値を使用して Fixlet を生成するには、アップロードされたパッケージを選択し、「**デフォルト・タスクの作成**」をクリックします。



注: この方法で生成された Fixlet には、検証が必要として必ずマークが付けられます。

アップロード・マネージャーへのアクセスについては、「[Bigfix ソフトウェアのダウンロード](#)」Web サイトを参照してください。詳しい手順については、[技術情報](#)を参照してください。

戻りコード

障害のトラブルシューティングには、以下の `uploadmanager.exe` の戻りコードを使用します。

```
Return Code 0 = success
Return Code 1 = incorrect command line usage
Return Code 2 = partial upload failure
Return Code 4 = full upload failure
Return Code 8 = dsn login failed
Return Code 16 = json error;
Return Code 32 = compression partial failure
Return Code 64 = compression full failure
Return Code 128 = file access error
Return Code 256 = tempfile deletion failure
Return Code 512 = database query error
Return Code 1024 = Invalid file/folder error
```

第 5 章. アプリケーション管理グループの管理

特に大規模なネットワークでは、より迅速なデプロイメントのために、ソフトウェア配信タスクとクライアント・コンピューターをグループ化します。

ほとんどのソフトウェア・デプロイメントは、コンソール・オペレーターによって制御されます。オペレーターは、各コンピューターまたはコンピューター・グループにデプロイするソフトウェアを選択します。オペレーターは、ソフトウェアを必須アクションとしてインストールするか、ポリシーに準拠するかを選択することもできます。

BigFix には、ソフトウェアのセルフプロビジョニングを処理するための提案と呼ばれるメカニズムがあります。一部のソフトウェアでは、エンドポイント・ユーザーが次のオプションからそのソフトウェアをインストールするかを任意で選択できます。

- Software Offers のクライアント・ダッシュボード詳しくは、『[Software Offers のクライアント・ダッシュボード \(非推奨\)](#)』を参照してください。
- ソフトウェア配信セルフ・サービス・ポータル。詳しくは、『[ソフトウェア配信セルフ・サービス・ポータルの概要 \(非推奨\)](#)』を参照してください。

ソフトウェア・オファーとアクションの配信を簡素化するには、タスクとエンドポイントを別々のアプリケーション管理グループにグループ化します。アプリケーション管理グループは、コンテンツをグループに分け、対象となるクライアント・コンピューターのグループに配信できるタスクの集合です。これらのタスクは、BigFix のクライアントに、オファー、ポリシー・アクション、または必須アクションとして表示されます。オファーのデプロイ場所について詳しくは、『[「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボード](#)』を参照してください。

ユーザー権限

アプリケーション管理グループのアクセス・レベルは作成時に決定され、変更することはできません。

マスター・オペレーター

アプリケーション管理グループをマスター・オペレーターが所有している場合、すべてのマスター・オペレーターがそのアプリケーション管理グループ全部にアクセスできます。

マスター・オペレーターが制御するアプリケーション管理グループには、以下のプロパティがあります。

- すべてのマスター・オペレーターが、アプリケーション管理グループの編集、削除、デプロイ、停止を実行できます。
- マスター以外のオペレーターは、アプリケーション管理グループを表示およびコピーできます。
- すべてのユーザーは、アプリケーション管理グループのコピーを作成できます。
- アプリケーション管理グループの所有者がマスター・オペレーターからマスター以外のオペレーターに降格された場合、所有者はアプリケーション管理グループへのアクセスを失います。

マスター以外のオペレーター

アプリケーション管理グループをマスター以外のオペレーターが所有している場合、そのアプリケーション管理グループ全部にアクセスできるのは所有者のみになります。

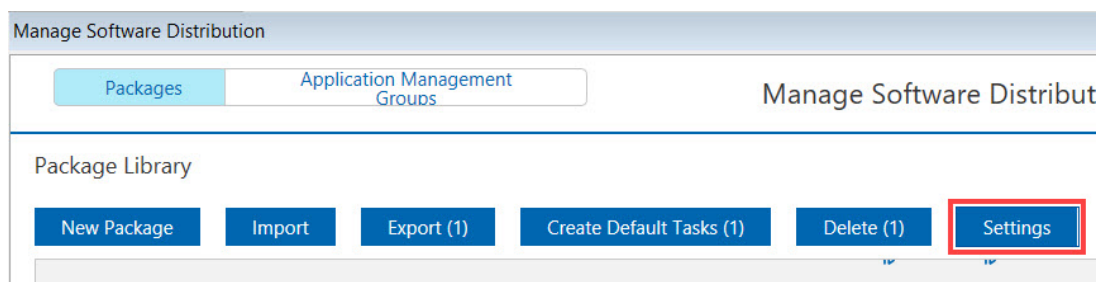
所有者が制御するアプリケーション管理グループには、以下のプロパティがあります。

- 所有者のみが、アプリケーション管理グループの編集、削除、デプロイ、停止を実行できます。コンソール・オペレーター全員に、アプリケーション管理グループの編集を許可するように設定できます。『[設定](#)』を参照してください。
- マスター・オペレーターは、マスター以外のオペレーターによって所有されているアプリケーション管理グループのみを停止できます。
- すべてのユーザーは、アプリケーション管理グループのコピーを作成できます。
- アプリケーション管理グループの所有者が、マスター以外のオペレーターからマスター・オペレーターに昇格した場合、所有者は全アクセスの権限を獲得します。他のマスター・オペレーターは、マスター・オペレーターが所有するようになったアプリケーション管理グループのみを停止または削除できます。

設定

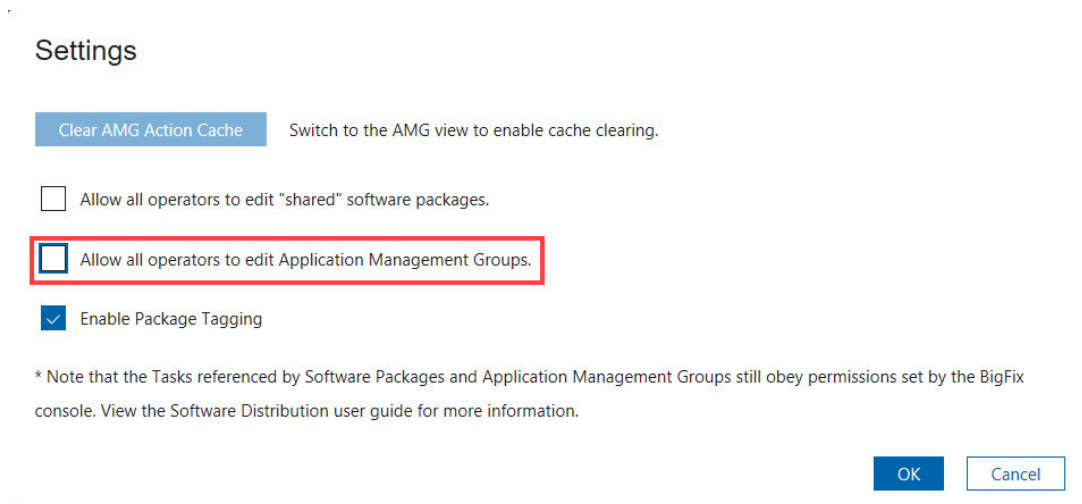
コンソール・オペレーター全員がアプリケーション管理グループを編集できるようにするには、「**設定**」をクリックします。

図 32. 設定ボタン



次に、「**すべてのオペレーターにアプリケーション管理グループの編集を許可します。**」を選択します。

図 33. アプリケーション管理グループの設定の変更



カスタム・サイトの作成

アプリケーション管理グループのデプロイメントをホストするカスタム・サイトを作成すると、マスター・アクション・サイトのパフォーマンスに及ぼす影響が軽減されます。

「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードに初めてアクセスしたときに、カスタム・サイトを作成するように求められます。

図 34. カスタム・サイトの作成



注: カスタム・サイトを作成するには、マスター・オペレーターである必要があります。

デフォルトのカスタム・サイト名は `swd_app_group` です。任意のカスタム・サイト名を入力して「**作成**」をクリックできます。

カスタム・サイトには、ダッシュボードから作成されたアプリケーション管理グループのコンピューター・グループが格納されます。

カスタム・サイトを作成した後、以下のタスクを実行する必要があります。

- すべてのソフトウェア配信エンドポイントをカスタム・サイトにサブスクライブします。
- 「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードを使用するすべてのオペレーターに書き込みアクセス権を付与します。

表示許可の設定

マスター・オペレーターである「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードのユーザーは、他のオペレーターの発行済みアクションを表示するための許可を設定する必要があります。

1. 「オペレーター」リストからマスター・オペレーターを選択します。
2. 「詳細情報 (Details)」タブをクリックします。
3. 「他のオペレーターのアクションの表示」ドロップダウン・メニューで「はい」を選択します。

図 35. 許可の表示

Console Operator: bigfix

Save Changes Discard Changes Reset Password Remove

Details Administered Computers (6) Issued Actions (36) Assigned Roles (0) Sites (6)

Overview

Name	bigfix
User Type	Local Console Operator
Last Login Time	6/11/2012 5:14:15 PM
Login	<input checked="" type="radio"/> Always allow this user to log in. <input type="radio"/> Only allow this user to log in when they are a member of at least one role. <input type="radio"/> Disable this user's login.

Permissions

	Explicit Permissions	Effective Permissions
Master Operator	Yes	Yes
Show Other Operators' Actions	Yes	Yes
Custom Content	Yes	Yes
Unmanaged Assets	Show All	Show All

4. 「変更を保存」をクリックします。

アプリケーション管理グループの作成

アプリケーション管理グループはタスクとターゲットの集合です。アプリケーション管理グループをデプロイすると、そのタスクはオファーまたはアクションとしてそのすべての対象に配信されます。

以下のタスクを実行する必要があります。

- マスター・アクション・サイトに対するパフォーマンスへの影響を限定するために、カスタム・サイトを作成します。

カスタム・サイトは、アプリケーション管理グループ・ダッシュボードに初めてアクセスするときに作成する必要があります。詳しくは、『[カスタム・サイトの作成](#)』を参照してください。

- マスター・オペレーターである場合は、表示許可が正しく設定されていることを確認します。詳しくは、『[表示許可の設定](#)』を参照してください。
- BigFix コンソールとクライアントをバージョン 8.2.1310 以降にアップグレードします。

それより前のバージョンでは、クライアント・ダッシュボードが正しく機能しません。

- 「Software Offers のクライアント・ダッシュボードを有効化」タスクを実行します。

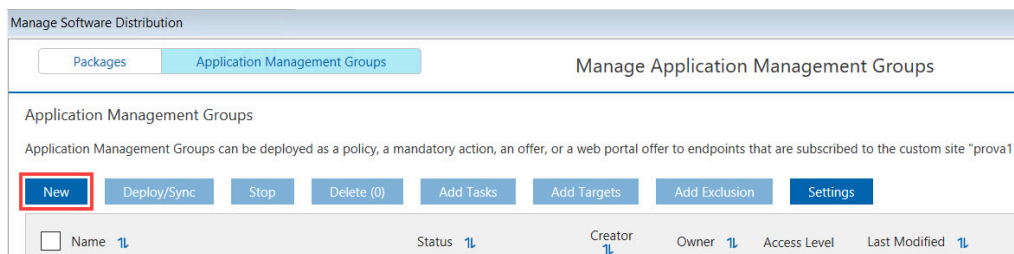
このタスクは、「ソフトウェア配信の設定」ノードの「クライアント・ダッシュボードの設定」の下にあります。



注: 少なくとも 1 台のコンピューターをカスタム・サイトにサブスクライブし、適切なオペレーター許可を割り当てる必要があります。

1. 「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードで、「**新規**」をクリックします。

図 36. 新規アプリケーション管理グループ



2. 「名前」フィールドにグループの名前を入力します。
 3. 「確認」をクリックします。
- 「アプリケーション管理グループ」ライブラリーの下に新しいグループが表示されます。

これで、アプリケーション管理グループが作成されました。

次のステップでは、タスクと対象を追加します。詳しくは、『[タスクの追加](#)』と『[ターゲットの追加](#)』を参照してください。

アプリケーション管理グループに関連付けるタスクと対象は、「タスク」タブと「対象」タブから管理できます。

アプリケーション管理グループへのタスクの追加

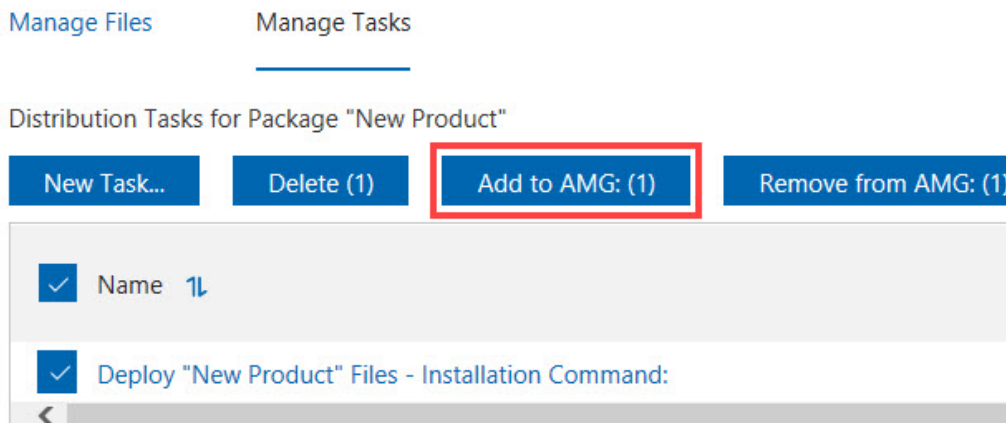
ソフトウェア配信ダッシュボードのいずれかを使用して、アプリケーション管理グループに追加するタスクを選択できます。

「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードから

「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードから、既存のアプリケーション管理グループにタスクを追加できます。

1. 「**タスクの管理**」タブで、アプリケーション管理グループに追加する 1 つ以上のタスクを選択します。
2. 「**AMG に追加**」をクリックします。

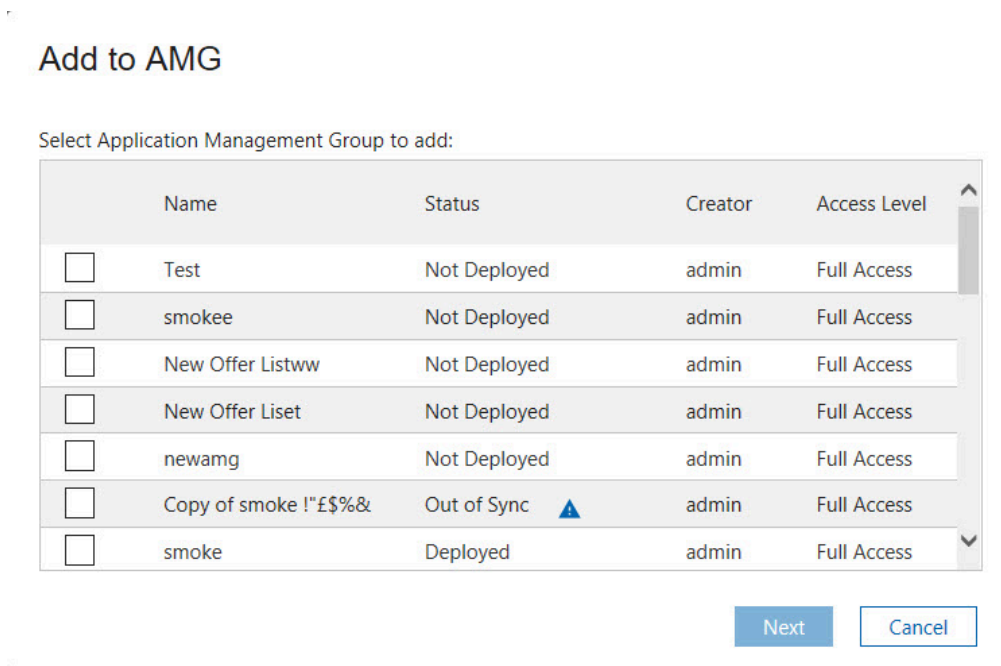
図 37. 「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードからのタスクの追加



「AMG に追加」ダイアログが開きます。

3. 選択したタスクを追加するアプリケーション管理グループを選択し、「次へ」をクリックします。

図 38. アプリケーション管理グループを選択



注: 選択したアプリケーション管理グループの状況が「導入済み」である場合は、タスクを追加した後、アプリケーション管理グループを再度デプロイする必要があります。詳しくは、『[アプリケーション管理グループのデプロイ](#)』を参照してください。

4. タスクをデプロイする方法を選択します。以下のオプションから選択できます。

オファー

このアクションは、Software Offers のクライアント・ダッシュボードからの、ソフトウェアのセルフプロビジョニングを処理します。

必須のアクション

このアクションは 1 回実行されると有効期限が切れます。

ポリシー・アクション

このアクションは継続的に実行され、お使いのコンピューターがポリシーに準拠しているかが確認されます。

ポータルの提案

このアクションは、ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルからの、ソフトウェアのセルフプロビジョニングを処理します。



注: 「ポータル提案」をデプロイしても、アクションはすぐには作成されません。オファ어가セルフサービス・ポータルに表示されるようにタスクが追加されたときに、アプリケーション管理グループをデプロイする必要があります。

Add to AMG

Deploy Task As:

Offer

Offer

Mandatory Action

Policy Action

Portal Offer

Search

ID	Site	Title*	Version*	Size*	Description*
9413	ActionSite	New F	0.0	0.1 MI	

Any change to these fields will be reflected in the client dashboard for the endpoint user to see. Click each cell to edit. Any change to these fields will be reflected in the client dashboard for the endpoint user to see. Click each cell to edit. Any change to these fields will be reflected in the client dashboard for the endpoint user to see. Click each cell to edit.

Any change to these fields will be reflected in the client dashboard for the endpoint user to see. Click each cell to edit. Any change to these fields will be reflected in the client dashboard for the endpoint user to see. Click each cell to edit.

Confirm Add

Cancel

5. **オプション:** 必須アクション、クライアント、またはポータル・オファ어의プロファイルを編集する場合は、該当するセルをクリックします。

必須アクションの場合は、有効期限を更新できます。オファ어의場合は、タイトル、バージョン、サイズ、または説明を更新して、エンドポイント・クライアントにとって意義がありかつ適切であるように変更できます。



注: まだデプロイされていない、同じオファ어またはアクションを含むすべてのアプリケーション・マネージャー・グループも更新されます。1つのオファ어またはアクションは、プロファイルを1つしか持つことができません。オファ어またはアクション・プロファイルは、他のアプリケーション管理グループでも同じままです。

6. 「**追加の確認**」をクリックします。

これで、選択したアプリケーション管理グループにタスクが追加されました。

すでにターゲットをアプリケーション管理グループに追加している場合は、アプリケーション管理グループをデプロイできるようになりました。詳しくは、『[アプリケーション管理グループのデプロイ](#)』を参照してください。それ以外の場合は、アプリケーション管理グループへのターゲットの追加を開始します。詳しくは、『[ターゲットの追加](#)』を参照してください。

「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードから

「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードから、アプリケーション管理グループにタスクを追加することもできます。

1. タスクを追加するアプリケーション管理グループを選択します。



注: 選択したアプリケーション管理グループの状況が「導入済み」である場合は、タスクを追加した後、アプリケーション管理グループを再度デプロイする必要があります。詳しくは、『[アプリケーション管理グループのデプロイ](#)』を参照してください。

2. 「タスク (複数) の追加」ダイアログを開きます。

このダッシュボードからタスクを追加するには、次の2つの方法があります。

- a. 「アプリケーション管理グループ」タブから「**タスク (複数) の追加**」をクリックします。
- b. 「**タスク**」 > 「**タスク (複数) の追加**」をクリックします。

図 39. 「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードからのタスクの追加

Manage Software Distribution

Packages Application Management Groups Manage Application Management G

Application Management Groups

Application Management Groups can be deployed as a policy, a mandatory action, an offer, or a web portal offer to endpoints that are subscribed to t

New Deploy/Sync Stop Delete (1) **Add Tasks** Add Targets Add Exclusion Settings

<input type="checkbox"/>	Name 1L	Status 1L	Creator 1L	Owner 1L	Access Level	La
<input checked="" type="checkbox"/>	Test	Not Deployed	admin	admin	Full Access	20.
<input type="checkbox"/>	snooke	Not Deployed	admin	admin	Full Access	20.
<input type="checkbox"/>	New Offer Listww	Not Deployed	admin	admin	Full Access	20.
<input type="checkbox"/>	New Offer Liset	Not Deployed	admin	admin	Full Access	20.
<input type="checkbox"/>	newamg	Not Deployed	admin	admin	Full Access	20.
<input type="checkbox"/>	Copy of smoke !"£\$%&	Out of Sync ▲	admin	admin	Full Access	20.
<input type="checkbox"/>	smoke	Deployed	admin	admin	Full Access	20.

Tasks Targets Exclusion

Distribution Tasks for Package "Test"

Add Task Remove: (0) Change action type to: Offer ▼ Default deployment type Offer

<input type="checkbox"/>	Name 1L	Owner 1L	Deploy Type 1L	Created 1L
<input type="checkbox"/>	Deploy "New Product" Files - Installation Commanc	admin	Mandatory Action	2021-09-16 15:36:53

「タスク (複数) の追加」ダイアログが開き、使用可能なすべてのソフトウェア配信タスクがリストされます。これらのタスクは「ソフトウェア配信パッケージの管理」ダッシュボードから作成され、エンドポイント・ユーザーには、Software Offers のクライアント・ダッシュボードからのオファーとして表示されます。

3. タスクをデブロイする方法を選択します。以下のオプションから選択できます。

オファー

このアクションは、Software Offers のクライアント・ダッシュボードからの、ソフトウェアのセルフプロビジョニングを処理します。

必須のアクション

このアクションは 1 回実行されると有効期限が切れます。

ポリシー・アクション

このアクションは継続的に実行され、お使いのコンピューターがポリシーに準拠しているかが確認されます。

ポータルの提案

このアクションは、ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルからの、ソフトウェアのセルフプロビジョニングを処理します。



注: 「ポータル提案」をデプロイしても、アクションはすぐには作成されません。オファ어가セルフサービス・ポータルに表示されるようにタスクが追加されたときに、アプリケーション管理グループをデプロイする必要があります。

図 40. 「タスク (複数) の追加」 ダイアログ



ヒント: 1 回の実行で同じデプロイメント・タイプのタスクを複数作成する場合には、**デフォルトのデプロイメント・タイプ**の機能を使用します。この機能は、各タスクの作成時にデプロイメント・タイプを選択することによって、時間を節約するのに役立ちます。



注: タスクの作成後にデプロイメント・タイプを簡単に変更できます。タスクを削除して最初から作成しなおす必要はありません。

- 特定のクライアント・グループにデプロイするタスクを選択します。
- オプション:** 必須アクション、クライアント、またはポータル・オファ어의プロファイルを編集する場合は、該当するセルをダブルクリックします。

必須アクションの場合は、有効期限を更新できます。オファ어의場合は、タイトル、バージョン、サイズ、または説明を更新して、エンドポイント・クライアントにとって意義がありかつ適切であるように変更できます。



注: まだデプロイされていない、同じオファ어またはアクションを含むすべてのアプリケーション・マネージャー・グループも更新されます。1 つのオファ어またはアクションは、プロファイルを 1 つしか持つことができません。オファ어またはアクション・プロファイルは、他のアプリケーション管理グループでも同じままです。

- 「追加の確認」をクリックします。
追加した**配信タスク**は、「タスク」タブに表示されます。

すでにターゲットをアプリケーション管理グループに追加している場合は、アプリケーション管理グループをデプロイできるようになりました。詳しくは、『[アプリケーション管理グループのデプロイ](#)』を参照してください。それ以外の場合は、アプリケーション管理グループへのターゲットの追加を開始します。詳しくは、『[ターゲットの追加](#)』を参照してください。

アプリケーション管理グループへの対象の追加

「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードからアプリケーション管理グループに対象を追加できます。

「対象 (単数) の追加」ダイアログを使用して、指定した対象グループにコンピューター・グループまたは Active Directory グループを追加できます。

対象は、オペレーターがソフトウェア配信タスクを発行する対象となるコンピューター・グループです。以前は、これらのグループはコンソール環境で定義されました。

1. 対象を追加するアプリケーション管理グループを選択します。



注: 選択したアプリケーション管理グループの状況が「導入済み」である場合は、対象を追加した後、アプリケーション管理グループを再度デプロイする必要があります。詳しくは、『[アプリケーション管理グループのデプロイ](#)』を参照してください。

2. 「対象 (複数) の追加」ダイアログを開きます。

このダッシュボードから対象を追加するには、次の2つの方法があります。

- a. 「アプリケーション管理グループ」タブから「**対象 (複数) の追加**」をクリックする。
- b. 「**対象**」 > 「**対象 (複数) の追加**」をクリックする。

図 41. 「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードからの対象の追加

Manage Software Distribution

Packages Application Management Groups Manage Application Management G

Application Management Groups

Application Management Groups can be deployed as a policy, a mandatory action, an offer, or a web portal offer to endpoints that are subscribed to th

New Deploy/Sync Stop Delete (1) Add Tasks Add Targets Add Exclusion Settings

<input type="checkbox"/>	Name 1L	Status 1L	Creator 1L	Owner 1L	Access Level	Last
<input checked="" type="checkbox"/>	Test	Not Deployed	admin	admin	Full Access	202
<input type="checkbox"/>	smokee	Not Deployed	admin	admin	Full Access	202
<input type="checkbox"/>	New Offer Listww	Not Deployed	admin	admin	Full Access	202
<input type="checkbox"/>	New Offer Liset	Not Deployed	admin	admin	Full Access	202
<input type="checkbox"/>	newamg	Not Deployed	admin	admin	Full Access	202
<input type="checkbox"/>	Copy of smoke l"£\$%&	Out of Sync ▲	admin	admin	Full Access	202
<input type="checkbox"/>	smoke	Deployed	admin	admin	Full Access	202

Tasks Targets Exclusion

Targets for "Test"

Add Target Delete (0)

<input type="checkbox"/>	Name 1L	Target Type ↑
--------------------------	---------	---------------

Red arrow 'a' points to the 'Add Targets' button in the top toolbar.
Red arrow 'b' points to the 'Add Target' button in the 'Targets for "Test"' section.

「対象 (複数) の追加」ダイアログ・ボックスが開きます。

- 対象は、コンピューター・グループまたは Active Directory グループから選択できます。

- 。対象としてコンピューター・グループを選択した場合は、そのグループに使用可能な対象を確認し、「**追加の確認**」をクリックします。

図 42. 対象のコンピューター・グループの追加

Add Targets

Target: Computer Groups

Available Targets

	Name	Target Type	Computers
<input checked="" type="checkbox"/>	windows	Manual Computer...	0
<input checked="" type="checkbox"/>	windows_automatic	Automatic Compu...	27

2 targets included

Confirm Add Cancel



注: 手動コンピューター・グループまたは自動コンピューター・グループは、ユーザーのアクション・サイトまたは「アプリケーション管理グループ」ダッシュボードによって作成されたカスタム・サイトからのみ選択できます。

- 。対象として Active Directory グループを選択した場合は、そのグループの対象を追加し、対象の名前を入力して、「**対象 (単数) の追加**」をクリックします。

図 43. 対象の Active Directory グループの追加

Add Targets

Target: Active Directory Group

Logged on user is a member of AD Security Group

☐ Match case Add Target

Available Targets

	Name	Target Type	Computers
<input checked="" type="checkbox"/>	windows	Manual Computer Group	0
<input checked="" type="checkbox"/>	windows_automatic	Automatic Computer Group	27

2 targets included

Confirm Add Cancel

4. そのグループに使用可能な対象を確認し、「**追加の確認**」をクリックします。

追加した対象は「ターゲット」タブに表示されます。



注: 新規対象を追加すると、アプリケーション管理グループの定義のみが変更されます。同じオフアーは、他の対象コンピューターに関連するようになります。

すでにアプリケーション管理グループにタスクを追加している場合に、アプリケーション管理グループをデプロイできるようになりました。詳しくは、『[アプリケーション管理グループのデプロイ](#)』を参照してください。そうでない場合は、アプリケーション管理グループへのタスクの追加を開始します。詳しくは、『[タスクの追加](#)』を参照してください。

アプリケーション管理グループへの除外の追加

対象を除外として追加し、アプリケーション管理グループから削除できます。アプリケーション管理グループをデプロイすると、タスクは対象のコンピューター・グループにのみ配信され、除外されたコンピューター・グループには配信されません。

各アプリケーション管理グループに対して追加できる除外は1つのみです。除外を追加するたびに既存の除外が上書きされます。

1. 除外を追加するアプリケーション管理グループを選択します。



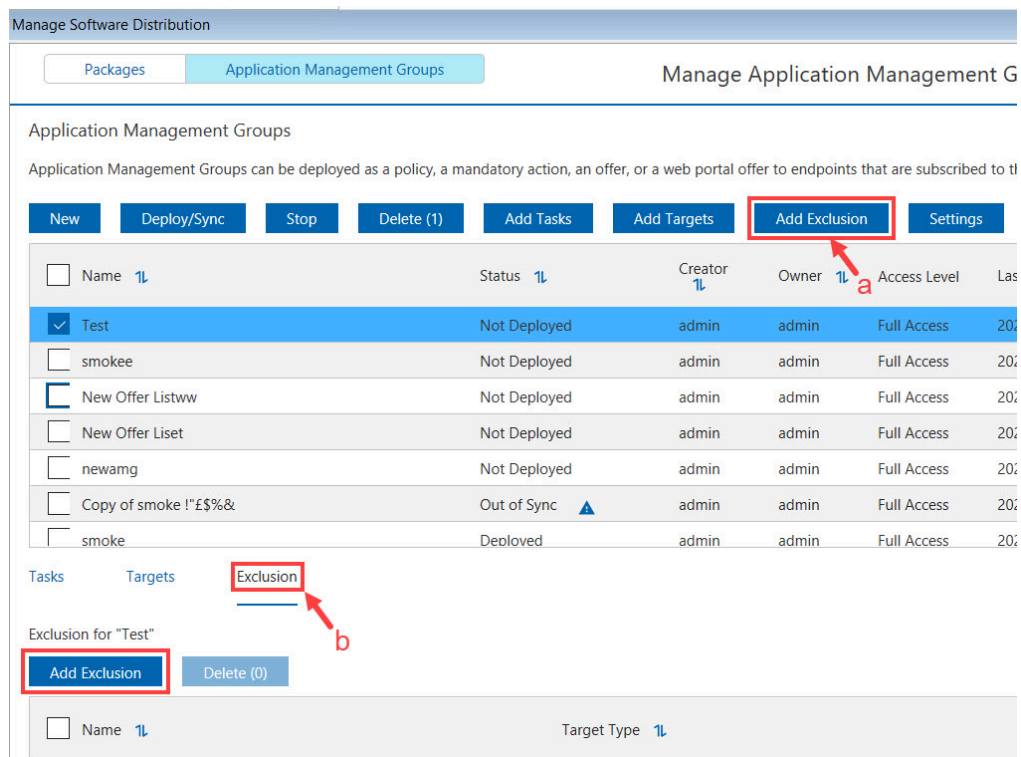
注: 選択したアプリケーション管理グループの状況が「導入済み」である場合は、除外を追加した後、アプリケーション管理グループを再度デプロイする必要があります。詳しくは、『[アプリケーション管理グループのデプロイ](#)』を参照してください。

2. 「除外の追加」ダイアログを開きます。

このダッシュボードから除外を追加するには、以下の2つの方法があります。

- a. 「アプリケーション管理グループ」タブから「**除外の追加**」をクリックする。
- b. 「**除外**」 > 「**除外の追加**」をクリックする。

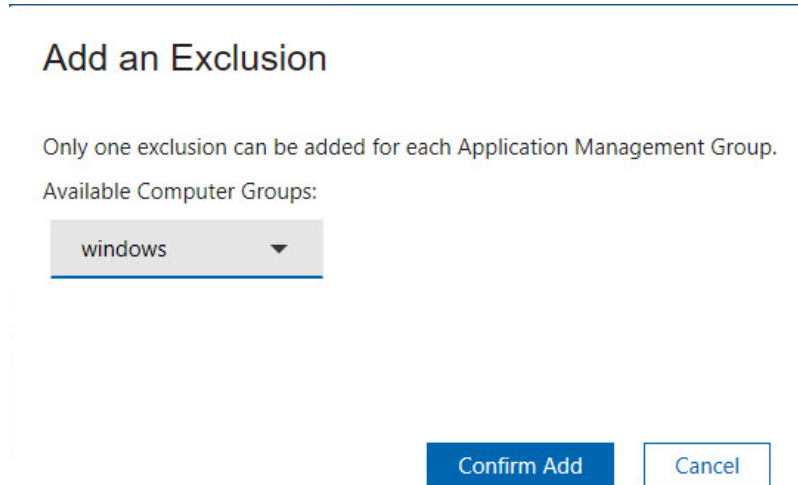
図 44. 除外の追加



「除外の追加」ダイアログが開きます。

3. 使用可能なコンピューター・グループのリストからコンピューター・グループを 1 つ選択します。

図 45. 使用可能なコンピューター・グループからの除外の選択



4. 「追加の確認」をクリックします。

以下のシナリオは、アプリケーション管理グループからコンピューターを除外する例です。



注: 文字は個々のコンピューターを指します。

```
Target1: Computer Group 1 (A, B)
Target2: Computer Group 2 (B, C)
Target3: Computer Group 3 (C, D)
Exclusion: Computer Group 2 (B, C)
```

この結果、コンピューター・グループ 2 に適用可能なコンピューターはなくなります。アプリケーション管理グループをデプロイすると、タスクはコンピューター A および D にのみ配信されます。

アプリケーション管理グループのデプロイ

アプリケーション管理グループをどのように配置するか、またそのグループと BigFix コンピューター・グループの関係について説明します。

アプリケーション管理グループがデプロイされると、以下のエンティティが作成されます。

- 自動コンピューター・グループ。
- 各タスクのアクション。

コンピューター・グループ

アプリケーション管理グループのコンピューター・グループは、初期セットアップ・プロセス中に作成されたカスタム・サイトに保管されます。たとえば、5 つのアプリケーション管理グループがデプロイされている場合、各アプリケーション管理グループに 1 つずつ、合計 5 つの自動コンピューター・グループが作成されます。

コンピューター・グループの定義には、アプリケーション管理グループにリストされているすべてのターゲットが含まれます。

コンピューター・グループは、次の命名規則を使用します。

```
name_of_the_custom_site name_of_the_Application_Management_Group
```

たとえば、セットアップ・プロセス中にカスタム・サイトに "swd_app_group" と命名し、"offer2" という名前のアプリケーション管理グループがある場合、"swd_app_group" サイトには "swd_app_group offer2" という名前のコンピューター・グループが見つかります。

図 46. コンピューター・グループの命名規則

All Computer Groups				Search All Computer Groups
Name	Type	Site	Member Computer...	
swd_app_group Offer1	Automatic	prova	0	
windows	Manual		0	

アクション

デプロイ時に作成されるアクションの数は、オペレーター・サイトによって異なります。オペレーター・サイトごとに、タスクごとに1つのアクションを指定できます。たとえば、マスター以外のオペレーターが2つのアプリケーション管理グループを作成し、両方のグループに同じタスクを追加したとします。2つのグループがデプロイされると、作成されるアクションは1つのみです。別のオペレーターがアプリケーション管理グループを作成し、最初のオペレーターと同じタスクを追加してグループをデプロイした場合は、別のアクションが作成されます。この例では、オペレーターごとに1つずつ、合計2つのアクションが作成されています。

マスター・オペレーターは同じオペレーター・サイトを使用するため、5つの異なるマスター・オペレーターがアプリケーション管理グループで同じタスクを使用すると、そのタスクに対して作成されるアクションは1つのみです。

アクションは、次の命名規則を使用します。

```
SWD AMG Action: title_of_the_originating_task
```

各アクションは、カスタム・サイト内の自動コンピューター・グループの ID を参照します。たとえば、“Swd_app_group offer2” というコンピューター・グループがあり、このコンピューター・グループに ID 44 があるとします。このアクションには、エンドポイントが ID が 44 のコンピューター・グループのメンバーであるかをチェックする関連句が含まれています。

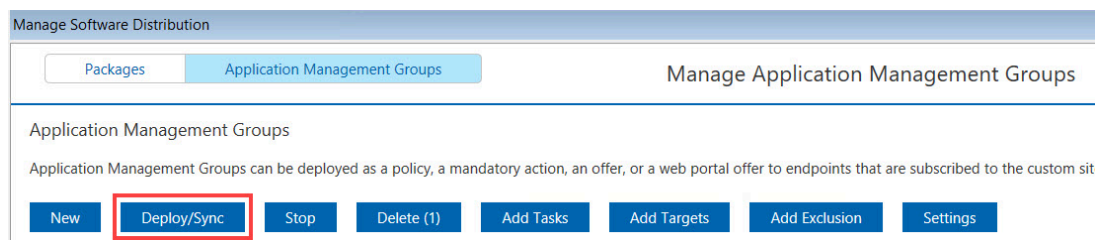
図 47. アクションの命名規則

All Content	Actions				
<ul style="list-style-type: none"> Fixlets and Tasks (6,982) WebUI Apps (10) Baselines (6) Analyses (144) Actions (986) <ul style="list-style-type: none"> All Actions (986) <ul style="list-style-type: none"> By State By Site By Issued By 	Time Issued	State	% Complete	Name	Site
	9/15/2021 10:41:54 ...	Open	100.00% (1...	Change Multiple Settings	Master
	9/15/2021 9:54:53 P...	Open	100.00% (1...	Change Multiple Settings	Master
	7/9/2021 5:11:47 PM	Open		SWD AMG:226: Deploy "New Product" Files - Installati...	Master
	6/3/2021 11:19:55 P...	Open		SWD AMG:226: Deploy "New Product" Files - Installati...	Master
	5/26/2021 3:40:20 P...	Open	0.00% (0/27)	SWD AMG:2444: Deploy "New Product" Files - Installa...	Master
	5/25/2021 3:35:10 P...	Open	0.00% (0/25)	SWD AMG:2443: Deploy "Mozilla Modificato" Files - L...	Master
	5/24/2021 7:55:03 P...	Open	0.00% (0/27)	SWD AMG:2629: Deploy "New Product" Files - Installa...	Master

デプロイメント

アプリケーション管理グループをデプロイするには、デプロイするグループを選択して「導入/同期」をクリックします。

図 48. アプリケーション管理グループのデプロイ



BigFix の資格情報の入力を促すプロンプトが 2 回出される場合があります。1 回目は Fixlet を作成するため、もう 1 回はコンピューター・グループを作成するためです。

選択にタスクまたはターゲットが含まれていない場合、アラート・メッセージが表示されます。

図 49. デプロイメント・アラート

Alert

The following Application Management Groups in your selection contain either no Tasks or no Targets. An Application Management Group needs both Tasks and Targets before it can be deployed. Either correct this or remove them from your selection and try again.

Name
Test

OK

アクションの実行間隔を空けるようプログラムに指示するには、詳細オプションを設定します。これにより、大容量のダウンロードなどの帯域幅の多いアクションによるネットワークの負荷を減らすことができます。これは、リレーが100百の接続されたクライアントを効果的にサービスできるようにする場合に特に便利です。このオプションは、主に必須アクションとポリシー・アクションに対応しています。

コンピューターごとに開始時刻を変えることができます。

図 50. アクションをずらす

Confirm Deploy

To successfully deploy the Application Management Groups, click YES or OK to any following dialog boxes that might display. You must also enter your BigFix credentials when requested.

Failure to hit Yes or OK or failure to enter your credentials may result in your Application Management Groups not being deployed successfully.

The console may appear unresponsive until the deploy/sync process is complete.

Advanced Options:

Please enter a number in the following range: 1-9999

☐ Stagger action start times over minutes to reduce network load

OK Cancel

アプリケーション管理グループがデプロイされると、ステータスが「導入済み」に変わります。

デプロイされたアプリケーション管理グループには、引き続き新規タスクまたはターゲットを追加できます。ただし、アプリケーション管理グループは新しいタスクまたはターゲットを追加されても自動更新されないため、ステータスが「デプロイメント」から「同期がずれている」に変わります。

同期ずれの状態

タスクまたはターゲットの追加または削除の前にアプリケーション管理グループがデプロイされていた場合、アプリケーション管理グループは同期されなくなります。

図 51. 同期ずれの状態

Application Management Groups Last Updated: 2021-09-22 07:47:29

Application Management Groups can be deployed as a policy, a mandatory action, an offer, or a web portal offer to endpoints that are subscribed to the custom site "prova1".

[New](#)
[Deploy/Sync](#)
[Stop](#)
[Delete \(1\)](#)
[Add Tasks](#)
[Add Targets](#)
[Add Exclusion](#)
[Settings](#)

Search

<input type="checkbox"/> micros	Out of Sync ▲	admin	admin	2021-05-26 15:39:51	202^
---------------------------------	---------------	-------	-------	---------------------	------

同期状態に戻すには、アプリケーション管理グループをデプロイする必要があります。

黄色のアイコンをクリックして、最後にデプロイしたモデルを確認します。

図 52. 「モデルの比較」 ダイアログ

Compare Models

Current Model

Tasks Targets Exclusion

Name	ID	Site	Deploy Type	Warnings
Deploy "Mozilla M...	2443	ActionSite	1	
Deploy "New Prod...	226	ActionSite	1	
Deploy "New Prod...	2444	ActionSite	1	
Distribuisi: Config...	2677	ActionSite	1	

Last Deployed Model

Tasks Targets Exclusion

Name	ID	Site	Deploy Type
------	----	------	-------------

[Close](#)

孤立した所有者

ローカル・オペレーターが LDAP オペレーターに変換されても、そのローカル・オペレーターのオペレーター名と共有パッケージのアプリケーション管理グループへの関連付けは残ります。ただし、そのローカル・オペレーターは存在しなくなります。マスター・オペレーターは、孤立した所有者のリソースを、存在する所有者に移す必要があります。

対応する LDAP オペレーターへのリソースの移転

変換されたローカル・オペレーターのリソースを、対応する LDAP オペレーターに関連付けることができます。

移転プロセスを完了するには、孤立した所有者のすべてのアプリケーション管理グループを停止する必要があります。

1. 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードで、孤立した所有者を置き換える新しい所有者を選択するように求められます。

図 53. 孤立した所有者の移転

2. ドロップダウン・リストから適切な LDAP オペレーターを選択します。
3. 「コミット」をクリックします。

孤立した所有者に属していたリソースが、対応する LDAP オペレーターに属します。コンソール許可はすべて、新しいオペレーターにそのまま引き継がれます。

別のオペレーターへのリソースの移転

変換されたローカル・オペレーターのリソースを、対応する LDAP オペレーターの代わりに別のオペレーターに関連付けることができます。

所有権の移転を開始する前に、ソフトウェア・パッケージまたはアプリケーション管理グループによって参照されるタスクを表示および編集するための適切な許可が新しいオペレーターにあることを確認する必要があります。そうしないと、パッケージ管理グループまたはアプリケーション管理グループ内のタスクが新しいオペレーターに正しく移転されない可能性があります。

移転プロセスを完了するには、孤立した所有者のすべてのアプリケーション管理グループを停止する必要があります。

1. 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードで、孤立した所有者を置き換える新しい所有者を選択するように求められます。

図 54. 孤立した所有者の移転

2. ドロップダウン・リストで、対応する LDAP オペレーターの代わりに新しい所有者を選択します。
3. 「コミット」をクリックします。

孤立した所有者に属していたリソースが新しいオペレーターに属すようになりました。

ソフトウェア配信セルフ・サービス・ポータル概要 (非推奨)

この機能は非推奨です。

ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルは、ユーザー・セルフプロビジョニング用の Web ベースのソフトウェア・ポータルです。セルフサービス・ポータルでは、Windows、AIX、および Solaris 上のエンドポイントがサポートされます。エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルからソフトウェアを使用できるようにするには、「ポータルの提案」タスクをアプリケーション管理グループに追加します。詳しくは、『[アプリケーション管理グループへのタスクの追加](#)』を参照してください。

エンドポイント・ユーザーがコンピューターで使用可能になったソフトウェアを表示できるようにするには、コンピューターの登録が必要です。ソフトウェアの状態は、「使用可能」、「保留中」、「成功」、または「失敗」のいずれかです。詳しくは、『[ソフトウェア・インストールの状況](#)』を参照してください。

エンドポイント・ユーザーは、Web ポータルから任意の使用可能なソフトウェアを選択し、登録済みのコンピューターにリモートからインストールできます。



注: エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルにログインしている場合、ソフトウェア・オファラー・リストはユーザーがポータルからログアウトするまで変更されません。ユーザーがポータルにロ



ログインした後にコンソール・オペレーターがアプリケーション管理グループを更新した場合は、ユーザーがいったんログアウトしてから再度ログインして初めて変更が有効になります。

次の表は、標準的なセルフサービス・ポータル・ワークフローを示しています。

表 6. セルフサービス・ポータル・ワークフロー


タスク	担当者	詳しくは
「ポータルの提案」タスクをアプリケーション管理グループに追加する。	コンソール・オペレーター	『 アプリケーション管理グループへのタスクの追加 』を参照してください。
ソフトウェア配信セルフサービス・ポータル・コンポーネントをセットアップして構成する。	コンソール・オペレーター	『 ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルの構成 』を参照してください。
各コンピューターの PIN を生成する。	コンソール・オペレーター	『 各コンピューターの PIN の生成 』を参照してください。
特定のコンピューターの登録をブロックする。	コンソール・オペレーター	『 コンピューターの登録のブロック 』を参照してください。
セルフサービス・ポータルにアクセスする。	エンドポイント・ユーザー	『 ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルへのアクセス 』を参照してください。
コンピューターをユーザーに登録する。	エンドポイント・ユーザー	『 セルフサービス・ポータルを使用したコンピューターの登録 』を参照してください。
<div>  注: エンドポイント・ユーザーが自分で登録を完了できない場合には、コンソール・オペレーターが「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードからユーザーの代わりにコンピューターを登録できます。ただし、このオプションは推奨されません。詳しくは、『「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用したコンピューターの登録』を参照してください。 </div>		
セルフサービス・ポータルからソフトウェアをインストールする。	エンドポイント・ユーザー	『 セルフサービス・ポータルからのソフトウェアのインストール 』を参照してください。
「ソフトウェアのインストール履歴」ページを表示する。	エンドポイント・ユーザー	『 インストール履歴の表示 』を参照してください。
セルフサービス・ポータルをアンインストールする。	コンソール・オペレーター	『 セルフサービス・ポータルのアンインストール 』を参照してください。

表 6. セルフサービス・ポータル・ワークフロー
(続く)

タスク	担当者	詳しくは
トラブルシューティングする。	コンソール・オペレーター	よくある質問 を参照してください。

ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルの構成

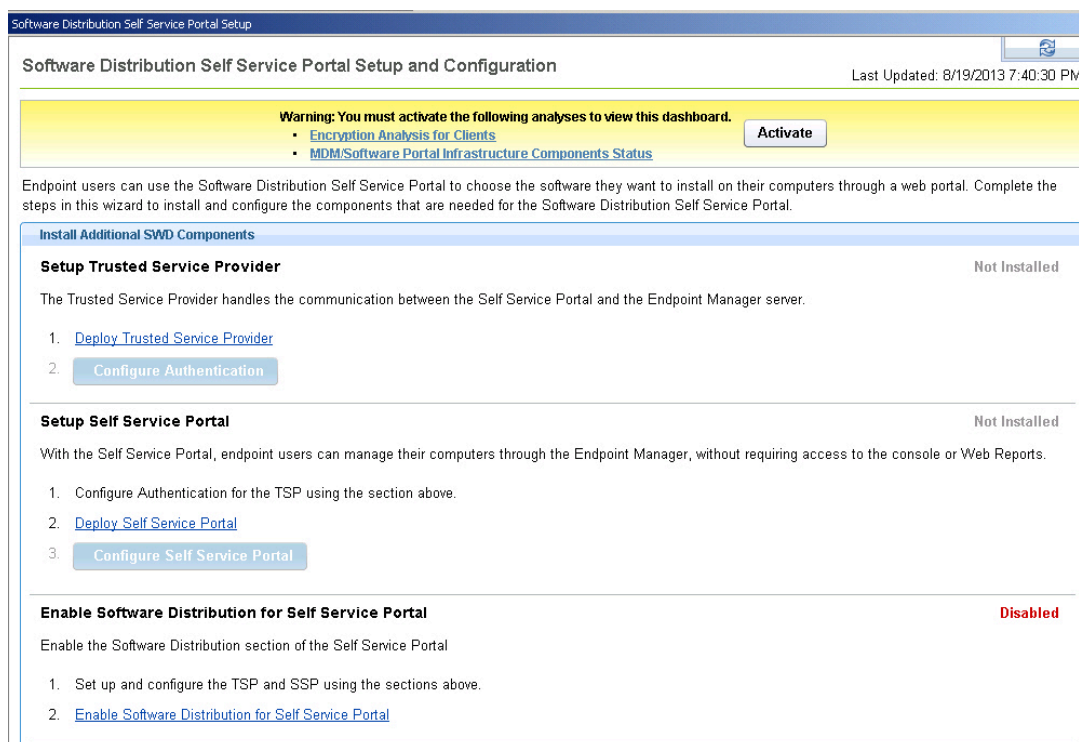
コンソール・オペレーターは、ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルのセットアップおよび構成ウィザードを使用して、ポータルに必要なコンポーネントをインストールできます。

以下の基準を満たしていることを確認してください。

- LDAP サーバーをセットアップする必要があります。
- 少なくとも BigFix バージョン 9.0.0 以降がインストールされている必要があります。

ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルのセットアップおよび構成ウィザードでは、簡単なステップバイステップ方式のガイド付きプロセスに従って必要なコンポーネントを構成できます。このウィザードは、必要な各ステップの状況を確認して通知します。

図 55. ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルのセットアップおよび構成ウィザード



これらの手順は、マルチテナント環境や、複数のセルフサービス・ポータルまたはトラステッド・サービス・プロバイダーがデプロイされている環境では使用できません。このような場合には、コンポーネントを手動で構成する必要があります。



注: トラステッド・サービス・プロバイダーとセルフサービス・ポータルをすでに構成している場合は、このタスクをスキップし、以下のアクションを実行してください。

- 適切なアップグレード Fixlet を実行する。
- 「セルフサービス・ポータル用のソフトウェア配信の有効化」タスクを実行する。

1. システム・ライフサイクル・ドメインで、「ソフトウェア配信」>「設定」>「ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルのセットアップ」をクリックします。
2. 「アクティブ化」をクリックして、ダッシュボードを表示するために必要な分析をアクティブ化します。
3. トラステッド・サービス・プロバイダーをデプロイして構成します (まだ実行していない場合)。トラステッド・サービス・プロバイダーは、BigFix サーバーと外部 LDAP サーバーとの間の通信を管理します。



注: トラステッド・サービス・プロバイダーをすでに構成している場合は、以下のステップをスキップし、適切なアップグレード Fixlet を実行してください。

- a. 「トラステッド・サービス・プロバイダーの導入」をクリックし、ソフトウェア配信トラステッド・サービス・プロバイダーのインストールに使用される Fixlet を実行します。



注: トラステッド・サービス・プロバイダーは、LDAP サーバーにアクセスでき、またセルフサービス・ポータルからアクセスできるコンピューターにインストールする必要があります。

- b. 「認証の構成」をクリックし、トラステッド・サービス・プロバイダーを外部 LDAP サーバーに向け、資格情報を設定します。「認証の構成」ダイアログが表示されます。

図 56. 「認証の構成」ダイアログ

Configure Authentication

The Self Service Portal uses the Trusted Service Provider to authenticate users through LDAP. Use this wizard to configure the communications between these components

Configure Authentication

LDAP Server Hostname: ldap.myCompany.com ?

Port: 636 ☒ Use SSL

LDAP User: cn=Service Account,cn=Users,dc=ibm,dc=com

LDAP Password:

Base DN: cn=Users,dc=ibm,dc=com ?

Login Attribute: mail ?

User Query: (objectClass=person) ?

Use Group Filtering: ☐ (objectClass=groupOfNames) ?

Selected Groups: 0 Groups Selected View/Edit Groups ?

Test Settings

SSL Settings

Generate Self-signed SSL certificates

Generate certificates using the Trusted Service Provider's hostname: TSP1

*Note this will create a single Action.

Configure Authentication Cancel

- c. LDAP サーバー情報を入力します。この情報は LDAP 管理者から提供されます。



注: エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルへのログインに使用する LDAP ログイン属性を選択できます。たとえば、E メール・アドレスやユーザー ID を選択できます。

- d. 「**設定のテスト**」をクリックして、LDAP サーバーと通信できることを確認します。
- e. トラステッド・サービス・プロバイダーのホスト名を入力します。ホスト名は事前に設定されており、ほとんどの環境では変更する必要はありません。
- f. 「**認証の構成**」をクリックし、アクションを作成して実行します。
4. セルフサービス・ポータルをデプロイし、トラステッド・サービス・プロバイダーと通信するように設定します (まだ実行していない場合)。



注: セルフサービス・ポータルをすでに構成している場合は、以下のステップをスキップし、適切なアップグレード Fixlets を実行してください。

- a. 「**セルフサービス・ポータルのデプロイ**」をクリックして、ポータルをインストールします。
- b. 「**セルフサービス・ポータルの構成**」をクリックします。「セルフサービス・ポータルの構成」ダイアログが表示されます。

図 57. 「セルフサービス・ポータル」の構成」ダイアログ

Configure Self Service Portal

The Self Service portal allows end users to manage their own mobile devices and requires that it be configured to communicate with the Trusted Service Provider in order to do this.

Configure Web Reports Access

Web Reports URL:

Web Reports User:

Web Reports Password:

Configure IEM Operator Credentials

IEM Console Operator:

IEM Console Password:

SSL Settings

This SSP was installed with the Enrollment Extender. The SSP will share the Enrollment Extender's SSL certificates, so no new certificates need to be set.

*Note this will create two separate Actions.

- c. Web レポートにアクセスするための情報を入力します。
- d. コンソール・オペレーターの資格情報を入力します。
- e. 必要に応じて、SSL 設定を構成します。
- f. 「**SSP の構成**」をクリックし、アクションを作成して実行します。



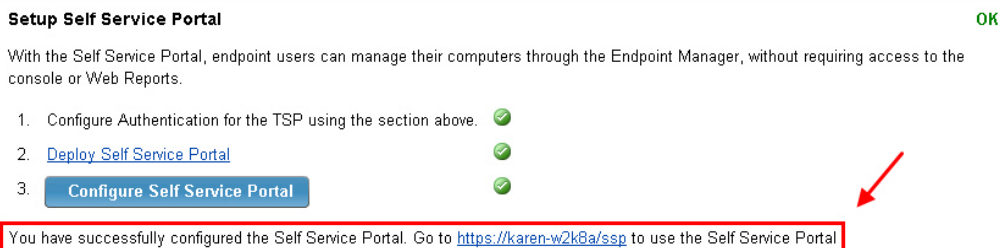
注: セルフサービス・ポータルを構成すると、コンソールに 2 つのアクションが作成されます。続行する前に、両方のアクションが完了していることを確認してください。これらのアクションは完了までに数分かかる場合があります。

セルフサービス・ポータルを正常に構成すると、ポータルにアクセスするための URL がダッシュボードに表示されます。



重要: ソフトウェア配信とモバイル・デバイス管理は、SSP コンポーネントを共有します。モバイル・デバイス管理固有のエクステンダーを削除せずにモバイル・デバイス管理サイトをサブスクライブ解除しないでください。これを行うと、URL に問題が発生する可能性があります。

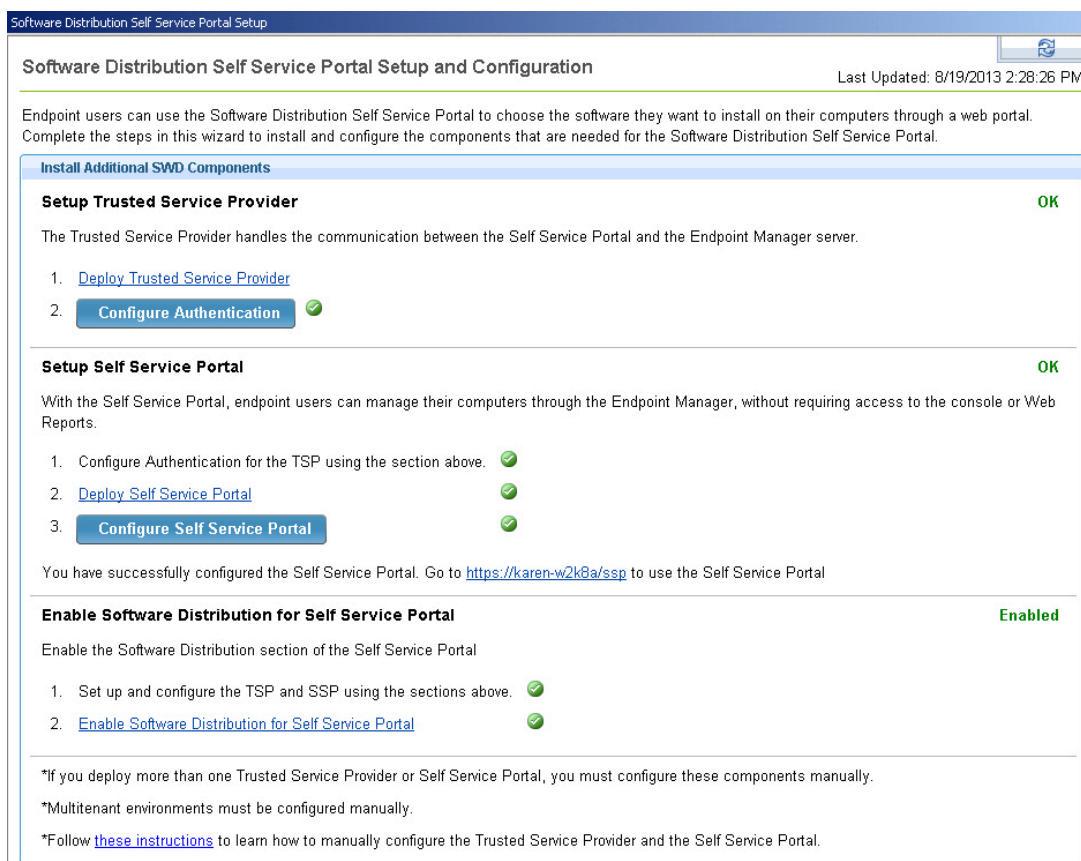
図 58. セルフサービス・ポータル・URL



5. 「セルフサービス・ポータル用のソフトウェア配信の有効化」をクリックします (まだ実行していない場合)。

以下の画面キャプチャーに示すように、すべての必要なステップを完了したことがウィザードに表示されます。

図 59. ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルが正常にインストールおよび構成されました



「トラステッド・サービス・プロバイダーの診断」ページとセルフサービス・ポータルの構成ファイルが `path_to_TEM_Server_directory\MDM Provider\config` フォルダーに作成されます。デフォルト・パスは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\config` です。

「トラステッド・サービス・プロバイダーの診断」ページと「セルフサービス・ポータルの診断」ページおよび構成ファイルを使用して、これらのコンポーネントが正常に構成されていることを確認します。

トラステッド・サービス・プロバイダーの場合

- ・「トラステッド・サービス・プロバイダーの診断」ページを使用して、トラステッド・サービス・プロバイダーが正常に構成されたかどうかを確認します。

このページでは、SSL 証明書を検査し、LDAP および BigFix への接続を試行します。また、サンプル関連照会の実行も試みます。

トラステッド・サービス・プロバイダーの診断ページの URL 構文は、次のとおりです。

`https://<your_host_name>/diagnostics`

- ・構成ファイルを確認します。
 1. `path_to_TEM_Server_directory\MDM Provider\config` にある `tsp-config.yaml` ファイルを開きます。デフォルト・パスは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\config` です。
 2. 以下のフィールドのいずれかが欠落している場合は、トラステッド・サービス・プロバイダーを再構成します。
 - `:organization_name:`
 - `:hostname:`
 - `:ldap_admin_user:`
 - `:ldap_admin_pass:`
 - `:wr_path:`
 - `:wr_user:`
 - `:wr_pass:`
 - `:tem_user:`
 - `:tem_pass:`
 - `:tem_server:`

セルフ・サービス・ポータルの場合

- ・「セルフサービス・ポータルの診断」ページを使用して、セルフサービス・ポータルが正常に構成されているかどうかを確認します。

このページは、認証登録に必要なトラステッド・サービス・プロバイダーへの接続を検査します。

「セルフサービス・ポータルの診断」ページの URL 構文は、次のとおりです。 `https://`

`<your_host_name>/ssp/diagnostics`

- ・構成ファイルを確認します。
 1. `path_to_TEM_Server_directory\MDM Provider\config` にある `ssp-config.yaml` ファイルを開きます。デフォルト・パスは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\config` です。
 2. 以下のいずれかのフィールドが欠落している場合は、セルフサービス・ポータルを再構成します。

- :install_mode:
- :organization_name:
- :tsp_host:
- :tsp_port:
- :hostname:

自己署名 SSL 証明書の使用

自己署名 Secure Socket Layer (SSL) 証明書は、ソフトウェア配信セルフサービス・ポータル (SSP) の構成時に自動的に生成されます。証明書を使用して SSL プロトコルを有効にすると、トラステッド・サービス・プロバイダーとそれにアクセスするすべてのユーザーとの間のセキュアな通信を実現できます。

このトピックでは、ソフトウェア配信 SSP に対してのみ自己署名 SSL 証明書を生成する方法について説明します。

自己署名 SSL 証明書の管理は複雑であるため、Verisign などの認証局 (CA) によって正式に署名された SSL 証明書を購入することを検討してください。外部の CA を使用する場合、既知の公開 CA のルート証明書は、最新の Web ブラウザーにデフォルトでインポートされているという利点があります。詳しくは、『[信頼された認証局からの SSL 証明書の使用](#)』を参照してください。

自己署名 SSL 証明書は、以下のいずれかの方法で生成できます。

- ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルのセットアップおよび構成ウィザードから SSP を構成すると、自己署名 SSL 証明書が自動的に生成されます。このウィザードについて詳しくは、『[ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルの構成](#)』を参照してください。
- コマンド・ラインで `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\utils` フォルダーから以下のコマンドを実行して、SSP 用の秘密鍵と証明書署名要求 (CSR) を作成します。

```
ssp.bat recreate_certs <ssp_hostname>:<port>
```

ポートはオプションです。SSP によって使用されるデフォルト・ポートは 443 です。



注: 構成コマンドを実行するには、**IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービス (BESiOSServer.exe) を停止する必要があります。

`ca_cert.pem` ファイルは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\private\ssp` に作成されます。この自己生成認証局 (CA) 証明書を各エンドポイントの Web ブラウザーにインストールします。自己署名 SSL 証明書は、対応する CA 証明書がエンドポイントのトラステッド証明書ストアに追加されない限り、Web ブラウザーにより信頼されません。

信頼された認証局からの SSL 証明書の使用

ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルを使用するためにトラステッド認証局 (CA) の証明書を構成する方法について説明します。

秘密鍵と証明書ファイルが PEM フォーマットであり、以下のような適切なフォーマットと構造になっていることを確認してください。

プライベート・キーのフォーマット

PEM エンコード形式で、パスワード保護機能なし。pvk フォーマットはサポートされていません。秘密鍵が開始タグと終了タグで囲まれていることを確認します。

```
-----BEGIN RSA PRIVATE KEY-----
<<base64 encoded string from private.key>>
-----END RSA PRIVATE KEY-----
```

X509 証明書のフォーマット

PEM エンコード形式。プライマリー証明書ファイルが開始タグと終了タグで囲まれていることを確認します。

```
BEGIN CERTIFICATE-----
<<primary certificate: base64 encoded string from certificate.crt>>
-----END CERTIFICATE-----
```

中間証明書も別のファイルとして受け取った場合は、そのファイルが開始タグと終了タグで囲まれていることを確認してください。

```
BEGIN CERTIFICATE-----
<<intermediate certificate: base64 stringfrom ca_intermediate.crt>>
-----END CERTIFICATE-----
```

個別のファイルを 1 つのファイルに結合する必要はありません。

ファイルが DER でエンコードされているか、その他のフォーマットである場合は、OpenSSL を使用して PEM フォーマットに変換できます。たとえば、`openssl x509 -inform der -in cert.crt -out cert.pem` です。

証明書は、プライベート CA や組織の CA、または Entrust や Verisign などの国際的に信頼されている CA によって署名されている必要があります。これらの CA の証明書は、多くの場合、デフォルトで信頼されており、ブラウザーに警告が表示されることはありません。プライベート CA を使用する場合は、警告が表示される可能性があります。

1. SSL プライベート・キーの名前を `ssl_key.pem` に変更します。
2. SSL 証明書の名前を `ssl_cert.pem` に変更します。
3. 中間証明書バンドルがある場合は、その名前を `ssl_bundle.pem` に変更します。
4. **IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービス (`BESiOSServer.exe`) を停止します。
5. `ssl_cert.pem`、`ssl_key.pem`、および `ssl_bundle.pem` (該当する場合) を `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\private\ssp` フォルダーに保存します。
6. コマンド・ラインで、`C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\utils` フォルダーに移動し、次のコマンドを実行します。

```
ssp.bat recreate_keystore
```

7. **IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービス (`BESiOSServer.exe`) を開始します。

証明書の更新

期限切れの証明書を更新して、ネットワーク通信の問題を回避するとともに、信頼されたルートとの安全かつ継続的な接続を確保します。

- 自己署名 SSL 証明書の更新。

1. **IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービス (`BESiOSServer.exe`) を停止します。
2. コマンド・ラインで、`C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\utils` フォルダに移動します。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
ssp.bat recreate_certs <hostname>
```

4. **IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービス (`BESiOSServer.exe`) を開始します。

- 認証局 (CA) 証明書の更新

『[信頼された認証局からの SSL 証明書の使用](#)』で説明されている手順を使用します。

信頼できる通信は、更新された証明書をエンドポイントの Web ブラウザーにインストールした場合にのみ再確立されます。

複数のトラステッド・サービス・プロバイダーおよびセルフサービス・ポータル構成

マルチテナント環境では、複数のトラステッド・サービス・プロバイダー (TSPs) とセルフサービス・ポータル (Ssp) を構成する必要があります。

複数の TSP と SSP を構成するには、ソフトウェア配信サイトに以下のタスクをデプロイします。

- トラステッド・サービス・プロバイダーの導入 (ID # 143)
- セルフサービス・ポータルのデプロイ (ID # 144)

その後、『[セルフサービス・ポータル用のマルチテナント・セットアップ](#)』で説明されている手順に従って TSP を手動で構成します。

セルフサービス・ポータル用のマルチテナント・セットアップ

セルフサービス・ポータル (SSP) を使用してマルチテナント環境を設定する場合、SSP は手動で構成する必要があります。また、SSP と通信させるためには、トラステッド・サービス・プロバイダー (TSP) も手動で構成する必要があります。

マルチテナントのインストール・プロセスは、通常の SSP デプロイメントのときと同じです。そこから先の残りの構成ステップは、コンテンツの外部で完了します。この構成は、`<Program Files>\BigFix Enterprise`

`\Management Extender\MDM Provider\utils\ssp.bat` にあるコマンド・ライン・ユーティリティを使用
して完了します。

任意の構成ステップの `MDM Provider\utils` フォルダーに対する管理者権限でコマンド・ラインを開きます。

マルチテナント・モードの有効化

デプロイメントをマルチテナント・モードに設定する必要があります。

1. IBM BigFix 管理ツールを起動します。
2. 「**拡張オプション**」をクリックします。
3. 値を「1」に設定して、**mdmAppsUsePrivate** 拡張オプションを追加します。
4. 残りのマルチテナントを機能させるには、サーバーを「マルチテナント・モード」に設定します。

```
ssp.bat config multitenant true
```

SSL 証明書とホスト名の構成

SSP のインストール・プロセス中に誤ったデフォルトのホスト名または DNS 名が指定されている場合にセルフサービス・ポータル (SSP) の SSL 証明書を構成します。

以下の構成コマンドを実行するには、**IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービス (`BESiOSServer.exe`) を停止する必要があります。

1. SSP のホスト名を変更し、このホスト名に一致する新しい SSL 証明書を作成するには、以下のコマンドを実行します。

```
ssp.bat recreate_certs <hostname>
```

2. 正式に署名された SSL 証明書を使用する場合は、以下のファイルに正しい名前が付けられていることを確認してください。
 - SSL 秘密鍵は `ssl_key.pem` という名前であればなりません。
 - 証明書は `ssl_cert.pem` という名前であればなりません。
 - 中間証明書バンドルがある場合は、そのバンドルが `ssl_bundle.pem` という名前であることを確認してください。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
ssp.bat recreate_keystore
```

登録タグの構成

複数のサーバーを管理する場合は、管理対象のサーバーを他のサーバーから区別するために登録タグを指定する必要があります。登録タグを使用すると、マルチテナント環境を有効化し、BigFix コンソール・オペレーターはコンピューターを管理するサーバーに従って、特定のコンピューターを対象にできるようになります。

登録タグの追加

登録タグを追加することは、このエクステンダーに顧客またはテナントを追加することと同じです。

このプロセスでは、タグ ID、URL タグ、組織名タグの表示名の 3 つの値を指定する必要があります。

```
ssp.bat tag_init <tag id> <url tag> <organization name>
```

タグ ID の値は、組織にとって意味のある値であり、コンピューターがその「登録タグ」としてレポートする値です。

URL タグは、このタグにマップする登録 URL に対応します。

```
ssp.bat tag_init "12" "foo" "Foo, Inc"
ssp.bat tag_init "24" "swd" "SWD Corporation"
```

前の例では、ID が「12」と「24」の 2 つのタグを作成し、それらを外部 URL `/ssp/c/foo` と `/ssp/c/swd` によってマップされます。

これらのタグは、以下のアクションを実行します。

- タグ固有のファイルを保存するための `MDM Provider\tags\<tag id>` ディレクトリーを作成する。
- 新規登録タグを認識するためのメイン `config.yaml` を構成する。



注: エクステンダーをマルチテナント用に設定する場合、ここで作成する登録タグは、Management Extender で作成する登録タグと一致する必要があります。

さまざまな登録タグ固有の URL

URL タグは、登録サーバーが想定される Management Extender 構成を決定する手段です。

登録:

```
https://mdm.company.com/ssp/c/foo
```

診断:

```
https://mdm.company.com/ssp/c/foo/diag
```

登録タグの削除

登録タグを削除するには、以下のコマンドを実行します。

```
ssp.bat tag_remove <tag id>
```



注: このコマンドは、`tags` ディレクトリーの下にある指定されたタグのフォルダーとその構成を削除します。

認証登録の構成

認証登録の構成方法には、基本モード、LDAP、または SAML を使用する方法以外に 2 つのオプションがあります。LDAP 認証は、トラステッド・サービス・プロバイダー (TSP) でサポートされているものと同一であり、「パスワード」モードまたは「pin」モードのいずれかで実行できます。

• セルフサービス・ポータル (SSP) での LDAP/TSP 認証の構成

最初に SSP で認証を要求するように構成し、次に接続を認証する TSP に SSP を向ける必要があります。

必須:

```
ssp.bat tag_config 12 auth_type LDAP
ssp.bat tag_config 12 tsp_host foo-tsp.company.com
```

TSP が顧客ごとに固有ではない場合は、このタグで特定の TSP を構成する必要はありません。TSP はマスターの `config.yaml` 設定から構成を継承します。

オプション:

```
ssp.bat tag_config 12 auth_header_text "Enter your email address and your password"
ssp.bat tag_config 12 auth_user_label "Email"
ssp.bat tag_config 12 auth_pass_label "Password"
```

• SAML 認証

SAML 認証は単一テナント環境で使用でき、SAML 認証時に使用される構成コマンドはすべてデフォルトで登録サーバー全体に適用されます。この方法は、マルチテナント環境では望ましい動作ではない場合があります。

マルチテナント環境で SSP に SAML 認証を構成する場合は、すべての構成コマンドを `tag_config` コマンドに変更します。これにより、コマンドは特定の登録タグのみに適用され、登録サーバー全体には適用されません。`tag_config` コマンドの後にタグ ID を含める必要があります。たとえば、

```
ssp.bat config auth_type SAML
```

は次のようになります。

```
ssp.bat tag_config <foo> auth_type SAML
```

ここで `foo` はタグ ID です。

また、マルチテナント環境で SAML 認証を設定するには、`auth_enrollment_tag_attribute` を使用する必要があります。この設定は、SAML ID プロバイダー (idP) がその応答に含める属性を指定します。この属性には、認証されるユーザーの登録タグが含まれています。

この設定を指定すると、登録サーバーは、ユーザーが登録に使用する登録タグが実際に適切なものであることを確認します。

```
ssp.bat config auth_enrollment_tag_attribute o
```

トラステッド・サービス・プロバイダーの構成

BigFix server と Web レポートから SSP への通信は、トラステッド・サービス・プロバイダー (TSP) を通過します。TSP にこれらの資格情報を手動で構成する必要があります。

1. 以下のコマンドを実行して、角カッコ (<>) 内の例を置き換えます。

```
tsp.bat config tem_server <hostname.domain.com>
tsp.bat config tem_user <username>
tsp.bat config tem_pass <password>

tsp.bat config wr_path "<http://hostname.domain.com>"
tsp.bat config wr_user <username>
tsp.bat config wr_pass <password>
```

2. TSP が SAML 認証用に認識する各登録タグの SAML 証明書フィンガープリントを構成します。

```
tsp.bat saml_cert set "<enrollment tag>" "<saml certificate file or fingerprint>"
```

3. フィンガープリントは、以下に示すように、OpenSSL ツールを使用して見つけることができます。

```
openssl x509 -in your-cert.pem -fingerprint -sha1
```



注: ここで入力するフィンガープリントは、SAML 構成時に入力したものと完全に一致する必要があります。

マルチテナントのセルフサービス・ポータルへのアクセス

マルチテナント環境のエンドポイント・ユーザーは、任意の Web ブラウザーを使用してソフトウェア配信セルフサービス・ポータルにアクセスできます。

セルフサービス・ポータルをマルチテナント用に設定した後、以下の URL の構文を使用してポータルにアクセスできます。

```
http://<domain>/ssp/c/<tag>
```

各コンピューターの PIN の生成

コンソール・オペレーターは、セルフサービス・ポータル登録用に各コンピューターを識別するために使用される一意の個人識別番号 (PIN) を生成する必要があります。

- Windows と Mac の各コンピューターの Web ポータル登録 PIN を生成するには、以下の手順を実行します。

1. システム・ライフサイクル・ドメインから、「ソフトウェア配信」 > 「設定」 > 「クライアント・ダッシュボードの設定」をクリックします。
2. Fixlet 14 のデプロイ: **Client Dashboard for Software Offers の有効化とセルフサービス・ポータル登録のための PIN の生成 (Windows、Mac)** を行います。
3. 以前にクライアント・ダッシュボードを有効にした場合は、「**Fixlet 16: Client Dashboard for Software Offers の更新とセルフサービス・ポータル登録のための PIN の生成 (Windows、Mac)**」をデプロイしてクライアント・ダッシュボードを最新の状態にします。



注: PIN がクライアント・ダッシュボードに表示されます。ただし、クライアント・ダッシュボードを表示せずに Windows および Mac コンピューターの PIN を生成する場合は、「**Fixlet 20: セルフ・サービス・ポータル登録用の PIN の生成**」のみをデプロイします。

- 各 Linux コンピューターの Web ポータル登録 PIN を生成するには、「**Fixlet 20: セルフ・サービス・ポータル登録用の PIN の生成**」のみをデプロイします。

Windows コンピューター

PIN は、BigFix サポート・センターとも呼ばれるクライアント・ダッシュボードの「**使用可能なソフトウェア**」タブに表示されます。



注: 以前のバージョンのクライアント・ダッシュボードでは、PIN は表示されません。PIN は `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\EnterpriseClient\SSP_PIN` にあります。

Linux、AIX、および Solaris コンピューター

PIN は `/var/opt/BESClient/SSP_PIN` にあります。

Mac コンピューター

PIN は `/Library/Application Support/BigFix/BES Agent/SSP_PIN` にあります。

「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用したコンピューターの登録

エンドポイント・ユーザーは、セルフサービス・ポータルを使用して自分のコンピューターを登録する必要があります。必要に応じて、コンソール・オペレーターは、「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用して、エンドポイント・ユーザーのコンピューターを登録できます。

このタスクは、コンソール・オペレーターがセルフサービス・ポータルにコンピューターを登録する必要がある場合に使用します。

「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用して、コンピューターまたはユーザーを登録リストに追加できます。ダッシュボードについて詳しくは、『[「セルフ・サービス・ポータル登録管理」ダッシュボード \(非推奨\)](#)』を参照してください。

1. システム・ライフサイクル・ドメインで、「ソフトウェア配信」 > 「セルフ・サービス・ポータル登録管理」をクリックします。
2. コンピューターを登録するには、リストされたコンピューターにユーザーを追加するか、リストされたユーザーにコンピューターを追加します。

コンピューターをユーザーに登録するには、以下の手順を実行します。

- a. 「ユーザー別リスト」タブをクリックします。
- b. 「登録済み」列で対応するコンピューター・リンクをクリックします。
- c. ドロップダウン・リストからコンピューター名を選択します。
- d. 「コンピューターの登録」をクリックします。

ユーザーをコンピューターに登録するには、以下の手順を実行します。

- a. 「コンピューター別リスト」タブをクリックします。
- b. 「登録済み」列で対応するユーザー・リンクをクリックします。
- c. コンピューターに追加するエンドポイント・ユーザーのユーザー名を入力します。
- d. 「ユーザーの登録」をクリックします。

3. 確認するには「OK」をクリックします。

このアクションは、完了するまでに数分かかる場合があります。ダッシュボードには、アクションが完了したときのみ更新が表示されます。アクションが完了すると、追加したコンピューターまたはユーザーがダッシュボードに表示されます。



注: 「登録済み」列で対応するリンクをクリックし、「コンピューターの削除」または「ユーザーの削除」をクリックして、登録リストからコンピューターやユーザーを削除できます。

登録情報は、以下の場所に保存されます。

Windows コンピューター

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\EnterpriseClient\SSP_Green
```

Mac および Linux コンピューター

```
/var/opt/BESClient/___BESData/SSP_Green
```

コンピューターの登録のブロック

コンソール・オペレーターは、「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用して、ユーザーがセルフサービス・ポータルにコンピューターを登録できないようにすることができます。コンソール・オペレーターとしてユーザーがセルフサービス・ポータルにコンピューターを登録できないようにする場合は、この手順を使用します。

「セルフサービス・ポータル登録管理」ダッシュボードを使用して、ブロック・リストにコンピューターまたはユーザーを追加します。ダッシュボードについて詳しくは、『[「セルフ・サービス・ポータル登録管理」ダッシュボード \(非推奨\)](#)』を参照してください。

1. システム・ライフサイクル・ドメインで、「ソフトウェア配信」 > 「セルフ・サービス・ポータル登録管理」をクリックします。
2. コンピューターをブロックするには、リストされたコンピューターにユーザーを追加するか、リストされたユーザーにコンピューターを追加します。

コンピューターがユーザーに追加されないようにするには、以下の手順を実行します。

- a. 「ユーザー別リスト」タブをクリックします。
- b. 「ブロック」列で対応するコンピューター・リンクをクリックします。
- c. ドロップダウン・リストからコンピューター名を選択します。
- d. 「コンピューターのブロック」をクリックします。

ユーザーがコンピューターに追加されないようにするには、以下の手順を実行します。

- a. 「コンピューター別リスト」タブをクリックします。
- b. 「ブロック」列で対応するユーザー・リンクをクリックします。
- c. コンピューターに追加するエンドポイント・ユーザーのユーザー名を入力します。
- d. 「ユーザーのブロック」をクリックします。

3. 確認するには「OK」をクリックします。

このアクションは、完了するまでに数分かかる場合があります。ダッシュボードには、アクションが完了したときのみ更新が表示されます。アクションが完了すると、追加したコンピューターまたはユーザーがダッシュボードに表示されます。



注: また、「ブロック」列で対応するリンクをクリックし、「コンピューターの削除」または「ユーザーの削除」をクリックして、ブロック・リストからコンピューターやユーザーを削除することもできます。

ブロックされたユーザーおよびコンピューターに関する情報は、以下の場所に保存されます。

Windows コンピューター

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\EnterpriseClient\SSP_Red
```

Mac および Linux コンピューター

```
/var/opt/BESClient/___BESData/SSP_Red
```

ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルへのアクセス

エンドポイント・ユーザーは、任意の Web ブラウザーを使用してソフトウェア配信セルフサービス・ポータルにアクセスできます。

管理者からセルフサービス・ポータルの URL を取得します。この Web アドレスは、管理者によって決定され、デプロイメントごとに異なります。

1. Web ブラウザーから適切な URL を入力します。
URL の構文は以下のとおりです。https://<ssphostname>:<port>/ssp.
2. セルフサービス・ポータルにログインします。

デフォルトでは、LDAP アカウントに指定されている E メール・アドレスとパスワードが使用されます。


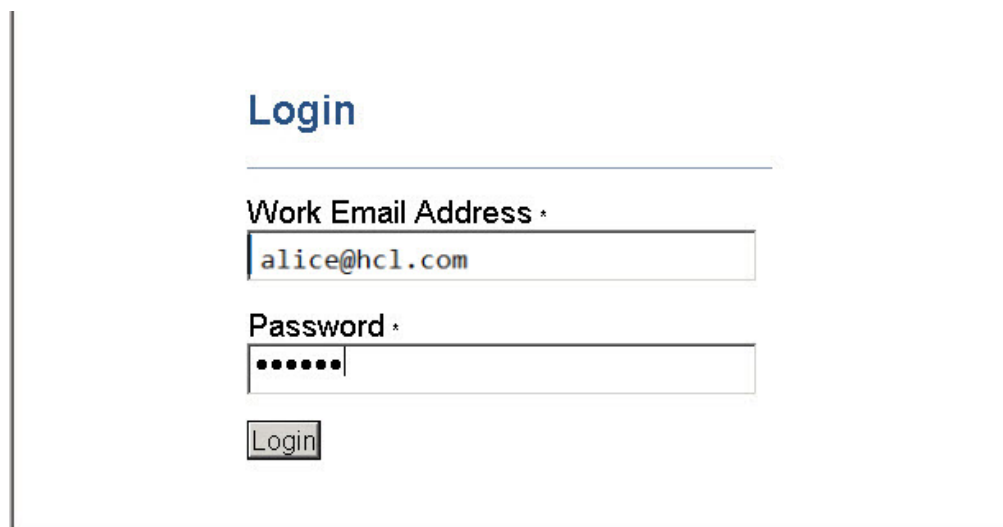

 **注:** コンソール・オペレーターは、トラステッド・サービス・プロバイダーの構成時にログイン属性を指定できます。ログイン属性には、ユーザー名または LDAP で使用可能なその他の任意のフィールドを指定できます。

図 60. セルフ・サービス・ポータルログイン・ページ



 **注:** セルフサービス・ポータルにログインしている場合、管理者がアプリケーション管理グループに対して行った変更はすぐには有効になりません。変更は次のログイン・セッションで確認できます。

コンピューターを追加するか、いずれかの登録済みコンピューターにソフトウェアをインストールできます。詳しくは、以下のトピックを参照してください。

- [セルフサービス・ポータルを使用したコンピューターの登録](#)
- [セルフサービス・ポータルからのソフトウェアのインストール](#)

セルフサービス・ポータルを使用したコンピューターの登録

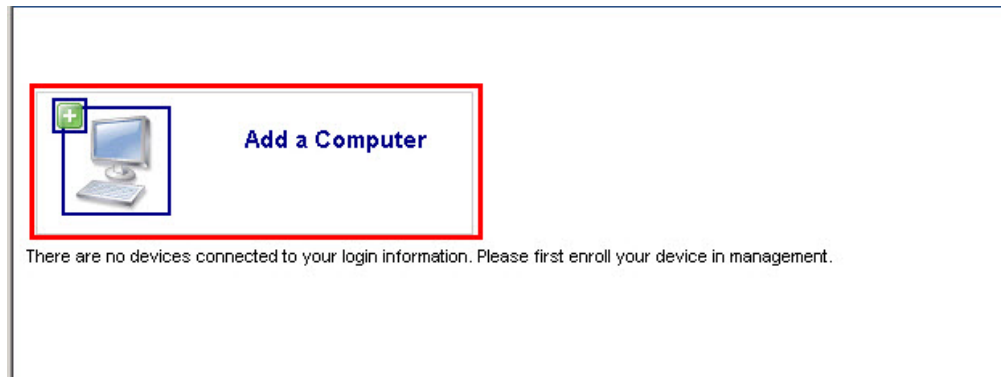
エンドポイント・ユーザーは、個人識別番号 (PIN) を使用して、セルフサービス・ポータルからコンピューターを自分自身に登録する必要があります。この手順は、エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルから自分のアカウントにコンピューターを登録する場合に使用します。

クライアント・ダッシュボードが最新バージョンであることを確認します。

1. セルフ・サービス・ポータルにログインします。
詳しくは、『[ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルへのアクセス](#)』を参照してください。
2. モバイル・デバイス管理セルフ・サービス・ポータルを有効にしている場合は、「**使用可能なソフトウェア**」タブをクリックします。

3. コンピューターの追加またはコンピューターのアイコンをクリックします。

図 61. コンピューターの追加

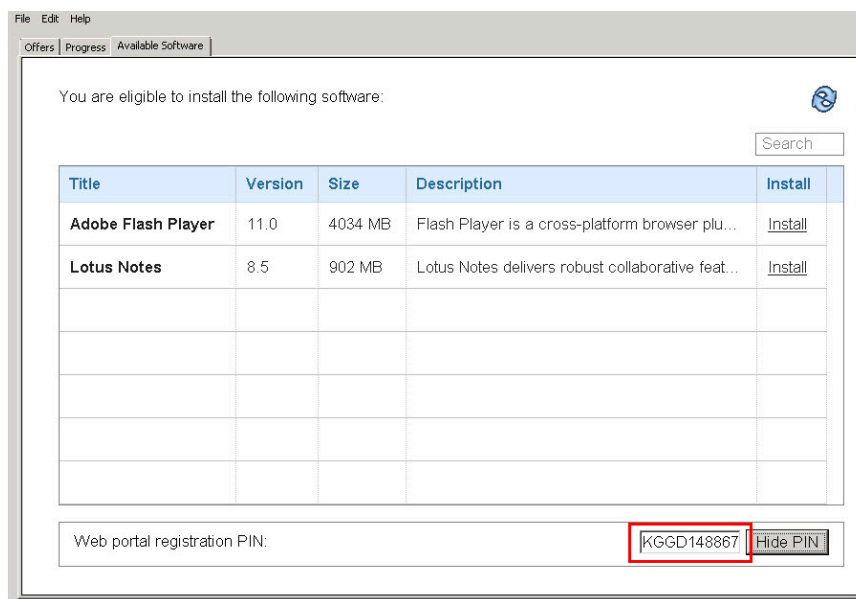


4. 登録するコンピューターの PIN を見つけます。

Windows コンピューター

PIN は、クライアント・ダッシュボードの「使用可能なソフトウェア」タブの下部に表示されます。

図 62. ソフトウェアのクライアント・ダッシュボードの Web ポータル登録 PIN




クライアント・ダッシュボードは、BigFix サポート・センターとも呼ばれます。このダッシュボードについて詳しくは、『[Software Offers のクライアント・ダッシュボード \(非推奨\)](#)』を参照してください。

以前のバージョンのクライアント・ダッシュボードでは、PIN は表示されません。PIN は `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\EnterpriseClient\SSP_PIN` にあります。

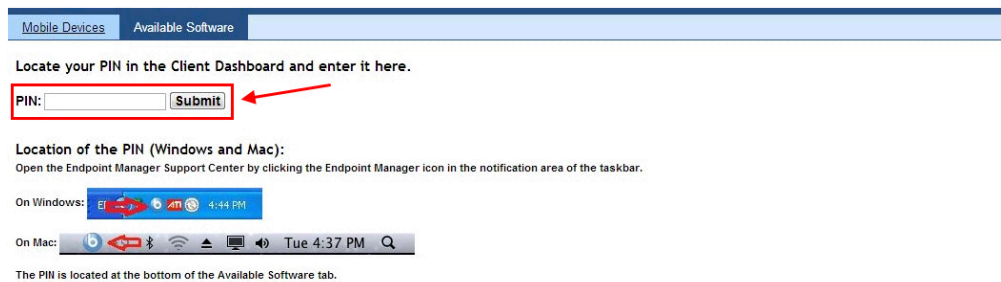
Mac および Linux コンピューター

PIN は `/var/opt/BESClient/SSP_PIN` にあります。

 **注:** PIN が見つからない場合は、IT 管理者にお問い合わせください。

5. セルフサービス・ポータルに PIN を入力します。

図 63. PIN の入力



コンピューターの登録が完了すると、コンピューターがセルフサービス・ポータルに追加されます。

エンドポイント・ユーザーは、登録されたコンピューターにインストールする使用可能なソフトウェアを表示して選択できます。詳しくは、『[セルフサービス・ポータルからのソフトウェアのインストール](#)』を参照してください。

ソフトウェア・インストールの状況

セルフサービス・ポータルには、各ソフトウェアのインストール状況が表示されます。

ソフトウェア状況は、以下のページのどちらからでも確認できます。

ソフトウェア・オファー・リスト・ページ

ソフトウェアの最新の状況が表示されます。

履歴ページ

特定のコンピューターに対して試行されたソフトウェアのインストールすべての状況が表示されます。

ソフトウェア・オファー・リストと履歴のビューに、ソフトウェア・インストールの状況が表示されます。状況は、以下のいずれかで表現されます。

使用可能

ユーザーがそのソフトウェアをデプロイしたことが一度もないことを指します。

保留

ユーザーが「インストール」をクリックした直後の場合に、この状況が表示されます。

完了しました

ユーザーが最後にそのソフトウェアをインストールしたときにインストールが成功した場合、この状況が表示されます。

失敗

ユーザーが最後にそのソフトウェアをインストールしたときにインストールが失敗した場合、この状況が表示されます。

ソフトウェアのインストールは、さまざまな理由で失敗する可能性があります。

- ソフトウェアをインストールする BigFix console 内の関連タスクが、失敗と評価したとき。
- BigFix console 内の関連タスクが、成功と評価する前に期限切れになったとき。
- 関連タスクが、アプリケーション管理グループにデプロイされた後にパッケージから削除されたとき。
- セルフサービス・ポータルが、BigFix サーバーに接続してソフトウェアをインストールするタスクを発行できない場合。この場合、BigFix console にはタスクは作成されません。



注: 以前にインストールされたソフトウェアは、以下のいずれかの状況でソフトウェア・オファー・リストに引き続き表示されます。「保留中」、「成功」、または「失敗」。ソフトウェアをオファー・リストに保持する理由は、エンドポイント・ユーザーにソフトウェアを再インストールするためのオプションを提供することです。

セルフサービス・ポータルからのソフトウェアのインストール

この手順は、エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルから自分のコンピューターにソフトウェアをインストールする場合に使用します。

- ご使用のコンピューターがセルフサービス・ポータルに登録されていることを確認してください。『[セルフサービス・ポータルを使用したコンピューターの登録](#)』を参照してください。
- さまざまなソフトウェア・インストール状況について十分に理解します。『[ソフトウェア・インストールの状況](#)』を参照してください。

1. セルフサービス・ポータルにログインします。
詳しくは、『[ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルへのアクセス](#)』を参照してください。
2. モバイル・デバイス管理セルフ・サービス・ポータルを有効にしている場合は、「**使用可能なソフトウェア**」タブをクリックします。
3. コンピューターをクリックして、そのコンピューターで使用可能なソフトウェアを表示します。



注: 以前にインストールされたソフトウェアは、以下のいずれかの状況でリストに引き続き表示されます。「保留中」、「成功」、または「失敗」。ソフトウェアをオファー・リストに保持する理由は、ソフトウェアを再インストールするためのオプションを提供することです。

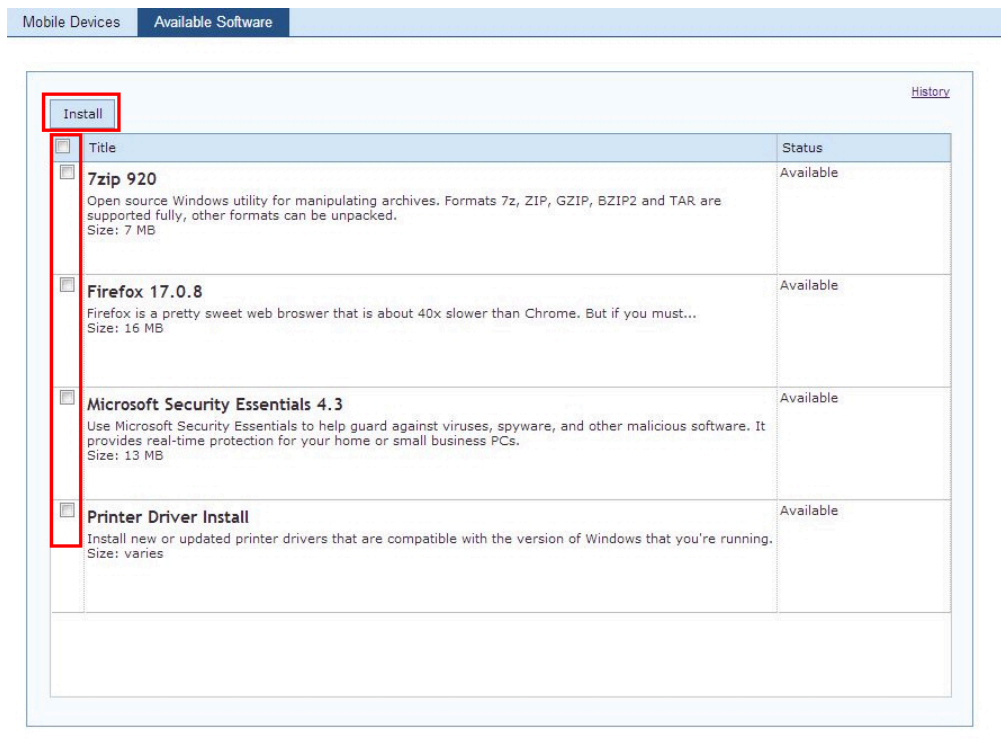
4. インストールする使用可能なソフトウェアを選択します。



注: ソフトウェアのリストには、現在のログイン・セッション中に管理者によって行われた変更が反映されていない可能性があります。変更は、ログアウトして再度ログインした後にのみ確認できます。

5. 「インストール」をクリックします。

図 64. 使用可能なソフトウェアのインストール



ソフトウェアが選択したコンピューターにインストールされている間に、ソフトウェアの状況が「使用可能」から「保留中」に直ちに变更されます。

インストール履歴の表示

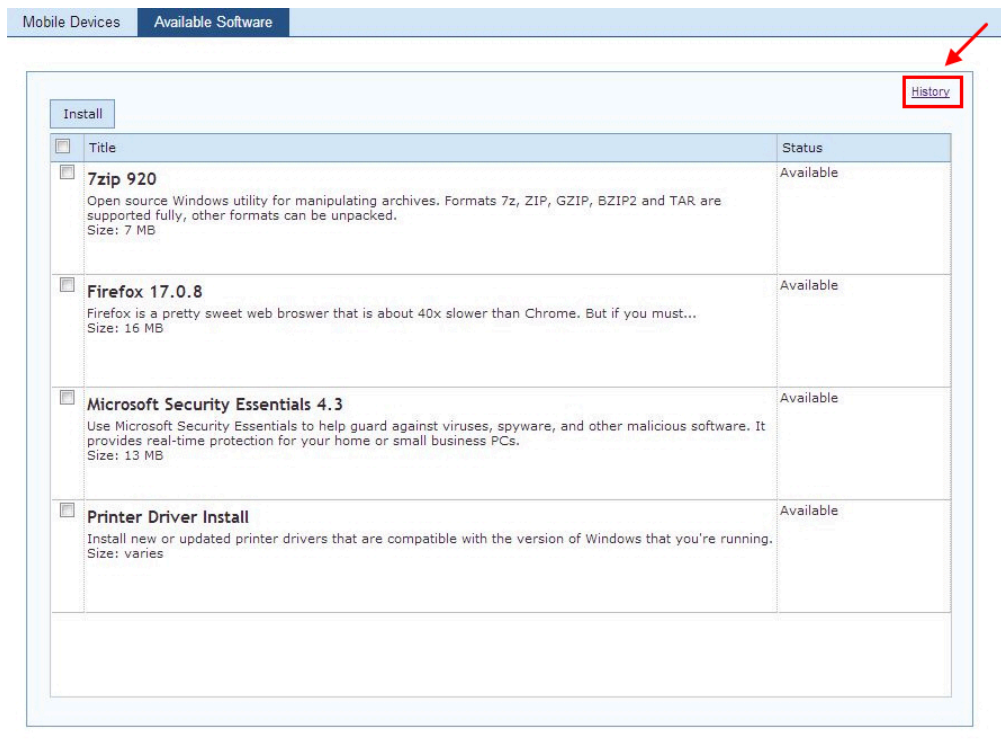
各登録済みコンピューターには、セルフサービス・ポータルから要求された各ソフトウェア試行のレコードを表示する「履歴」ビューがあります。この手順は、エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルから登録済みコンピューターのインストール履歴を表示する場合に使用します。

コンピューターの「履歴」ビューには、各ソフトウェア・インストール試行の状況が表示されます。使用可能な状況について詳しくは、『[ソフトウェア・インストールの状況](#)』を参照してください。

1. セルフ・サービス・ポータルにログインします。
詳しくは、『[ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルへのアクセス](#)』を参照してください。
2. モバイル・デバイス管理セルフ・サービス・ポータルを有効にしている場合は、「**使用可能なソフトウェア**」タブをクリックします。
3. インストール履歴を表示するコンピューターをクリックします。
そのコンピューターで使用可能なすべてのソフトウェアが表示されます。

4. 「履歴」をクリックします。

図 65. 「履歴」 リンク



選択したコンピューターに対するすべてのソフトウェア・インストール試行の履歴ビューが以下のイメージに示すように表示されます。

図 66. トランザクション履歴

Mobile Devices		Available Software
Back		
Title	Status	Created
7zip 920	Success	2013-08-21 16:13:49 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 16:10:04 -0700
Firefox 17.0.8	Success	2013-08-21 15:50:06 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 15:50:06 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 15:31:44 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 13:56:42 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 13:11:19 -0700
Firefox 17.0.8	Success	2013-08-21 13:10:44 -0700
Firefox 17.0.8	Success	2013-08-21 13:10:23 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 13:07:41 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 12:49:36 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 12:47:31 -0700
Firefox 17.0.8	Success	2013-08-21 12:35:01 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 12:34:31 -0700
7zip 920	Success	2013-08-21 12:20:40 -0700
Firefox 17.0.8	Success	2013-08-20 16:56:43 -0700
Firefox 17.0.8	Success	2013-08-20 23:51:49 +0000
7zip 920	Success	2013-08-20 16:43:01 -0700

セルフサービス・ポータルアンインストール

ソフトウェア配信サイトをサブスクライブ解除しても、セルフサービス・ポータルは自動的にアンインストールされません。

- ソフトウェア配信セルフサービス・ポータルをアンインストールするには、**ソフトウェア配信**サイトから以下の Fixlet をデプロイします。デプロイする Fixlet は、必要なアンインストール・レベルによって異なります。

Fixlet 201: セルフサービス・ポータル用のソフトウェア配信の無効化

セルフサービス・ポータル用のソフトウェア配信コンポーネントを無効にするには、この Fixlet を使用します。

Fixlet 146: セルフサービス・ポータルの削除

セルフ・サービス・ポータルを完全にアンインストールするには、この Fixlet を使用します。ポータルを削除すると、ユーザーはセルフ・サービス・ポータルを使用して自分のコンピューターとモバイル・デバイスを表示および管理することができなくなります。

- モバイル・デバイス管理セルフサービス・ポータルをアンインストールするには、**モバイル・デバイス管理**サイトから以下の Fixlet をデプロイします。デプロイする Fixlet は、必要なアンインストール・レベルによって異なります。

Fixlet 300: セルフサービス・ポータル用のモバイル・デバイス管理の無効化

セルフサービス・ポータル用のモバイル・デバイス管理コンポーネントを無効にするには、この Fixlet を使用します。

Fixlet 146: モバイル・デバイス管理用のセルフサービス・ポータルの削除

セルフ・サービス・ポータルを完全にアンインストールするには、この Fixlet を使用します。ポータルを削除すると、ユーザーはセルフ・サービス・ポータルを使用して自分のコンピューターとモバイル・デバイスを表示および管理することができなくなります。

第 6 章. Microsoft Application Virtualization (非推奨)

BigFix Software Distribution は、Microsoft Application Virtualization (App-V) パッケージの配布と管理をサポートします。

以下の App-v クライアントおよびパッケージがサポートされています。

- 4.5 SP1
- 4.5 SP2
- 4.6 Gold (32 および 64 ビット)
- 4.6 SP1 (32 および 64 ビット)
- 5.0 Gold (32 および 64 ビット)

App-V パッケージの配布と管理のサポートには、ストリーミングと測定用に別個の Microsoft System Center App-V 管理サーバーは必要ありません。Microsoft App-V Sequencer は、ソフトウェア配信を使用して配信できる仮想化アプリケーションを作成します。

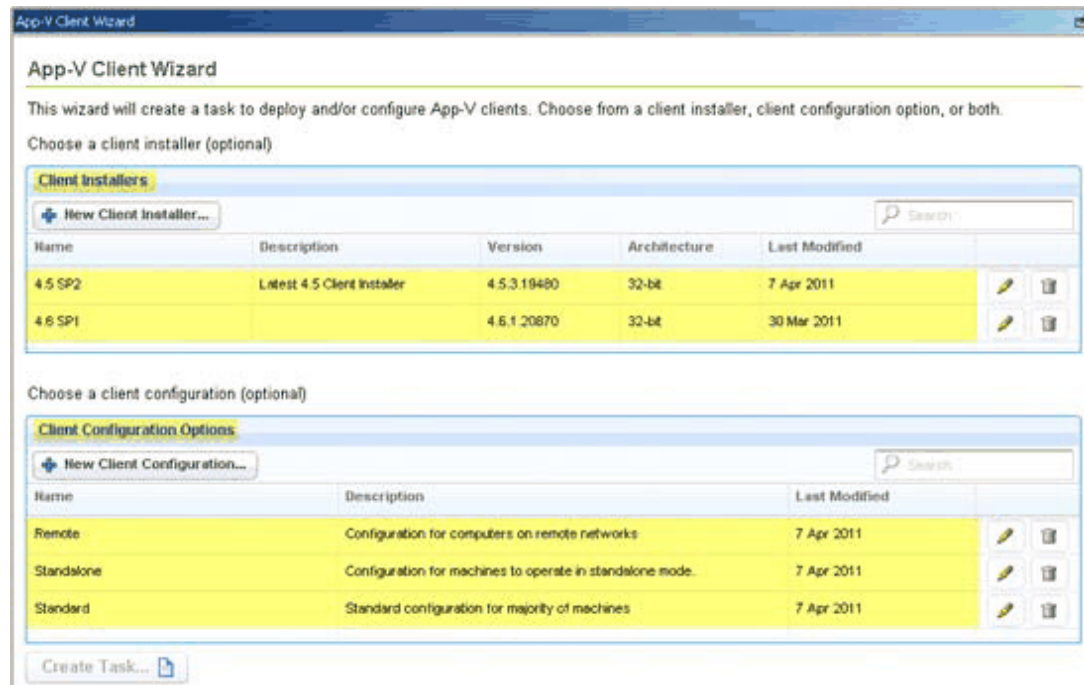
App-V サイトを使用するには、コンソール内の BigFix ドメインの下で「**ライセンスの概要**」ダッシュボードに移動して、「**Client Manager for Application Virtualization**」サイトを有効にします。App-V クライアントを必要とする任意のデスクトップをこのサイトにサブスクライブします。

App-V クライアントのデプロイ

BigFix console の App-V クライアント・ウィザードを使用して、App-v クライアントをインストール、構成します。

App-v クライアント・ウィザードを使用すると、クライアント・インストーラーを指定し、アップロードして使用できます。構成テンプレートをポリシーとして設定して適用することもできます。

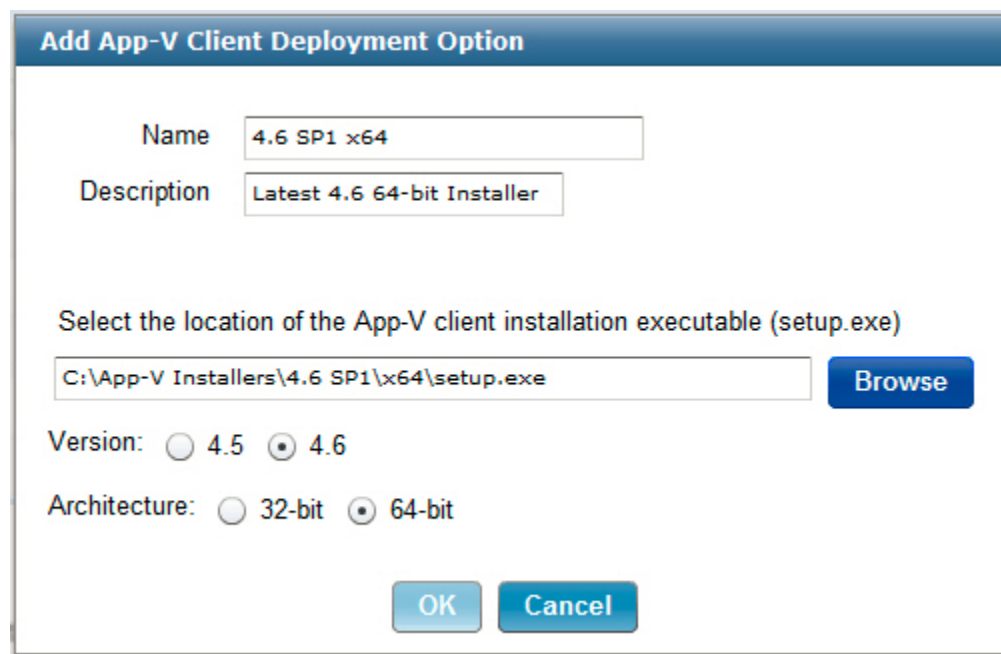
図 67. App-V クライアント・ウィザード



別のデプロイメント・オプションを作成するには、「**新規クライアント・インストーラー**」オプションを選択して、App-V クライアント・インストーラーの場所と、アップロードするインストーラーに関する情報を指定します。

既存のインストーラー・エントリーを編集するには、その行をダブルクリックするか、右側の**編集**アイコンをクリックします。**ごみ箱**アイコンをクリックすると、エントリーが削除されます。

図 68. App-V クライアント・デプロイメント・オプションの追加



構成を作成するには、「**新規クライアント構成**」を選択し、クライアントで設定するすべてのオプションを選択します。構成、オプション・サーバー、非管理ユーザーの許可など、さまざまな設定を変更できます。

既存の構成エントリを表示するには、その行をダブルクリックするか、「**編集**」をクリックします。

図 69. App-V クライアント構成オプションの追加

Add App-V Client Configuration Option

Name

Description

☒ Allow Independent File Streaming

☒ Require Authorization If Cached

☒ Allow Disconnected Operation

☒ Limit disconnected operation to (days):

☐ Work Offline

☐ Configure Client to use App-V Server

Protocol Path

Permissions

<input type="checkbox"/> AddApp	<input type="checkbox"/> ManageServers
<input type="checkbox"/> ChangeCacheSize	<input checked="" type="checkbox"/> ManageTypes
<input type="checkbox"/> ChangeFSDrive	<input checked="" type="checkbox"/> PublishShortcut
<input type="checkbox"/> ChangeLogSettings	<input checked="" type="checkbox"/> RefreshServer
<input type="checkbox"/> ChangeRefreshSettings	<input checked="" type="checkbox"/> RepairApp
<input checked="" type="checkbox"/> ClearApp	<input checked="" type="checkbox"/> ToggleOfflineMode
<input type="checkbox"/> DeleteApp	<input type="checkbox"/> UnloadApp
<input type="checkbox"/> ImportApp	<input type="checkbox"/> UpdateOSDFile
<input checked="" type="checkbox"/> LoadApp	<input type="checkbox"/> ViewAllApplications
<input checked="" type="checkbox"/> LockApp	



注: App-V クライアントでは、スタンドアロン・モードで実行するために

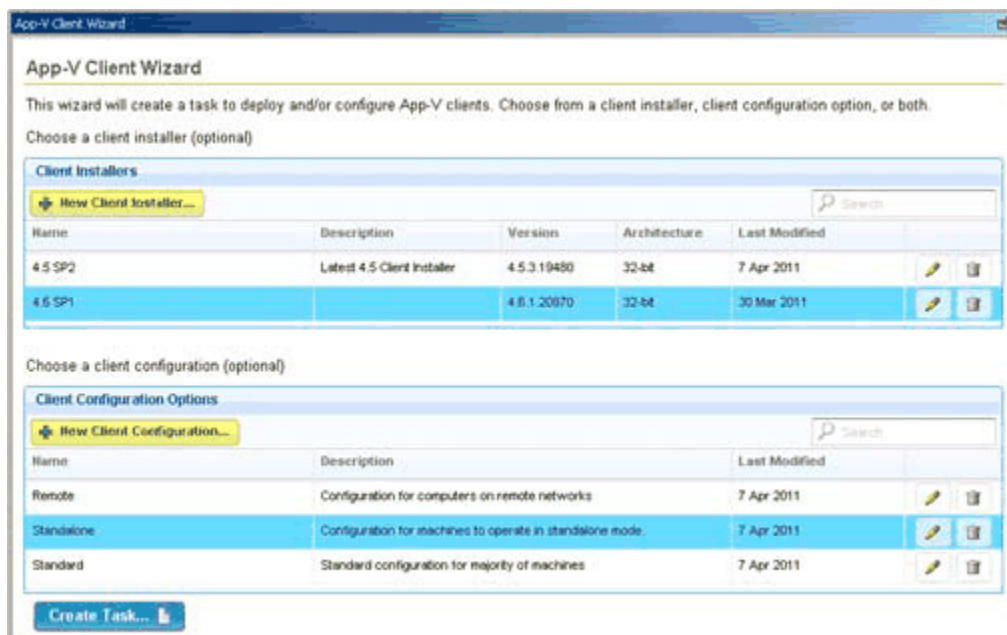
「AllowIndependentFileStreaming」設定が有効になっている必要があります。この設定は、App-V クライアント・デプロイメント・ダッシュボードで構成できます。

タスクを作成するには、以下の使用可能なクライアント・インストーラーおよび構成オプションから選択します。

- クライアント・インストーラーを使用してタスクを作成する場合、新規タスクにはクライアントのみがインストールされ、構成はデフォルトのままとなります。
- 構成を使用してタスクを作成する場合、新規タスクは既存のデプロイ済みの App-v クライアントの構成を変更します。
- クライアント・インストーラーと構成の両方を使用してタスクを作成する場合、タスクは App-V をデプロイおよび構成します。

少なくとも 1 つの項目を選択すると、タスクを作成できます。

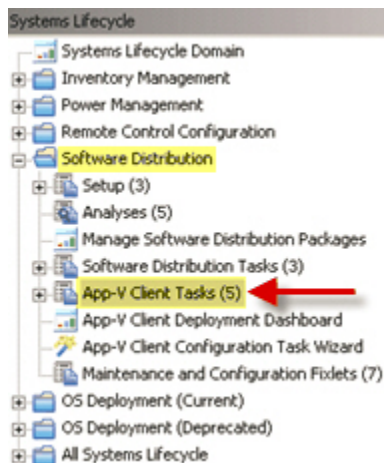
図 70. App-V クライアント・ウィザードからのタスクの作成



作成済みタスクは、ソフトウェア配信ナビゲーション・ツリーの「App-V クライアント・タスク」サブノードの下にシステム・ライフサイクル・ドメインにあります。

また、App-V クライアントをアンインストールするタスクを作成したり、保留中の構成変更のために App-V クライアント・サービスを再始動したりすることもできます。

図 71. App-V クライアント・タスクのナビゲーション・ツリー

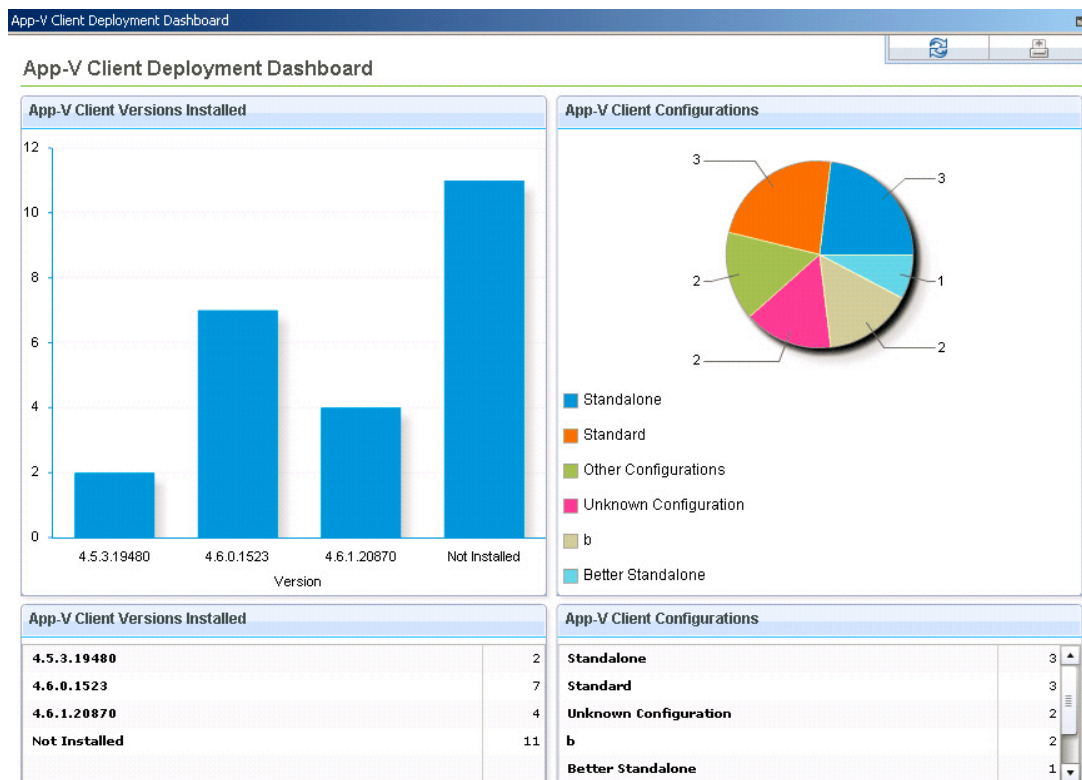


App-V クライアント状況の表示

「App-V クライアント・デプロイメント」ダッシュボードには、App-V クライアントのデプロイメントの概要 (インストールされているバージョンと構成設定を含む) が表示されます。

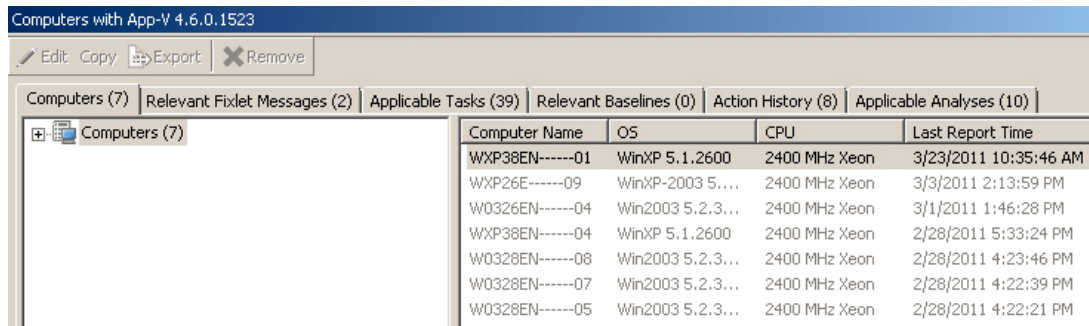
構成円グラフには上位 5 つの構成が表示されます。それ以外の構成はすべて「その他の構成」にグループ化されます。

図 72. App-V クライアント・デプロイメント・ダッシュボード



表内の棒、扇形、または項目をクリックすると、該当するコンピューターのリストが表示されます。

図 73. App-V がインストールされているコンピューター



Computer Name	OS	CPU	Last Report Time
WXP38EN-----01	WinXP 5.1.2600	2400 MHz Xeon	3/23/2011 10:35:46 AM
WXP26E-----09	WinXP-2003 5...	2400 MHz Xeon	3/3/2011 2:13:59 PM
W0326EN-----04	Win2003 5.2.3...	2400 MHz Xeon	3/1/2011 1:46:28 PM
WXP38EN-----04	WinXP 5.1.2600	2400 MHz Xeon	2/28/2011 5:33:24 PM
W0328EN-----08	Win2003 5.2.3...	2400 MHz Xeon	2/28/2011 4:23:46 PM
W0328EN-----07	Win2003 5.2.3...	2400 MHz Xeon	2/28/2011 4:22:39 PM
W0328EN-----05	Win2003 5.2.3...	2400 MHz Xeon	2/28/2011 4:22:21 PM

App-V パッケージの配布

App-V クライアントがインストールされたエンドポイントに、App-V パッケージをスタンドアロン・モードでデプロイします。

完全な App-V パッケージには、以下のファイルが含まれています。

- シーケンスされたアプリケーションのデータを含む `.sft` ファイル。
- App-V パッケージ内の各アプリケーションの `.osd` ファイル。
- App-V パッケージ全体に関する情報が含まれる `manifest.xml` ファイル。
- エンドポイントにアプリケーションを表示する際に使用されるアイコン・ファイル。

以上のファイルがまとめてパッケージ化されている場合、「ソフトウェア配信」ダッシュボードは、App-V クライアントがインストールされているエンドポイントに対して (ストリーミング・サーバーを経由せずに) スタンドアロン・モードで App-V パッケージをデプロイするデフォルトのインストール・コマンドを生成します。

App-V のシーケンサーは、`.msi` ファイルを生成することもできます。このファイルは、以下の条件が満たされた場合に、「ソフトウェア配信」ダッシュボードを使用してパッケージをデプロイおよびインストールするために使用できます。

- 上で説明したように、MSI に App-V パッケージ内の他のすべてのファイルが付属している。
- App-V クライアントがエンドポイントにすでにインストールされている。
- App-V クライアントの「AllowIndependentFileStreaming」設定が有効になっている。
- App-V がスタンドアロン構成 (ストリーミング・サーバーなし) で実行される場合、App-V クライアントの「RequireAuthorizationIfCached」設定値が 0 に設定されている。それ以外の場合は、アプリケーションをインストールする。ただし、アプリケーションがストリーミング・サーバーに接続できなかった場合は失敗する。

これらの条件は、タスクの関連度によってテストされます。ただし、パッケージをデプロイする前に、スタンドアロン・モードでパッケージを作成する必要があります。

App-V アプリケーション使用状況の表示

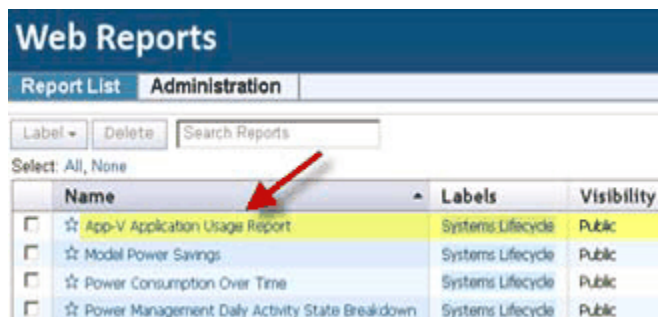
App-V アプリケーション使用状況レポートは、デプロイメントでアプリケーションがどのように使用されているかに関する情報を表示する Web レポートです。

このレポートは、「システム・ライフサイクル」カテゴリの「App-V アプリケーション使用状況レポート」にあります。

図 74. Web レポート

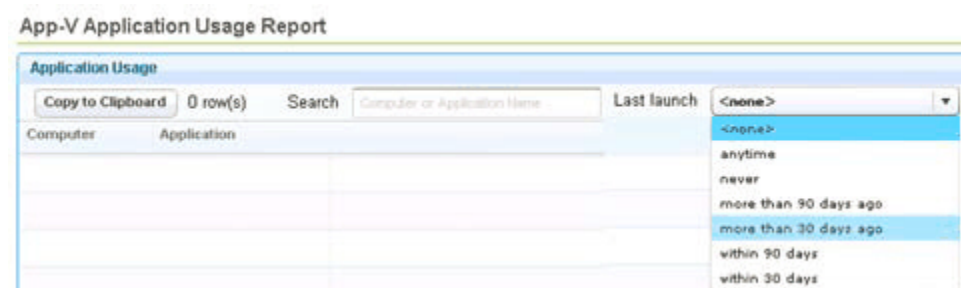


図 75. レポート一覧



このレポート内で、最後に起動したフィルター条件を選択します。

図 76. App-V アプリケーションの使用状況レポート



データは、Web レポート・サーバーから取得されます。「検索」ボックスを使用してデータを検索できます。

「Copy to Clipboard」機能を使用してデータをクリップボードにコピーし、別のプログラムにインポートすることもできます。



注: データ量が多くなると、Web レポートのパフォーマンスが低下する可能性があります。「最後に起動」以外の条件を使用してデータをさらにフィルタリングするには、最初に標準の Web レポート・フィルター・ダイアログを使用します。

Appendix A. Support

For more information about this product, see the following resources:

- [BigFix Support Portal](#)
- [BigFix Developer](#)
- [BigFix Playlist on YouTube](#)
- [BigFix Tech Advisors channel on YouTube](#)
- [BigFix Forum](#)

付録 B. よくある質問

このセクションは、質問と回答を通して BigFix Software Distribution への理解を深めるのに役立ちます。

パッケージの定義は何ですか？

パッケージとはコンテンツのバンドルであり、ソフトウェア配信製品の最も重要な部分です。パッケージには、特定のソフトウェア製品のインストールに必要なファイルのリストが含まれています。このリストには、実際のエンドポイントに製品をインストールするために必要な Fixlet も含まれています。パッケージは、ファイルと Fixlet の間の管理関係を確立します。

アプリケーション管理グループの定義は何ですか？

アプリケーション管理グループは、コンテンツをグループに分け、対象となるクライアント・コンピューターのグループに配信できるタスクの集合です。これらのタスクは、BigFix のクライアントにはオファーとして表示されます。

ソフトウェア配信での MST の役割は何ですか？

Microsoft の変換ファイル (MST) は、Microsoft インストーラー・ファイル (MSI) のサブファイルです。変換ファイルは、製品の言語、ライセンス・キー、コンポーネントの選択などのインストール・オプションを設定またはオーバーライドするために使用されます。ソフトウェア配信の状況下では、「配信タスクの作成」ウィザードを使用して、パッケージのタスクを自動的に生成できます。このウィザードは、パッケージに含まれる MST ごとにタスクを作成します。各タスクには `.mst` ファイルが 1 つずつ含まれています。



注: 1つのタスクに複数の `.mst` ファイルを適用する場合は、ウィザードでインストール・コマンドを入力する必要があります。



注: 別のタスクを使用して異なる MST を適用することはできますが、1つのソフトウェア配信タスクに適用できる MST は 1 つのみです。

「Fixlet の作成」ウィザードから Fixlet を作成しました。なぜ機能しないのでしょうか？

一般的な Fixlet オーサリング・サポートについては、BigFix サポート Web サイトの「[Fixlet オーサリング](#)」サポート・ページを参照してください。

現在のユーザー・モードで Fixlet を作成し、それをエンドポイントにデプロイしました。なぜエンドポイントにインストールされないのでしょうか？

このソフトウェアをインストールするには、ログイン・ユーザーに管理者権限が必要です。

Fixlet を作成するためにルート・ディレクトリーにインストール・ファイルが必要なのは、なぜですか？

ソフトウェア配信パッケージの構成については、BigFix サポート Web サイトの[技術情報](#)を参照してください。

エンドポイントにインストールされているパッケージのリストを見つけることができますか？

BigFix はソフトウェアを新しい形式で再パッケージ化しないため、ベンダーが指定したタグ (パッケージ GUID など) を使用します。これらの属性は、多くの共通パッケージ・システムの BigFix インベントリーにすでに収集されています。または、分析を使用して、ソフトウェアの一部がインストールされていることを示す属性を識別することもできます。BigFix SAM スキャナーはこの点において有用です。

パッケージの作成には、どのような推奨事項がありますか？

ソフトウェア配信パッケージの構成については、BigFix サポート Web サイトの[技術情報](#)を参照してください。

現在サポートされているファイル・タイプは何ですか？

BigFix Software Distribution では、どのようなファイル・タイプであってもデプロイできます。パッケージのインストール・コマンドの自動生成は、`.bat`、`.dmg`、`.exe`、`.msi`、`.msp`、`.osd`、`.pkg`、`.rpm`、`.spb`および App-V ファイルでサポートされています。

ソフトウェアをデプロイしても、そのコンピューターがまだパッケージに関連しているのはなぜですか？

自動生成された Fixlet 関連度は、共通パッケージ特性をサポートするために一般化されています。ソフトウェア・デプロイメント Fixlet の適用可能な関連度をさらにカスタマイズするには、「配信タスクの作成」ダイアログまたは「配信タスクの編集」ダイアログのいずれかで、「以下の適用可能条件で対象を絞り込む」を使用します。

ソフトウェア・パッケージに `setup.exe` と `.msi` が含まれている場合はどうすればいいですか？

これは、インストールするソフトウェアのタイプによって異なります。該当するソフトウェア・ベンダーに推奨事項を確認してください。

相対パスとは何ですか？

相対パスの概念は、パッケージにファイルを追加するときに使われることがあります。たとえば、この機能を使用して、MSI 変換ファイルを既存のパッケージに追加し、サブフォルダーに入れることができます。このパッケージに基づくオープンなアクションは、新規ファイルを利用する前に再作成する必要があります。詳しくは、BigFix サポート Web サイトの関連する[技術情報](#)を参照してください。

別のアクションを追加して、「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードで作成された Fixlet を変更しました。しかし、同じ Fixlet を再度編集すると、追加したアクションが消えています。どういふことでしょうか？

「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードは、Fixlet ごとに 1 つのアクションのみをサポートし、別のアクションが検出されると削除します。別のアクションが必要な場合は、同じパッケージに別の Fixlet を作成することを検討してください。

複数のインストールを 1 つのパッケージにバンドルする方法とは？

このプラクティスは推奨されません。代わりに、個別の Fixlets を作成し、ベースラインを使用して順序付けを指定します。詳しくは、「[ベスト・プラクティス](#)」セクションを参照してください。

BigFix コンソールを使用するシステムは、BigFix サーバーと通信する場合を除き、プロキシを経由するようにセットアップされています。「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードを使用してファイルをアップロードする際にも、そのプロキシを経由することに気が付きました。プロキシを通さない方法がありますか？

アップロード・マネージャー (アップロードを行うツール) が、プロキシ情報のネイティブ Windows 設定をチェックします。ファイルのアップロードでプロキシを経由しないようにするには、Windows のプロキシ設定でバイパス・リストを設定する必要があります。以下の手順を実行します。

1. 管理者としてコマンド・プロンプトを開きます。
2. 64 ビットの Windows システムの場合は、コマンド・プロンプトから `C:\Windows\systeXOW64\netsh.exe` を開きます。32 ビットの Windows システムの場合は、`C:\Windows\system32\netsh.exe` を使用します。
3. `netsh.exe` 端末で、「`winhttp`」と入力して Enter キーを押します。
4. `winhttp` 端末で、`set proxy proxy-server="<proxyURL:port>" bypass-list="<IEM-Server-address><other-addresses>;..."` と入力します。
5. バイパス・リストが更新されたかを確認するには、`winhttp` 端末に「`show proxy`」と入力して、バイパス・リスト設定が設定されているかどうかを確認します。

プロキシの設定について詳しくは、<https://technet.microsoft.com/en-us/library/Cc731131%28WS.10%29.aspx> で Microsoft TechNet の資料を参照してください。

自分の SPB タスクが関連しなくなる理由は何ですか？

SPB パッケージ・タイプをデプロイするには、まずエンドポイントの「TCM 用のクライアント・マネージャー」サイトから「SIE のデプロイ」タスクを実行する必要があります。SPB パッケージ・タイプの使用について詳しくは、「[サポートされるパッケージ・タイプ](#)」セクションを参照してください。

「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードに関連付けられているアクションはどれかを、どうすれば確認できますか？

「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードを使用して作成されたアクションには、次の形式のタイトルが付いています。SWD AMG Action: `title_of_the_originating_task`.

アプリケーション管理グループをデプロイするときに、コンピューター・グループが存在することを示すエラーが表示されるのはなぜですか？ どうすればよいでしょう。

アプリケーション管理グループをデプロイすると、そのアプリケーション管理グループ用の自動コンピューター・グループが作成されます。停止プロセス中に、コンピューター・グループの削除を要求するダイアログが表示されることがあります。この要求で「キャンセル」をクリックすると、グループは削除されません。次回アプリケーション管理グループをデプロイしようとする、コンピューター・グループが存在することを示すエラーが表示されます。このエラーを回避するには、コンピューター・グループを削除してから、アプリケーション管理グループを再度デプロイしてください。

アプリケーション管理グループをデプロイしようとしたときに別のエラーが発生した場合は、どうすればよいですか？

アプリケーション管理グループのデプロイ中に問題が発生した場合は、以下の手順を実行します。

1. アプリケーション管理グループを停止して、「「導入されていません」」の状態にします。
2. そのアプリケーション管理グループに対応するコンピューター・グループを削除します。
3. アプリケーション管理グループを再度デプロイします。

アプリケーション管理グループのアクションがクライアント・ダッシュボードに表示されない理由のはなぜですか？

クライアント・ダッシュボードで問題が発生した場合は、以下のステップを実行します。

1. クライアントがアプリケーション管理グループのカスタム・サイトをサブスクライブしていることを確認します。
2. クライアントが、アプリケーション管理グループにリストされているターゲットのうち少なくとも 1 つのメンバーであることを確認します。
3. カスタム・サイト内に、そのアプリケーション管理グループ用の自動コンピューター・グループがあることを確認します。ない場合は、アプリケーション管理グループを停止し、再度デプロイしてください。
4. アクションが参照する ID が、カスタム・サイト内の対応するコンピューター・グループの ID と一致していることを確認します。ID が一致しない場合は、以下のステップを実行します。
 - a. アプリケーション管理グループを停止します。
 - b. カスタム・サイト内の対応するコンピューター・グループを削除します。
 - c. アプリケーション管理グループを再度デプロイします。
5. 元のタスクがクライアントに関連していることを確認します。

デプロイ済みのアプリケーション管理グループで、コンピューター・グループをターゲットから削除しました。その後、アプリケーション管理グループを再同期しました。このアプリケーション管理グループのアクションが、削除されたコンピューター・グループのコンピューターにまだ関連しているのはなぜですか？

再同期時に、アプリケーション管理グループの既存の自動コンピューター・グループは、コンピューター・グループ・ターゲットの新しいリストで更新されます。コンピューター・グループの情報が更新される前にクライアントがアクションを受信することがあります。この問題を回避するには、デプロイ済みアプリケーション管理グループからコンピューター・グループが削除されるたびに、アプリケーション管理グループを停止してデプロイしなおします。

「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードのデバッグ・ログはどこにありますか？

次のステップに従って、ダッシュボードのデバッグ・モードをオンにします。

1. 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードをクリックし、ALT + CTRL + SHIFT + D を押します。「**デバッグ設定**」ウィンドウが開きます。
2. 「**診断パネル内の関数呼び出しの追跡**」チェック・ボックスを選択します。
3. 「ログ設定」セクションで、**デバッグに含めるようにレベルのスライダー**を動かします。
4. 「**デバッグ設定**」ウィンドウを閉じます。
5. Ctrl + F5 を押して、ダッシュボードを再ロードします。
6. エラー・メッセージが表示されたら、再度 Alt + Ctrl + Shift + D を押します。
7. 「**ダッシュボード・ログを表示**」をクリックします。

マスター・オペレーターのアプリケーション管理グループに関連するアクションが重複していることがわかります。どうすればよいでしょう。

以下の手順を実行します。

1. 「アプリケーション管理グループの管理」ダッシュボードで、**設定アイコン**をクリックします。
2. 「AMG アクション・キャッシュの消去」をクリックします。



注: マスター・オペレーターがソフトウェア配信サイト・バージョン 35 よりも前にアプリケーション管理グループをデプロイした場合は、キャッシュをクリアする必要があります。

セルフサービス・ポータルのおfferは、どのように作成すればよいですか？

セルフサービス・ポータルで使用可能になるofferを作成するには、「ポータルの提案」タスクをアプリケーション管理グループに追加する必要があります。

「ポータルの提案」を含むアプリケーション管理グループをデプロイしました。その後、デプロイメントを停止しました。ソフトウェア・offerが依然としてセルフサービス・ポータルに表示されているのはなぜですか？この動作は正常ですか？

コンピューターのソフトウェア・offerのリストは、ユーザーのログイン・セッションごとに1回生成されます。このセッションは、ユーザーがポータルにログオンした時間と見なされます。ソフトウェア・リストは、ユーザーがログアウトして再びログインするまで、アプリケーション管理グループのステータスに変更内容を組み込む更新を行いません。

セルフサービス・ポータルとトラステッド・サービス・プロバイダーのログはどこにありますか？

セルフサービス・ポータルおよびトラステッド・サービス・プロバイダーのログ・ファイルは、`<path_to_TEM_Server_directory>\MDM Provider\log` にあります。デフォルト・パスは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\log` です。

トラステッド・サービス・プロバイダーのパスワードを変更したら、エンドポイント・ユーザーがセルフサービス・ポータルにログインできなくなりました。どうすればよいでしょう。

`<path_to_TEM_Server_directory>\MDM Provider\config` にある `tsp-config.yaml` ファイルのパスワードを更新します。デフォルト・パスは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\config` です。

セルフサービス・ポータルで問題が発生しました。トラブルシューティングに関する情報はどこで入手できますか？

ポータルに関する情報は、「[分析 19: ソフトウェア配信セルフサービス・ポータル](#)」を参照してください。

トラステッド・サービス・プロバイダーとセルフサービス・ポータルが正常に構成されたかを確認する方法はありますか？

トラステッド・サービス・プロバイダーの場合

- トラステッド・サービス・プロバイダー診断ページを使用して、トラステッド・サービス・プロバイダーが正常に構成されたかを確認します。

このページでは、SSL 証明書を調べて、LDAP および BigFix への接続を試行します。また、サンプル関連照会の実行も試みます。

トラステッド・サービス・プロバイダーの診断ページの URL 構文は、次のとおりです。 `https://<your_host_name>/diagnostics`

• 構成ファイルを確認します。

1. `<path_to_TEM_Server_directory>\MDM Provider\config` にある `tsp-config.yaml` ファイルを開きます。デフォルト・パスは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\config` です。
2. 以下のフィールドのいずれかが欠落している場合は、トラステッド・サービス・プロバイダーを再構成します。
 - `:organization_name:`
 - `:hostname:`
 - `:ldap_admin_user:`
 - `:ldap_admin_pass:`
 - `:wr_path:`
 - `:wr_user:`
 - `:wr_pass:`
 - `:tem_user:`
 - `:tem_pass:`
 - `:tem_server:`

セルフ・サービス・ポータルの場合

- セルフサービス・ポータルの診断ページを使用して、セルフサービス・ポータルが正常に構成されているかを確認します。

このページは、認証登録に必要なトラステッド・サービス・プロバイダーへの接続を検査します。

「セルフサービス・ポータルの診断」ページの URL 構文は、次のとおりです。

`https://<your_host_name>/ssp/diagnostics`

• 構成ファイルを確認します。

1. `<path_to_TEM_Server_directory>\MDM Provider\config` にある `ssp-config.yaml` ファイルを開きます。デフォルト・パスは `C:\Program Files\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\config` です。
2. 以下のいずれかのフィールドが欠落している場合は、セルフサービス・ポータルを再構成します。
 - `:install_mode:`
 - `:organization_name:`
 - `:tsp_host:`
 - `:tsp_port:`
 - `:hostname:`

セルフサービス・ポータルポートはどうすれば変更できますか？

セルフサービス・ポータルポートを変更するには、以下の手順を実行します。

1. セルフサービス・ポータルをインストールしたボックスで `ssp-config.yaml` ファイルを変更します。この `ssp-config.yaml` ファイルは、`C:\Program Files (x86)\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Provider\config` で確認できます。
2. セルフサービス・ポータルとして機能するエンドポイントで **IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービスを停止します。
3. ホスト名の `ssp-config.yaml` ファイルを変更します。

```
:hostname: <host>:<new port>
```

4. **IBM Endpoint Manager for Mobile Devices** サービスを開始します。

PIN と登録情報はどこに保管されていますか？

この情報は、以下のレジストリー・キー内にあります。

- Windows コンピューターの場合

登録用の PIN

`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\EnterpriseClient\SSP_PIN`

登録ユーザー

`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\EnterpriseClient\SSP_Green`

ブロックされたユーザー

`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\BigFix\EnterpriseClient\SSP_Red`

- Mac、Linux、AIX、Solaris コンピューターの場合

登録用の PIN

`/var/opt/BESClient/SSP_PIN`

登録ユーザー

`/var/opt/BESClient/___BESData/SSP_Green`

ブロックされたユーザー

`/var/opt/BESClient/___BESData/SSP_Red`

セルフサービス・ポータルからのソフトウェア・インストールに失敗したとの報告をユーザーから受けました。アプリケーション管理にデプロイした後にタスクをパッケージから削除したときに、この問題が発生しました。どうすれば解決できますか？

タスクが存在しないため、タスクの発行ができません。コンソールの「アクション」ビューにも表示されません。削除したタスクを参照しているすべてのアプリケーション管理グループを検出して停止す

する必要があります。その後、存在しなくなったタスクへの参照を消去し、そのアプリケーション管理グループを再度デプロイします。

ソフトウェア配信サイトをサブスクライブ解除すると、セルフサービス・ポータルが削除されますか？

いいえ、ソフトウェア配信サイトをサブスクライブ解除しても、セルフサービス・ポータルは削除されません。セルフサービス・ポータルの削除について詳しくは、『[セルフサービス・ポータルのアンインストール](#)』を参照してください。

セルフサービス・ポータルへのログインを試行したときに、「“トラステッド・サービス・プロバイダーに接続できませんでした”というエラーが発生しました。どうすればよいでしょう。

通常、このエラーは、セルフサービス・ポータルが削除され、再びインストールされたときに発生します。このエラーが発生する場合、以下のステップを実行してください。

1. `https://<your_host_name>/ssp/diagnostics` の「セルフサービス・ポータルの診断」ページに移動します。
2. **TSP 接続テスト**および **TSP ルート CA** が「接続拒否」と表示される場合は、セルフサービス・ポータル用の証明書ファイルを削除します。証明書ファイルはこちらにあります。
`<path_to_TEM_server_directory>\BigFix Enterprise\Management Extender\MDM Providers\MDMExtender\private\ssp\trusted_certs \<your_certificate_file>.pem`



注: 証明書ファイルは、次回セルフサービス・ポータルにログインしたときに自動的に生成されます。

セルフサービス・ポータルを構成しましたが、URL が見つかりません。

ソフトウェア配信およびモバイル・デバイス管理は、SSP コンポーネントを共有しています。モバイル・デバイス管理の特定のエクステンダーを削除せずにモバイル・デバイス管理サイトをサブスクライブ解除した場合に、この問題が発生する可能性があります。この問題を修正するには、モバイル・デバイス管理サイトを再度サブスクライブし、そのエクステンダーを適切に削除してからサイトをサブスクライブ解除します。

ソフトウェア配信タスクを削除しましたが、`C:\Program Files\BigFix Enterprise\BES Server\wwwrootbes\Uploads` のフォルダーに保管されている SHA1 フォルダー内のパッケージが自動的に削除されません。なぜですか？ また、どうすべきですか？

「ソフトウェア配信」ウィザードを使用してタスクを作成した場合、自動クリーンアップは行われません。ウィザードはこのような仕様になっています。リポジトリのファイルまたはフォルダーを手動で検索、削除する必要があります。パイロードのクリーンアップは、すべて手動で行う必要があります。ソフトウェア配信タスクを作成するには、「ソフトウェア配信」ウィザードではなく「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードを使用することをお勧めします。

「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードを使用してタスクを作成したにもかかわらず、タスクの削除時にそのパッケージが自動的に削除されない場合は、以下のことを確認してください。

- ソフトウェア配信パッケージからファイルを削除した
- ファイルを参照するすべてのタスクを削除した
- ファイルを参照するすべてのオープンなアクションを停止した

これらの対策のいずれも実行しなかった場合、ファイルと sha1 フォルダーは残ります。

Mac エンドポイントへの .pkg ファイルのインストールは成功しましたが、タスクが関連したままです。なぜでしょうか？ソフトウェアのインストールが本当に成功したかをどうすれば確認できますか？

エンドポイントに Mac の .pkg ファイルがインストールされているかを確認するインスペクターがまだ利用できないため、このタスクは関連したままになっています。パッケージが正常にデプロイされたかを手動で確認する方法については、『[パッケージ・タイプの検証](#)』を参照してください。



注: .pkg ファイルを再インストールしても問題は発生しません。

作成したソフトウェア・パッケージを 1 つの BigFix デプロイメントから別のデプロイメントに簡単に移行できますか？

はい。「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードからソフトウェア・パッケージを簡単にエクスポートおよびインポートできるようになりました。この機能について詳しくは、『[パッケージのインポートおよびエクスポート](#)』を参照してください。

ソフトウェアのデプロイ・アクションの状況が、デプロイされたアプリケーションのインストール状況を正確に反映していないのはなぜですか？

ソフトウェア配信は、多くの場合、ソフトウェアのインストールが成功したかを判別できません。実際のパッケージのインストールに関連する問題は、ソフトウェア配信の制御外にあります。パッケージを実行しても、その実行の結果を追跡することはできません。

Solaris の .pkg ファイルのインストールが失敗する理由は何ですか？

Solaris の .pkg ファイルは、競合が原因で失敗することがあります。デフォルトでは、競合が発生したらインストールを終了します。競合を無視してインストールを続行する場合、アクション・スクリプトを編集してその値を変更できます。conflict、idepend、rdepend の 3 つは、デフォルトで「quit」に設定されています。「quit」を「nocheck」に変更し、タスクを再度実行してください。

App-V 5.0 クライアント・タスクを作成しましたが、このタスクとエンドポイントとの関連付けされるのを確認できません。

App-V 5.0 クライアントが以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

- Microsoft .NET Framework 4
- Windows Powershell 3.0
- Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ (x86)
- KB2533623 以降をダウンロードおよびインストール

詳しくは、<https://technet.microsoft.com/en-us/library/jj713458.aspx> で Microsoft ドキュメントを参照してください。

ブリインストール・コマンドとポストインストール・コマンドを追加しましたが、コマンドが失敗しました。

構文が正しいことを確認してください。ダッシュボードは、アクション・スクリプト、バッチ・スクリプト、またはシェル・スクリプト・コマンドの妥当性を検査しません。これらのスクリプト・タイプは単なるラッパーであるため、アクション・スクリプトを直接編集する必要はありません。

インポートまたはエクスポートの実行に時間がかかりすぎています。この遅延の原因として何が考えられますか？

サイズが大きく数量が多いパッケージをインポートおよびエクスポートすると、大量のデータが原因で処理に時間がかかる場合があります。ログを調べて、プロセスが実行を停止したかを確認してください。停止していた場合、プロセスを再始動してください。

エクスポートとインポートに失敗する原因として考えられるものはありますか？

エクスポートまたはインポートが失敗した理由を調べるには、`<Windows Temp>\SoftwareDistributionLogs\<Export or Import>` のコンソール・システムからログを確認します。

考えられる原因は以下のとおりです。

ファイル名または Fixlet の名前が長すぎます。

アップロードされたインストール・ファイルまたは Fixlet のファイル名が 100 文字を超えると、エクスポート・プロセスとインポート・プロセスが失敗する可能性があります。

この問題を修正するには、コンソール内のファイル名または Fixlet の名前を短くしてください。圧縮ファイル内のファイル名の変更は推奨しません。

リソースがロックされています。

この問題は、インポートまたはエクスポート・プロセスが途中で終了した場合に発生します。例としては、エクスポートまたはインポート・プロセスの進行中にダッシュボードを閉じた場合が挙げられます。

この問題を修正するには、BigFix コンソールを再開してコンソール・キャッシュを消去するか、システムを再起動してください。

zip または unzip ユーティリティのダウンロードができません。

エクスポートとインポートを処理するために、事前にダウンロードされていない場合、ダッシュボードで zip または unzip ユーティリティをダウンロードする必要があります。ダウンロードに失敗した場合は、構成解除されたプロキシ設定が原因である可能性があります。ダッシュボードは、コンソールの他の部分と同じプロキシを使用しません。この問題を修正するには、Internet Explorer のインターネットオプションを使用してプロキシ設定を構成します。

パッケージをエクスポートできませんでした。エクスポート・ログに、“予期しない HTTP 応答: 404 Not found” というエントリーがあります。どうすればよいでしょう。

サーバー上にファイルが見つからなかったため、エクスポートできませんでした。ファイルが BigFix サーバーで削除された場合、またはファイルが元々別のファイル名でアップロードされていた場合、ファイルが欠落している可能性があります。

この問題を修正するには、以下の手順を実行します。

1. ファイルが事前に以下の場所 `<IEM Server directory>/wwwrootbes/Uploads/<sha1 of file>` の BigFix サーバーにアップロードされているかを確認します。sha1 フォルダーが存在する場合は、その sha1 フォルダーを削除します。
2. 「ソフトウェア配信の管理」ダッシュボードを更新します。欠落しているファイルの横に X マークが表示されます。変更がダッシュボードに反映されるまでに数分かかる場合があります。
3. 欠落しているファイルを再度アップロードします。

ファイルの URL を指定しましたが、ファイルのダウンロードに失敗しました。どのようにトラブルシューティングすればよいですか？

トラブルシューティングには、以下の 2 つの方法があります。

- ファイルの URL が正しいことを確認します。
- ブラウザーでファイルをダウンロードできるかを確認します。
- Internet Explorer のインターネットオプションでプロキシ設定を確認します。ダッシュボードは、コンソールの他の部分と同じプロキシを使用しません。
- `<Windows Temp>\SoftwareDistributionLogs\Downloads` にあるダウンロード・ログを確認します。

Notices

This information was developed for products and services offered in the US.

HCL may not offer the products, services, or features discussed in this document in other countries. Consult your local HCL representative for information on the products and services currently available in your area. Any reference to an HCL product, program, or service is not intended to state or imply that only that HCL product, program, or service may be used. Any functionally equivalent product, program, or service that does not infringe any HCL intellectual property right may be used instead. However, it is the user's responsibility to evaluate and verify the operation of any non-HCL product, program, or service.

HCL may have patents or pending patent applications covering subject matter described in this document. The furnishing of this document does not grant you any license to these patents. You can send license inquiries, in writing, to:

HCL
330 Potrero Ave.
Sunnyvale, CA 94085
USA
Attention: Office of the General Counsel

For license inquiries regarding double-byte character set (DBCS) information, contact the HCL Intellectual Property Department in your country or send inquiries, in writing, to:

HCL
330 Potrero Ave.
Sunnyvale, CA 94085
USA
Attention: Office of the General Counsel

HCL TECHNOLOGIES LTD. PROVIDES THIS PUBLICATION "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Some jurisdictions do not allow disclaimer of express or implied warranties in certain transactions, therefore, this statement may not apply to you.

This information could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein; these changes will be incorporated in new editions of the publication. HCL may make improvements and/or changes in the product(s) and/or the program(s) described in this publication at any time without notice.

Any references in this information to non-HCL websites are provided for convenience only and do not in any manner serve as an endorsement of those websites. The materials at those websites are not part of the materials for this HCL product and use of those websites is at your own risk.

HCL may use or distribute any of the information you provide in any way it believes appropriate without incurring any obligation to you.

Licensees of this program who wish to have information about it for the purpose of enabling: (i) the exchange of information between independently created programs and other programs (including this one) and (ii) the mutual use of the information which has been exchanged, should contact:

HCL

330 Potrero Ave.

Sunnyvale, CA 94085

USA

Attention: Office of the General Counsel

Such information may be available, subject to appropriate terms and conditions, including in some cases, payment of a fee.

The licensed program described in this document and all licensed material available for it are provided by HCL under terms of the HCL Customer Agreement, HCL International Program License Agreement or any equivalent agreement between us.

The performance data discussed herein is presented as derived under specific operating conditions. Actual results may vary.

Information concerning non-HCL products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. HCL has not tested those products and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-HCL products. Questions on the capabilities of non-HCL products should be addressed to the suppliers of those products.

Statements regarding HCL's future direction or intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only.

This information contains examples of data and reports used in daily business operations. To illustrate them as completely as possible, the examples include the names of individuals, companies, brands, and products. All of these names are fictitious and any similarity to actual people or business enterprises is entirely coincidental.

COPYRIGHT LICENSE:

This information contains sample application programs in source language, which illustrate programming techniques on various operating platforms. You may copy, modify, and distribute these sample programs in any form without payment to HCL, for the purposes of developing, using, marketing or distributing application programs conforming to the application programming interface for the operating platform for which the sample programs are written. These examples have not been thoroughly tested under all conditions. HCL, therefore, cannot guarantee or imply reliability, serviceability, or function of these programs. The sample programs are provided "AS IS," without warranty of any kind. HCL shall not be liable for any damages arising out of your use of the sample programs.

Each copy or any portion of these sample programs or any derivative work must include a copyright notice as follows:

© (your company name) (year).

Portions of this code are derived from HCL Ltd. Sample Programs.

Trademarks

HCL Technologies Ltd. and HCL Technologies Ltd. logo, and hcl.com are trademarks or registered trademarks of HCL Technologies Ltd., registered in many jurisdictions worldwide.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, and the PostScript logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States, and/or other countries.

Java and all Java-based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates.

Microsoft, Windows, Windows NT, and the Windows logo are trademarks of Microsoft Corporation in the United States, other countries, or both.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds in the United States, other countries, or both.

UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries.

Other product and service names might be trademarks of HCL or other companies.

Terms and conditions for product documentation

Permissions for the use of these publications are granted subject to the following terms and conditions.

Applicability

These terms and conditions are in addition to any terms of use for the HCL website.

Personal use

You may reproduce these publications for your personal, noncommercial use provided that all proprietary notices are preserved. You may not distribute, display or make derivative work of these publications, or any portion thereof, without the express consent of HCL.

Commercial use

You may reproduce, distribute and display these publications solely within your enterprise provided that all proprietary notices are preserved. You may not make derivative works of these publications, or reproduce, distribute or display these publications or any portion thereof outside your enterprise, without the express consent of HCL.

Rights

Except as expressly granted in this permission, no other permissions, licenses or rights are granted, either express or implied, to the publications or any information, data, software or other intellectual property contained therein.

HCL reserves the right to withdraw the permissions granted herein whenever, in its discretion, the use of the publications is detrimental to its interest or, as determined by HCL, the above instructions are not being properly followed.

You may not download, export or re-export this information except in full compliance with all applicable laws and regulations, including all United States export laws and regulations.

HCL MAKES NO GUARANTEE ABOUT THE CONTENT OF THESE PUBLICATIONS. THE PUBLICATIONS ARE PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, NON-INFRINGEMENT, AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.